

令和6年度 事業報告書

大慈厚生事業会

	施設名等	ページ
1	法人本部	P 1～P 7
2	大慈弥勒園	P 8～P 1 5
3	大慈ショートステイ	P 1 6～P 1 8
4	大慈デイサービスセンター	P 1 9～P 2 1
5	大慈吉祥園	P 2 2～P 2 5
6	特定施設入所者生活介護事業所 大慈吉祥園	P 2 6
7	ヘルパーステーション大慈	P 2 7
8	大慈智音園	P 2 8～P 3 6
9	大慈智音園ショートステイ	P 3 7～P 3 9
10	ケアハウス大慈	P 4 0～P 4 6
11	大慈ショートステイさくら	P 4 7～P 5 0
12	西神南あんしんすこやかセンター	P 5 1～P 5 4
13	居宅介護支援事業所 大慈園	P 5 5～P 6 0
14	大慈幼保連携型認定こども園	P 6 1～P 6 6
15	大慈ひょうご幼保連携型認定こども園	P 6 7～P 7 1
16	大慈ほまれ幼保連携型認定こども園	P 7 2～P 7 6
17	大慈あい小規模保育園	P 7 7～P 7 9
18	大慈さち小規模保育園	P 8 0～P 8 3
19	神戸市立たちばな児童館	P 8 4～P 8 9
20	神戸市立たちばな児童館放課後児童クラブ	P 9 0～P 9 4
21	湊学童保育コーナー	P 9 5～P 1 0 1
22	ハーバー大慈	P 1 0 2～P 1 0 5
23	大慈学童クラブ	P 1 0 6～P 1 0 8
24	おやこふらっとひろば中央	P 1 0 9～P 1 1 2
25	大慈さくら保育園	P 1 1 3～P 1 1 6

1. 《経営理念》

- ①時代の変遷にともない、福祉ニーズの変化を敏感に把握し、社会の人々のために、良質な福祉サービスを提供する。
- ②いつでも、どこでも、誰でもが必要な時に最善の福祉サービスを提供できるように日々研究努力する。
- ③All for One, One for All [全てが一人の為に、一人が全ての為に]

2. 《基本方針》

- ・法人の設立方針である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、人権を尊重した運営をする
- ・各施設の基本方針を尊重する
- ・社会的に評価を得られるよう努める

3. ～社会福祉法人を取り巻く環境が急速に変化している現代～

令和7年に向けて、高齢者人口が増加した後、その増加は緩やかになるとともに生産人口の減少が加速することが予想されている。こうした中、福祉ニーズの複雑化・多様化・地域社会の変化に対応していくために私達に出来ることを考え、社会福祉法人としての存在意義を追求し、良質な福祉サービスの提供を継続し続ける大慈厚生事業会を目指す。

法人ヴィジョン「創設者の思いを胸に、常に改革を」

4. 《令和6年度目標》

- ①新規事業に向けて準備・計画をする
神戸市との意見交換会を行った。

②各部門施設管理者の育成

法人運営会議で情報共有や話し合いを行った。

「夢プロジェクト」の実施

目的：部門間の見える化を進め、風通しの良いチーム作り

- 青年協主催の「経営計画策定ゼミナール」に各部門から代表者が参加し、法人の中長期計画を策定した。来年度は、チームに分かれて計画の実施を行う。
- IT研修の実施。業務の効率化・情報共有・データの管理分析等にITスキルを使うことで質の向上や効率化が出来るように、まずは管理者がITリテラシーを上げることを目的に2年計画で研修を行う（令和6年12月より月に2回実施）

5. 《会議》

法人運営会議	R6/4/22、5/14、6/19、7/22、8/19、9/18、10/30、11/18、12/23、 R7/1/23、2/25、3/19
予算・経営会議	R6/10/31、R7/1/6

6. 《行事等》

日付	行事等
5月20日・21日	監事監査
5月28日	理事会（事業報告、決算他）
6月14日	定時評議員会（決算、社会福祉充実残高）
6月25日	資産登記
9月18日	緊急理事会（管理者選任・規程変更他）
11月25日	理事会（補正予算・見守りシステム入札の件他）
12月20日	見守りシステム入札
1月31日	理事会（事業計画・予算・二次補正予算他）

7. 《総括》

新規事業については、意見交換は行ったが、今年度も進捗がほとんどない状況であった。また今年度は、退職金制度に「福祉はぐくみ企業年金基金」を導入し、福利厚生の実現と法定福利費の削減を実現できた。

法人の明るい未来を創るために立ち上げた「夢プロジェクト」では、中長期計画策定を実現できた。その中で部門の課題の共有や意見交換を重ね、相互理解が進んだ。

来年度は、計画の実施と理念研修の創設を目指す。

また、IT研修では管理者のITリテラシーを上げることから始めているが、最終的には、現場の業務効率化を目的としている。来年度も引き続き学びを深め、現場への落とし込みを模索しながら、進めていく。

振り返ると、「夢プロジェクト」を通して法人として多くの事業に取り組んだ1年であった。この流れを大切に、法人として生き抜く力を今後も積み重ねていくために、これらの事業を来年度以降も継続していく。

☆高齢者部門

1. 《目標》

すべての人（ゲスト・職員・ご家族）がより健康に、より幸福に。

～ウェルビーイングを目指して～

- ・組織力向上プロジェクトの実施
- ・安定した採用と利用者確保をすすめる。
- ・急速冷凍機の導入

2. 《行動計画》

- ①チームコーチングを活用し、リーダー育成やチーム作りを行う
- ②部署内、部署間、施設間での話し合いを重ね、ボトムアップを基本とした組織作りの継続
- ③広報では、ホームページをリニューアルし、SNS活用を継続する。
- ④急速冷凍機の導入準備をする部門を立ち上げる

3. 《総括》

①② 組織力向上に向けたチーム形成と行動の明確化

部署内・施設間・職種間におけるチーム作りを実施し、各現場の強みや課題の洗い出しを行った。各チームでは、個々の悩みや意見を共有しながら目標と目的を明確化し、それに基づいた行動計画を策定。これにより職員の行動が可視化され、組織全体の一体感と自律性が向上した。

人事評価制度の改定に伴い発足した「給与」「評価」「役割」の3チームは、それぞれの分担業務に加え、チーム間連携を推進し、新評価制度の構築を達成。本プロジェクトでは、すべてのメンバーが主体的かつ真剣に取り組み、各自の自信と意欲の向上につながった。なお、新制度の運用に関する評価は令和7年度に実施予定である。

③ 広報活動の進展

ホームページのリニューアルは令和7年度に持ち越しとなったが、SNSの活用においては、行事数の増加に伴い投稿件数が増加。職員がSNS投稿を意識するようになったことで、ゲストの楽しみに配慮した行事企画が促され、「行事＝わくわくするもの」と捉える前向きな姿勢が生まれ、モチベーションの向上につながった。

④ 急速冷凍機導入に向けた準備体制の構築

急速冷凍機導入に向けた専任チームを立ち上げ、目標と目的をチーム内で共有した結果、行動や考え方の統一が図られ、導入準備が円滑に進行する体制を整備した。今後は導入スケジュールと運用方法の具体化に取り組む予定である。

4. 《人財確保と育成等》

①人財確保 新卒10名採用

人財の採用については、新卒は2名に留まった。

②人財育成計画

人財育成の第一歩として、人事評価制度の見直しを実施。これにより、各職員の役割が明確化され、権限移譲も進展。上司による評価と職員自身の自己評価との間に存在していた乖離の具体的内容が明らかとなり、乖離を埋めるために必要な支援やサポートを提供するための土台が整いつつある。

あわせて、目標や目的を意識し、行動計画に基づいて日々の業務に取り組む体制を整備する中で、PDCAサイクル実践の重要性を再認識した。特に管理者会議においては、「C（チェック）」および「A（アクション）」の実行力が不十分であることが判明し、今後の強化が必要であると捉えている。

チェックの質を高めることで、よりの確な支援やフォローが可能となり、面談の効果向上にもつながる見通しである。次年度の課題として、面談スキルの向上およびマネジメント力の強化を掲げる。

③福利厚生等

- ・令和6年7月、勤続年数に応じた表彰を実施し、長年勤務した職員に対し感謝と敬意を表した。
- ・入社式では、「職員が選ぶ職員（＝職員オブ職員）」の表彰を行い、職員同士が互いを称え合う機会とした。
- ・職員旅行に関しては、アンケート調査を実施し、職員の希望を反映した旅行計画を策定。旅行は令和7年度に実施予定。

5. 《地域貢献事業》

実施日時	関連団体	内容
毎月2回（4月・9月休み）	井吹東まちづくり協議会	健康クラブ（体操教室）
毎月第二火曜日	櫛谷地区 おもと会	参加者の送迎事業
毎月第二水曜日	井吹東まちづくり協議会	生きがいデイサービス
適宜	櫛谷 農福連携チーム	種まき・収穫・草とり
4月24日	井吹西町住民	井吹西町 たまり場
5月17日	櫛谷農福連携チーム	農福連携の打ち合わせ
6月23日	櫛谷川愛護協会	櫛谷川清掃
6月26日	井吹西町住民	井吹西町 たまり場
7月20日	井吹西児童館	児童館夏祭り
7月31日	玉津婦人会・西区社会福祉協議会	玉津こども食堂
8月1日・6日	玉津あんすこ	認知症サポーター養成講座
8月18日	櫛谷川愛護協会	櫛谷川清掃
8月24日	井吹東児童館	児童館夏まつり
9月28日	井吹東キラキラ祭り実行委員会	キラキラ祭り
10月5日	西区社会福祉協議会	西区健康福祉フェア
10月26日	櫛谷川愛護協会	櫛谷川祭り
11月3日	井吹西まちづくり協議会	井吹西文化祭
11月9日	ひよどり台防災ジュニアチーム	認知症サポーター研修
12月6日	押部谷中学校	福祉体験
12月21日	櫛谷農福連携チーム	農福連携 お食事会
12月26日	玉津婦人会・西区社会福祉協議会	玉津子ども食堂
1月21日	櫛谷民生委員・西神南あんすこ	櫛谷フレイル教室
2月4日	井吹西住民	井吹元気体操教室
2月26日	井吹西町住民	井吹西町 たまり場
2月27日	井吹西町住民	100歳体操教室
3月13日	井吹西町住民	100歳体操教室
3月17日	櫛谷民生委員・長寿会	フレイル教室
3月27日	玉津婦人会・西区社会福祉協議会	玉津子ども食堂

6. 《広報活動》

昨年度に引き続き、地域包括支援センター（あんしんすこやかセンター）等への営業活動を継続。加えて、本年度はケアマネジャーを対象とした施設見学会を新たに開催し、施設の特色や取り組みを直接伝える機会を設けた。

また、InstagramやTikTokを活用し、日常や行事の様子を発信することで情報発信の強化を図った。地域行事ではInstagramのQRコードを提示してフォローを促進し、フォロワー数は約100人増加。これにより、施設の認知度および信頼性の向上に一定の成果が見られた。

7. 《研修会等》

月	研修名	対象者
4月～7月	介護職員初任者研修	新人職員
4月～7月	新人職員研修	新人職員

7月～9月	高齢者介護士研修	2年目職員
6月～11月	実務者研修	3年目職員
毎月1回	コーチング研修	役職者

8. 《施設整備等》・・・50万以上の主な工事等を記載

項目	施設
エレベーター改修工事（養護老人ホーム大規模修繕における補助事業 R6.12.31 完成）	大慈園
浴室換気扇取替・廊下改修工事	大慈園
LED・非常用照明・ダウンライト改修工事	大慈園
井水ポンプ入れ替え工事	大慈園
火災感知器交換工事	ケアハウス
サーバー入替	大慈園
ピュアット4台購入	ケアハウス
パン発酵機購入	ケアハウス
特浴2台購入	大慈弥勒園
電話機器交換工事	ケアハウス
ネオスケア見守りシステム	大慈智音園
Wi-Fiネットワーク	大慈智音園
車両（セレナ）購入	ケアハウス
ほのぼのライセンス更新	大慈園・ケアハウス・居宅大慈園

※SS→ショートステイ

※大慈園→大慈弥勒園、大慈ショートステイ、大慈デイサービスセンター、大慈吉祥園

9. 《会議・委員会》

会議名等	
事業戦略推進会議	予算管理委員会
広報委員会	人事委員会（3チーム）

○まとめ

本年度は、「すべての人がより健康に、より幸福に」という理念のもと、ウェルビーイングの実現を目指し、組織力の向上、人財の確保・育成、地域や社会とのつながりの強化など、多岐にわたる取り組みを推進した。

特に、組織力向上プロジェクトにおいては、チームコーチングを活用し、リーダー育成およびチーム間連携の強化を図った結果、各職員が自律的に行動できる環境が徐々に整備されつつある。また、人事評価制度の見直しにより、役割および評価基準の明確化が進み、職員一人ひとりが目的意識をもって業務に臨むための基盤が構築された。

人財育成では、評価制度を軸とした支援体制の整備およびPDCAサイクルの実践強化に取り組み、特に「チェック」と「アクション」の課題が浮き彫りとなった点は、今後の管理力・面談力向上に資する重要な気づきとなった。

広報活動においては、SNSや施設見学会を通じた情報発信の工夫により、地域社会とのつながりが強化され、施設の認知度および信頼性の向上につながった。

地域貢献事業では、健康教室、農福連携、清掃活動、子ども食堂など、年間を通じた多様な活動を展開し、地域に根差した存在としての役割を果たした。

また、急速冷凍機の導入に向けては、専任チームを立ち上げ、準備体制を整備。次年度の具体的な導入・運用に向けた基盤が構築されつつある。

施設整備においても、安全性と快適性の向上を目的とした各種改修および機器の更新を実施し、より良い生活環境の提供に努めた。

今後も、こうした成果と課題を糧として、「健康」と「幸福」の質のさらなる向上を目指し、組織一丸となって取り組んでいく。

☆ 保育・児童部門

1. 《目標》

施設間の情報共有の強化

チーム会議を開催し、部門全体で情報の共有を図った。

2. 《令和6年度報告》

- ・園長管理者会議を行った。
毎月1回 各園（館）の状況や取り組み、課題を共有し、運営や保育を進めた。
- ・チーム会議を行った。情報交換、意見交換を行い、問題解決に向け検討を重ねた。
- ・キッチン会議を行った。献立の意見交換、情報交換、食育に関する相談等を行い、実際に園での取り組みや献立に反映させた。
- ・リスクマネジメント会議を行った。環境要因、人的要因等、課題を抽出し解決、改善に向けて取り組んだ。

3. 《人財確保と人財育成等》

① 人財確保

- ・こども園…兵庫県・神戸市合同就職フェアに参加した。
- ・ハーバー大慈…社会的養護施設合同フェアに参加した。

② 人財育成

- ・今年度は、各園、館内での教育に加え、全園共通研修を行った。
- ・個々の保育技術、教育的知識を高められるよう、また広い視点を持つよう、障害をお持ちで活躍されている先生にご講演をいただいた。
- ・職場内での伝達研修を行った。

4. 《地域貢献事業》

- ・児童館において、親子館事業のプログラムは、年間を通して完全予約制にし、一般来館は自由に遊びに来られるようにした。
- ・小学生の学習支援、外国にルーツを持つ子どもの学習支援を基本週1回行った。
- ・大慈こども園の地蔵盆は、地域の方も招いて行った。
- ・子育てサロンの充実を図った。（こども園、小規模保育園、おやこふらっとひろば中央）
- ・園庭開放に初めて参加される方も安心して遊べるよう、子育て支援担当の職員が関わるようにした。（こども園）
- ・こども誰でも通園制度を始めた。（大慈こども園とも分園）
- ・一時保育を継続して行った。（大慈こども園とも分園）

- ・こども園の保育時間外保育を継続して行った。(ハーバー大慈)
- ・「だいじひろば」(地域の方の居場所)を行った。
- ・ほっとかへんネット中央との連携を行った。(大慈こども園、大慈ほまれこども園、ハーバー大慈)
- ・ほっとかへんネット兵庫との連携を行った。(大慈ひょうごこども園)

5. 《研修会等》

月	研修名	対象者
1月2月3月	新任職員研修	新卒職員
5月	中堅職員研修	2年目、3年目職員
11月・1月	部門全体研修	全職員
随時	コンプライアンス・子どもの人権を尊重するための研修(各園)	全職員
毎月	大慈だより研修	全職員

6. 《施設整備等》・・・50万円以上の主な工事等を記載

施設	内容
大慈幼保連携型認定こども園	ロールスクリーン・畳 交換
大慈ひょうご幼保連携型こども園	給水管取り換え工事
	見守りカメラ追加設置
大慈ほまれ幼保連携型認定こども園	扉のクロス張替え工事

7. 《総括》

- ・大慈こども園とも分園で「こども誰でも通園制度」を始めた。
- ・東川崎町の地域福祉センターで「だいじひろば」を始め、地域の親子や高齢者が集い、楽しく過ごしていただいている。
- ・園説明会を行い、法人内の園を知っていただく機会を設けた。
- ・一時保育の問い合わせや利用者が増えてきている。
- ・外国にルーツを持つ子どもの学習支援「DAIJI メイト」の利用人数が伸び悩んでいるので、時間を変更し、保護者のお迎えが無くても利用できるようにしていきたい。
- ・「おやこふらっとひろば中央」の利用者が昨年度よりもなお増えた。
- ・「たちばな児童館」の利用者が増えた。
- ・「おやこふらっとひろば中央」と「たちばな児童館」と「こども園」の連携がスムーズになり、地域の子育て支援が充実してきた。

令和6年度 事業報告書

特別養護老人ホーム 大慈弥勒園

1. 《基本方針》

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的・肉体的な援助を行なう。又、ゲストの皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れずゲストやご家族に満足していただけるサービスを提供する。

2 《行動指針》

- ① 「できない」理由ではなく、どうすれば「できるか」を考えます
- ② 仲間を信じチームワークを大切にします
- ③ 過去を重んじ、常に新しいことに挑戦します
- ④ 「おめでとう、ありがとう」が言い合える職場にします
- ⑤ 感謝の心を忘れず、誠実な対応を心掛けます
- ⑥ 自分の成長が仲間の成長と考えます

3. 《中長期行動計画》

○最終目標（10カ年）

- 『選ばれる施設になる』・・・新規採用者25名以上の応募がある
- ・技術と情熱の両輪が育っている
 - ・コミュニケーションと繋がり大切にする
 - ・一人一人の夢や目標を叶える
 - ・地域の中心的な拠点となり、地域とともに持続可能な社会をつくる
 - ・大慈で蓄積した技術が世界の福祉を変える

○中長期目標（5カ年）

- ・高齢者介護の拠点として競合他社に負けない独自の強みをつくる
- ・ここで働きたいと思える施設になる

4. 《令和6年度重点目標》

①健全な経営 各施設で設定した充足率の目標達成を目指す。

- ・SNSを使用した情報発信とサービスの見える化
- ・各事業所（居宅介護支援事業所・病院等）への営業
- ・経営勉強会の継続



【充足率の目標達成値】

- ・特別養護老人ホーム大慈弥勒園（定員100名） 98%

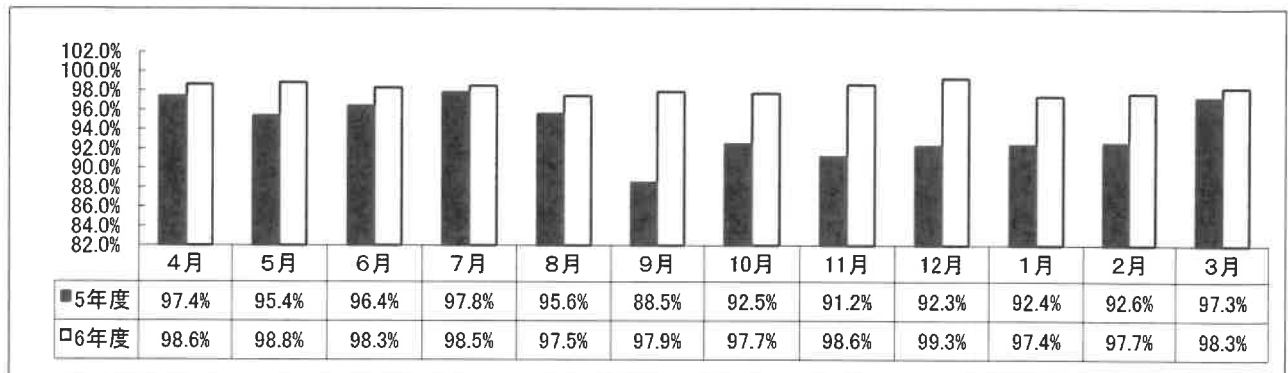
本年度は、日々の話し合いや業務中の確認を通じて、一人ひとりの職員が「どうすればより良いケアができるか」「どうすれば満足度を高められるか」といった目的意識を持って行動するよう意識改革を進めた。

その結果、充足率は目標値である98%を達成し、安定した運営につながる成果を得られた。これは、現場での積極的な意見交換やチーム内での連携強化、日常的な課題共有の積み

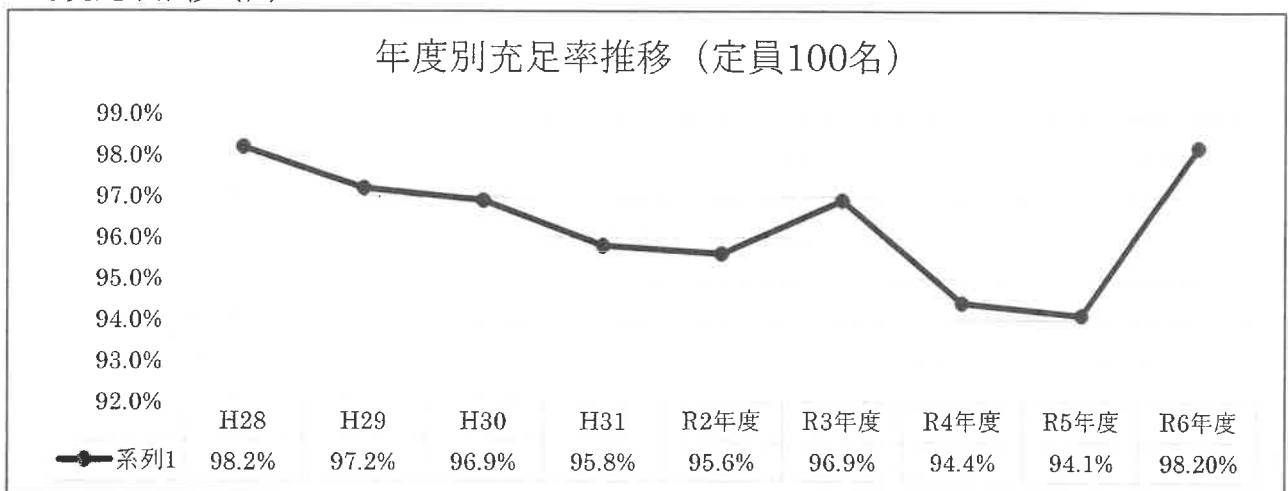
重ねによるものとする。

今後は、より一層「目的を持って意見を出し合い、話し合う文化」を施設全体で築き、職員同士が主体的に学び合い、高め合う風土づくりを推進する。こうした取り組みを通じて、ゲストの満足度向上と、働きやすい職場環境の両立を図っていくこととする。

○令和6年度月別充足率表



○充足率推移 (%)



○入退所等内訳表 (人)

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
① 令和5年度	54	14	49	33	40	7
② 令和6年度	28	23	26	18	21	40
増減①－②	-26	-9	-23	-15	-19	+33

○介護度別年齢別等人数表

令和7年3月31日時点での在籍数

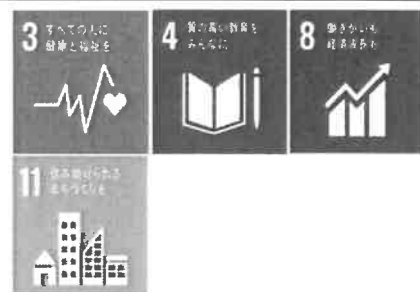
平均滞在期間2.7年(男性3.0年、女性2.7年)、最高滞在期間18年(男性)

要介護度	令和5年度				令和6年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
1	0	0	0	歳	0	0	0	0
2	2	1	4	83.1歳	2	1	1	79.5歳
3	40	12	28	88.0歳	41	10	31	88.4歳

4	50	13	37	88.3 歳	48	10	38	88.4 歳
5	10	2	8	84.7 歳	13	3	10	85.6 歳
合計	102	28	74		104	24	80	
平均 介護度		3.6	3.7	3.7		3.6	3.7	3.7
平均年齢		85.4 歳	88.5 歳	87.6 歳		85.7 歳	88.6 歳	87.8 歳
最高年齢		97 歳	102 歳			98 歳	103 歳	
最小年齢		64 歳	70 歳			65 歳	71 歳	

②人材育成 情熱・ロマン・思い・気持ちを共有

- ・毎月、全リーダーが参加する会議を開催
- ・ラインワークスを導入し情報の見える化を行い、ムリムダムラを無くす
- ・一人一人の強みを見出し、活躍の機会を共につくる
- ・課題解決型ではなく目標達成型の面談を2か月に1回実施する



・ハローワークや求人広告を通じた採用は本年度も0名となった。一方で、ホームページ経由の応募から3名、成果報酬型サイトから3名、人材紹介から2名の合計8名を採用した。

今年度も引き続き、従来の求人媒体からの応募が少ない状況が見られ、採用方法の見直しと効果的な情報発信の重要性が再確認された。特に成果報酬型サイトやホームページからの応募が一定の成果を上げており、費用対効果の面からも今後さらに活用を推進していくためにも令和7年度にホームページの刷新を予定。また、コストを抑えつつ採用に繋がる可能性のあるリファラル採用についても、今後の制度設計や社内周知の方法を検討していく必要がある。

・新卒採用については、令和7年度よりインターンシップの本格導入を開始する予定で、学生との接点を増やす取り組みを進めたい。このことから、令和7年度以降は新卒採用にも本格的に注力していく予定であり、高卒のみならず短大・専門・大学卒を対象とした採用活動を展開することで、法人の認知向上と応募者数の増加を図る。

《職員会議・OFF-JT》

頻度	委員会・会議名				
月1回	看取り介護委員会	事故再発防止委員会	サービス向上委員会	BCP 感染症防止対策委員会	事業戦略推進委員会
	虐待防止委員会	身体拘束適正化検討委員会	生産性向上委員会	チームコーチング	給食委員会
	褥瘡防止委員会	全体会議 (1F・3F)	BCP 非常災害時対策委員会	医療的ケア推進委員会	法人運営会議
	研修委員会	労働衛生委員会	予算・経営会議	広報委員会	外国人労働者担当者会議
	社会貢献委員会	予算・経営委員会	入所検討委員会		
随時	ケアカンファレンス		人事評価検討会議		

日付	研修会内容	参加人数
6月27日	安全衛生教育（労働衛生委員会）	5名
	感染症まん延防止/BCP対策	13名
	法令順守/ハラスメントについて	24名
	土砂災害/BCP	11名
	ICT（生産性向上委員会）	6名
	事故再発防止対策	7名
8/29	排泄ケアに関する研修	12名
	看取り介護・褥瘡	7名
	事故再発防止対策	7名
	感染症まん延防止/BCP対策	13名
	身体拘束適正化研修・高齢者虐待防止研修	23名
	法令遵守/ハラスメント	27名
10月24日	排泄ケアに関する研修	7名
10月24、11月26日、12月3日、12月6日、3月6日	身体拘束適正化研修・高齢者虐待防止研修	全職員
1月19日	基幹福祉避難所開設訓練/西区総合防災訓練	出勤者
3月5日	口腔衛生管理（かもめ歯科）	32名
	ICT（生産性向上委員会）	5名
	看取り介護・褥瘡	9名
	不審者対策・災害・BCP	5名
	安全衛生教育（労働衛生委員会）	12名
	心肺蘇生・観察項目について	9名
	法令遵守/ハラスメント	2名
	排泄ケアに関する研修	6名
毎月	コーチング研修	役職者
都度	新規採用時研修・医療的ケア 認定特定行為業務従事者（経管栄養）の手技確認・心肺蘇生訓練・雇用形態変更時の研修（夜勤業務開始時）	対象者

③働きがい メンタルコーチと共にチームビルディングを実践

- ・コーチングを通じてチーム力の向上を図りながら、個々の能力を育てられる環境をつくる
- ・大規模修繕計画、予算に基づいた、改修工事の実施

【令和6年度環境整備計画予定】

- 1) エレベーター改修工事
- 2) LED 改修工事
- 3) その他（設備関連工事等）

令和7年3月31日時点（前年度末と比較して）

・Instagram

→フォロワー数457人（↑259人） 投稿数210件（↑169件）



閲覧数 25,858 (過去90日)

・TikTok

→フォロワー数68人(↑56人) 投稿数29件(↑20件)

【工事関連】令和6年度 50万以上の主な工事等を記載

・大慈弥勒園 大慈吉祥園 エレベーター改修工事(養護老人ホーム大規模修繕における補助事業 / 令和5年9月7日 契約 / 令和6年12月12日 引き渡し)

総事業費 ¥97,900,000- (補助額 ¥16,425,000-)

・特殊機械浴槽購入① 計1台(購入額 ¥9,075,000)

・特殊機械浴槽購入② 計1台(購入額 ¥9,526,000)

・ネットワークサーバー購入(購入額 ¥2,118,600)

・その他(浴室換気扇・LED 改修工事・井水ポンプ入れ替え・ライセンス更新等)

④地域貢献 介護予防と介護の魅力を伝える

- ・櫛谷、西神南地域を活気のある町になるよう、地域行事又は地域づくりを目的とした活動に、主体的に参加する。
- ・地蔵盆や施設開催の行事に地域の方も参加して頂き、交流の機会を増やす。
- ・要援護者支援センターとして、あんしんすこやかセンターと連携。地域防災ネットワーク作りに貢献する。
- ・ケアマネジャーを対象とした、地域防災の研修会を開催し基幹福祉避難所を周知する。
- ・災害発生時に地域の方をスムーズに受入が出来るよう、基幹福祉避難所開設訓練を年1回実施する
- ・野菜づくりを通して、櫛谷の地域づくりにゲストや施設職員と、その家族を巻き込んでいく。



- ・櫛谷小学校での基幹福祉避難所開設訓練を実施しマニュアルの確認・備蓄の点検・対策上の疑問点や問題点を解決した。
- ・地域サポート施設として地域での福祉活動(生きがいデイサービス・健康教室・移動支援)を定期的な活動として実施できた。
- ・認知症サポーター養成講座も再開でき、地域のサポーター増加に寄与できた。
- ・中学生を対象に学校で福祉教育(講座・車いす体験)を実施。
- ・地域行事、農福連携事業、居場所づくり等、地域サポート施設として櫛谷地域・井吹地域両方の地域と関わる時間を増やせた。
- ・社会貢献の詳しい活動実績に関しては高齢者部門の事業報告書に記載。

⑤新しいことにチャレンジ

- ・ゲスト、職員の満足度向上のためアンケートをもとにイベントを企画し実行する
- ・働きやすい職員の環境を整える



- ・年度初めに職員対象にアンケートを行い何に興味があるのか、その中で出来ることが何か

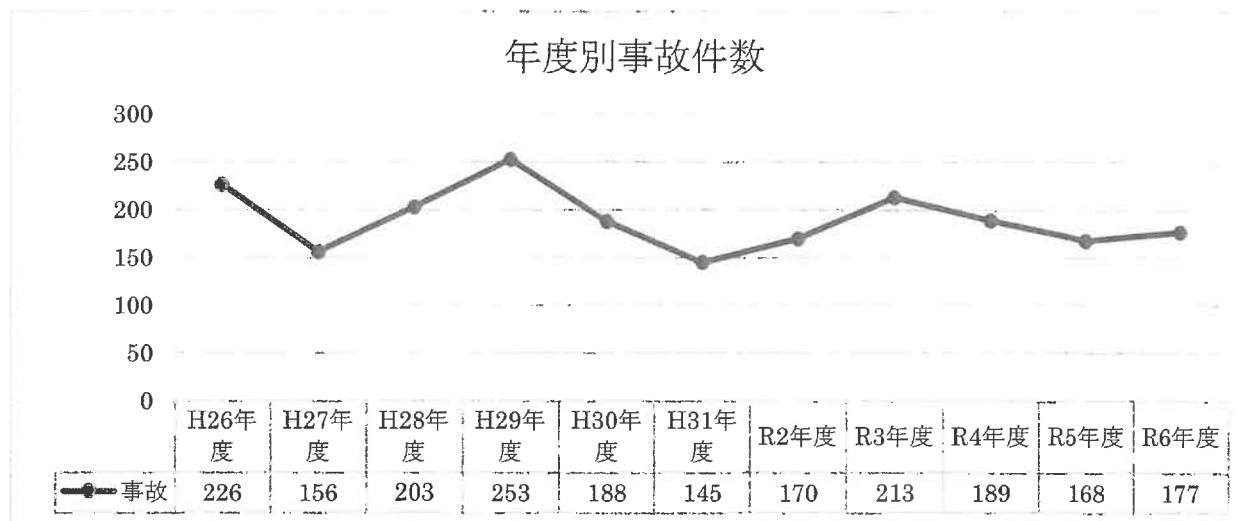
を話し合った。結果、前年度、好評であったサークル活動・ビューティーデイ・社食・キッチンカーなどは引き続きパワーアップしての継続、新しく福利厚生の一環としてパンやお弁当、日用品を購入できるチケットを作り全職員が利用することが出来た。

計画・実行・確認のサイクルが上手く回せず企画倒れになった目標もあるが、そのサイクルを意識することが大切であるということに気づいたことがおめでとうポイントとなり、次のチームで活かせることができる人財に成長することが出来た。

5. 《リスクマネジメント報告》

①報告件数

○年度別事故件数

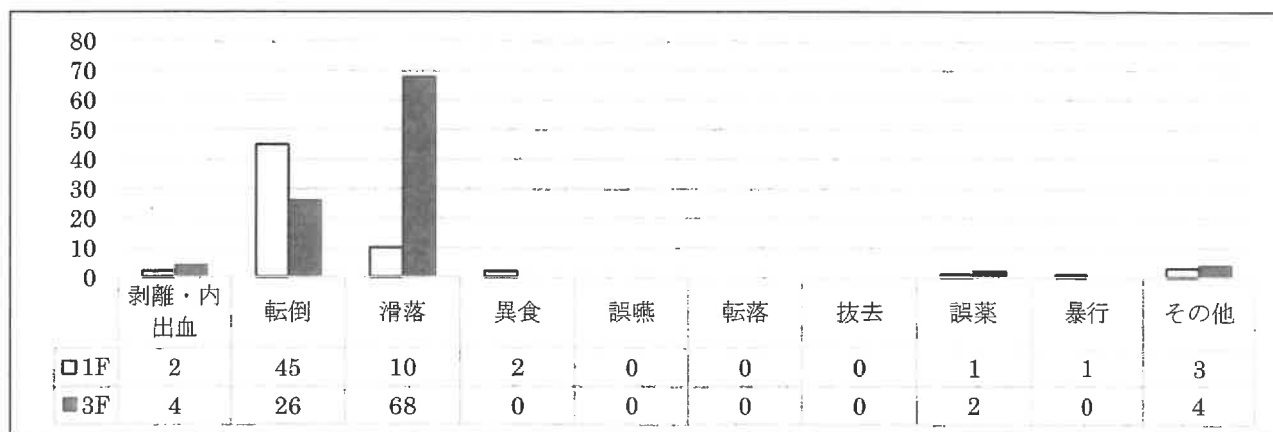


○フロア別内訳

令和5年度				令和6年度			
	合計件数	事故	ドキドキ		合計件数	事故	ドキドキ
1F	1,784件	64件	1,720件	1F	1,218件	63件	1,155件
3F	4,304件	104件	4,200件	3F	7,737件	114件	7,623件

②発生内容別件数(令和6年度)

○事故内容



③リスクマネジメントまとめ

本年度におけるリスクマネジメントの取り組みでは、「眠りスキンの睡眠データの分析」「感染症対策の強化」「災害時対応の整備」を重点課題と位置づけ、全職員が一丸となって安全管理体制の強化に努めた。

具体的には、月例の事故再発防止対策委員会では事故報告の振り返りを通じて、施設内の課題を共有・分析し、再発防止策の策定および現場へのフィードバックを実施。また、安全研修の実施や、マニュアルの見直し・更新も行い、施設全体でのリスク対策向上を図る。

感染症対策においては、BCP（業務継続計画）に基づいた対応体制を再確認し、協力医療機関との連携強化、備品の適正配置、情報共有の仕組み構築に取り組みを行った。

今後は、「リスクを記録する」から「リスクを予測し何が出来るか」への転換を図り、予防的視点に立ったリスクマネジメント体制の更なる充実を目指す。併せて、職員のリスク対応能力の継続的な向上に向けた教育体制の強化を図るとともに、ご利用様が安心して生活できる環境づくりを推進する。

6. 《苦情・相談結果報告》

☆苦情の定義→サービス向上委員会にて、多職種の話し合いの結果決定する。

○報告件数

令和5年度				令和6年度			
	合計件数	苦情	相談		合計件数	苦情	相談
1F	4件	0件	4件	1F	2件	1件	1件
3F	6件	1件	5件	3F	7件	1件	6件

○苦情相談まとめ

本年度は、利用者様およびご家族様からの苦情・相談が9件寄せられた。内容としては、職員対応に関するものやサービスに関するご意見が多くを占めており、一つひとつの事案に対して速やかに事実確認を行う。

これらの苦情相談は、サービス向上のための貴重なご意見と捉え、再発防止策の検討や職員へのフィードバックに活用。また、相談対応の透明性と信頼性を高めるため、記録の徹底と対応体制の見直しも行う。

今後は、苦情を「未然に防ぐためのヒント」として積極的に分析し、リスクの早期発見と対応力の向上を目指します。加えて、日常的な声かけや傾聴を大切に、安心してご意見を伝えていただける雰囲気づくり、そして信頼される施設づくりを職員一丸となって進める。

7. 《総括》

本年度は、職員一人ひとりが主体的にチームプロジェクトを推進し、地域貢献事業・広報活動・設備改修等の施設基盤の整備、さらには職員満足およびご利用者満足の向上を目指して、プロジェクトチームを中心に取り組むことが出来た。

その結果、施設の充足率は向上し、地域とのつながりや施設内の組織力も着実に強化された。これらの成果は、緊急性は低いものの重要性の高い課題に対して計画的に取り組む、目標を明確に定めて行動してきた結果であると認識している。

次年度においても、「緊急ではない重要なこと」に引き続きフォーカスし、「誰かのために自然

と動けるチーム」。助け合いや声かけが自然と生まれる職場づくりに力を入れ、個々の強みを活かしながら協力し合える関係性を築いていく。あわせて、職員間のコミュニケーションの質や介護技術の基礎力を高めることにより、組織全体の一体感を育み、ゲストへのサービス品質や地域の皆様への貢献がさらなる向上に繋がる様努めることとする。

令和6年度 事業報告書

大慈弥勒園ショートステイ

1. 《基本方針》

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立方針である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的・身体的な援助を行う。又、利用された皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。

2. 《令和6年度重点目標・行動計画》

『迅速な対応を心がけゆとりを持って過ごせる環境・関係を構築する』

① ご利用者のニーズを把握しご利用者・ご家族に寄り添い状況の改善を図る。

以前に比べ、緊急での受け入れを積極的に行い、病院との調整や連携に力を入れて実施を行った。また、担当者会議等にも同様に、積極的に参加することで、その時のニーズの把握やご利用者の状況把握を行った。

また、ストマや在宅酸素が必要となっている方等、医療ニーズが高い方の受け入れに関しても、多職種と連携を図りながら、受け入れ体制の整備を図ってきた。次年度においても、よりご本人やご家族に寄り添った対応が出来ることを目的に様々な事にアプローチが必要と考える。

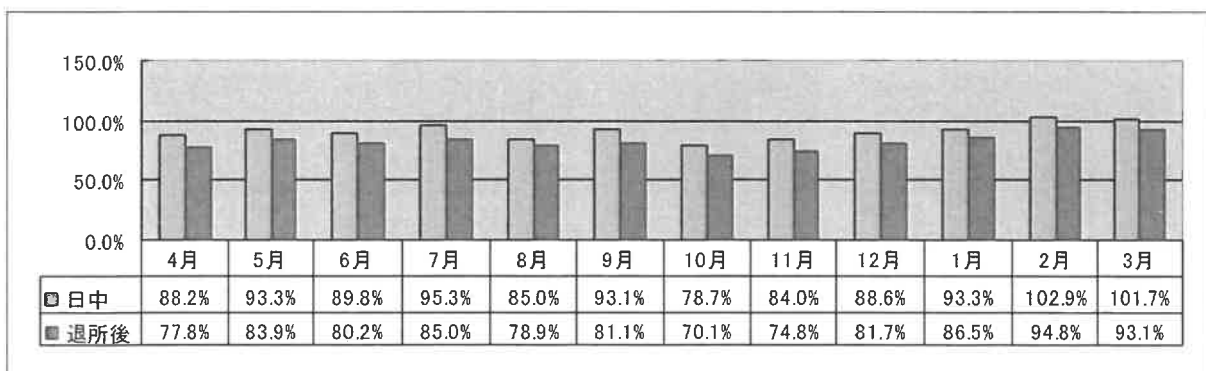
② ご利用者・職員共により信頼関係の構築が出来る環境設計を思案し行動する。

ご利用者一人一人のアセスメントを深く行い、ご本人含む関係者からの聞き取りで、趣味や生活歴を細かく知ること、ご利用中の関わりやレクリエーション等に繋げることを目的に活動を行った。

環境面ではよりコミュニケーションを重視し、ご自宅以外の場所でも安心して過ごすことができるように取り組むことができた。来年度はさらにご要望を聞き取りし、サービスの提供に反映することで、関係性の構築に繋げ、選ばれる施設にしていきたいと考える。

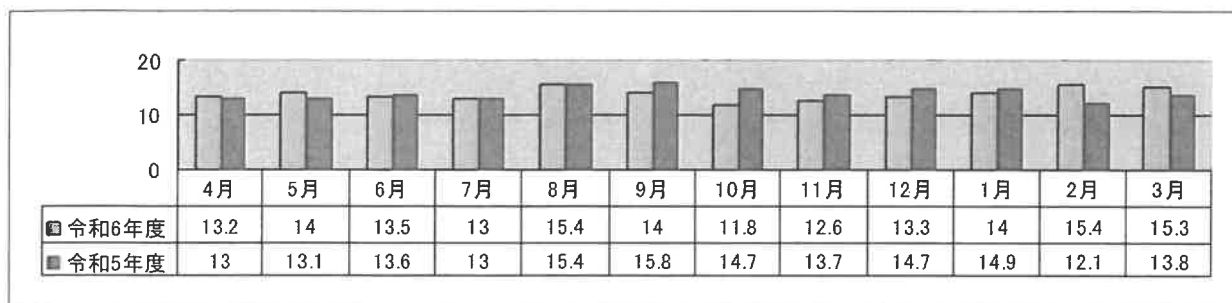
○充足率→日中91.2%、退所後82.3%

(前年平均 日中93.2%、退所後83.2%)



○利用定員：15名 平均人数→日中13.7人、退所後12.3人

(前年度平均 日中13.9人、退所後12.4人)



●介護度別年齢別等人数表（令和7年3月31日時点での実人数）

要介護度	令和5年度				令和6年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
支援1	1	0	1	85.25歳		0		歳
支援2	4	0	4	84.77歳		0		歳
1	66	10	56	89.72歳	68	8	60	86.25歳
2	123	40	83	89.72歳	144	46	98	88.99歳
3	125	27	98	85.67歳	108	18	90	88.40歳
4	80	30	50	80.17歳	74	17	57	83.86歳
5	43	33	10	80.78歳	29	13	16	90.05歳
合計	442	140	302		443	102	321	
平均介護度		3.1	2.6	2.8		2.9	2.6	2.7
平均年齢		82.82歳	88.51歳	85.66歳		78.29歳	91.05歳	87.57歳
最高年齢		97歳	101歳			94歳	102歳	
最小年齢		65歳	63歳			67歳	66歳	

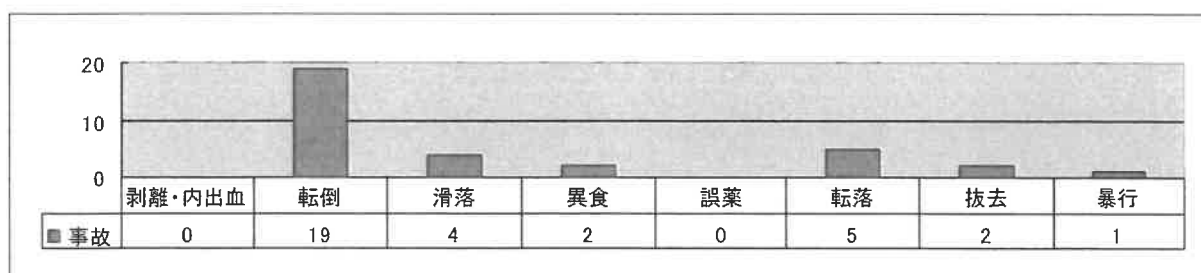
3. 《リスクマネジメント報告》

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とする。

①報告件数

令和5年度				令和6年度			
	合計件数	事故	ドキドキ		合計件数	事故	ドキドキ
ショートステイ	2,933件	30件	2,903件	ショートステイ	2,607件	35件	2,572件

②発生内容別件数



③ まとめ

事故件数は微増し、特に転倒が全体の半数以上を占めた。内容の偏りや同様の事案の継続的発生から、環境要因や利用者の行動特性に起因する傾向が読み取れる。ヒヤリハット情報を基に、重点的な対策を明確化し、早期対応と再発防止に努めたい。

4. ≪苦情・相談結果報告≫

☆苦情の定義→サービス向上委員会にて、多職種の話し合いの結果決定する。

○報告件数

令和5年度				令和6年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	4件	0件	4件		5件	0件	5件

○まとめ

今年度も相談が中心で苦情は報告されなかった。引き続き、ゲストやご家族の声に丁寧に耳を傾け、早期の対応と共有を心がけていく。日々の関わりの中で信頼関係を深め、安心して話をして頂ける環境づくりを継続したい。

5. ≪総括≫

本年度の短期入所生活介護（ショートステイ）事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響で、利用者様・ご家族様にご不便をおかけする場面もあったが、部署一丸となってリスク管理を徹底し、ご利用者様とご家族様の思いに寄り添う支援、安全面への配慮を最優先に取り組んだ。

結果として、大きな感染拡大を起こすことなく、影響を最小限に抑えながら安定したサービス運営を継続することができたことは、職員一人ひとりの意識と行動の成果であると考えている。今後も引き続き、柔軟な対応力とリスク感度を高め、ご利用者様・ご家族様に安心してご利用いただけるサービス提供を行う事を目標とする。

1. 《基本方針》

法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」を基本方針として、要援護の高齢者がより自立的な生活を可能な限り自立して安らかに営むこと、社会的孤立感を解消すること、心身機能の維持、向上を図ることを目的として高齢者自身を援助することの他、介護する家族の身体的・精神的負担を軽減できるよう努力し、在宅での介護が中心となるデイサービスの利用者に対し、ケガ・事故のない様に細心の注意を払い、より良い環境でのサービスを提供していく。

2. 《令和6年度重点目標》

「活動の選択」・「脳活」・「楽しい」 3つのテーマについて強化する

3. 《部門別目標》

①SNS を使用した情報発信

大慈弥勒園とチームで動いているため、弥勒園に同じ

②テーマに即したゲストの最高の笑顔を撮影する

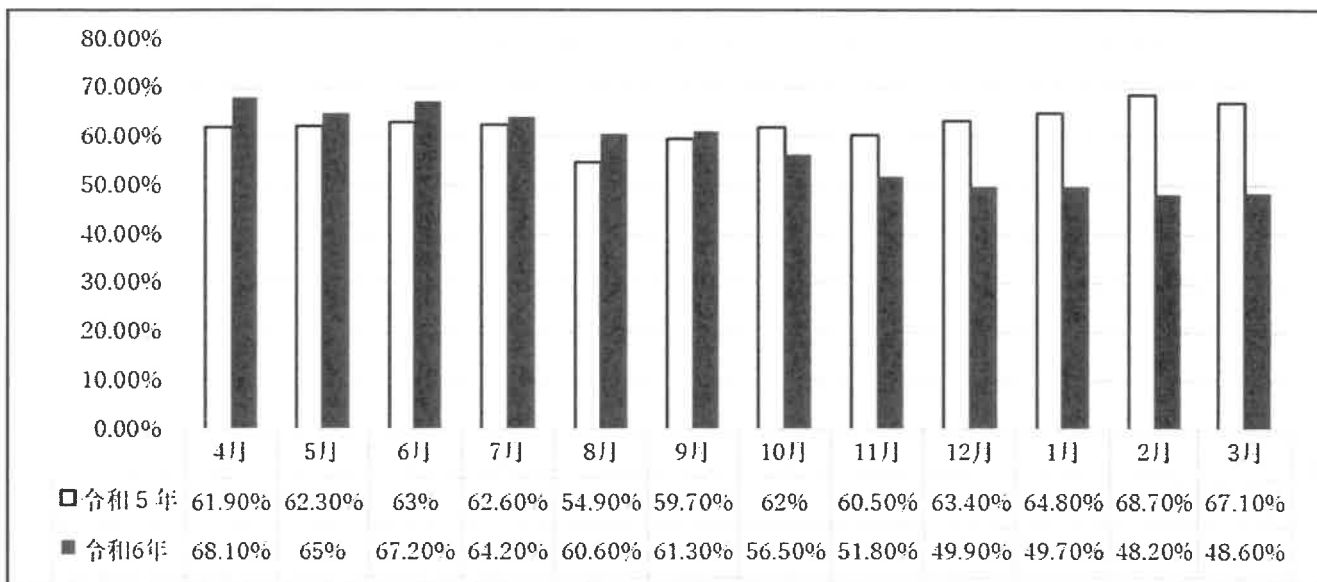
「活動の選択」・「脳活」・「楽しい」のテーマについて

「活動の選択」は種類を増やすことは出来たが、選択してもらうというよりは、時間と職員の数でこれを一緒にやりませんか？と提案し実施していただくことが多かった。次年度は、利用者の個々の楽しみを調査することで個別に選択できる機会が増えるようにしていきたい。

「脳活」は脳トレプリントを実施するよりもシナプソロジーや決められたルールで言葉を考えて答えを出す頭の体操を毎日、行うことができた。脳を活性化すること認知症の予防にもつながっていくことが出来た。

「楽しい」は利用者に笑顔になっていただけるような行事を企画し実行、写真をInstagramなどに投稿し、ご家族にもその瞬間の笑顔を見てもらうことができた。今後もInstagramを活用しご家族にご利用者の笑顔を届けていく。

○充足率（事業所規模）→年間平均57.5% （前年平均62.5%）定員30名



●介護度別年齢別等人数表 令和7年3月31日時点での実人数

要介護度	令和5年度				令和6年度			
	合計 人数	男	女	平均	合計 人数	男	女	平均
支援1	3	1	2	85.4歳	4	1	2	83.3歳
支援2	1	1	0	88.3歳	4	2	4	85.7歳
1	16	3	13	85.8歳	10	2	8	88.2歳
2	15	4	11	81.0歳	15	6	9	87.5歳
3	2	0	2	90.7歳	4	2	2	85.5歳
4	11	3	8	87.4歳	6	1	5	88歳
5	5	2	3	87.4歳	3		3	93.3歳
合計	53	14	39			14	33	
平均 介護度		2.7	2.4	2.5		1.79	2.0	1.89
平均年齢		81.6歳	88.5歳	85歳		80歳	89.6歳	86.7歳
最高年齢		93歳	101歳			92歳	102歳	
最小年齢		60歳	78歳			59歳	79歳	

4. 《リスクマネジメント報告》

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数

○年度別報告件数

	令和5年度	令和6年度
事故件数	5件	15件

②発生内容別

剥離・内出血	転倒	滑落	その他の事故
3件	0件	1件	11件

○リスクマネジメントまとめ

今年度のリスク発生件数は15件であり、昨年度の5件と比較して増加しました。発生した内容のその他には、車両事故3件、服薬忘れ3件、お迎え忘れ2件となっている。これらのリスクに対して対策を立案し、職員への周知徹底を図っているが、同様の事故が引き続き発生しており、さらなる再発防止策の強化が求められている状況と考える。
今後も安全管理の徹底と職員の教育の充実を図り、サービスの質の向上に努めることとする。

5. 《苦情・相談結果報告》

☆苦情の定義→サービス向上委員会にて、多職種の話し合いの結果決定する。

○報告件数

令和5年度				令和6年度			
報告 件数	合計件数	苦情	相談	報告 件数	合計件数	苦情	相談
	2件	1件	1件		6件	0件	6件

○苦情相談まとめ

苦情相談は6件提出あり、大きな苦情には至らなかったため苦情の取り扱いとしては、0件としている。相談内容として、お迎え忘れで家族からの電話連絡で発覚という事例が2件ある。重大な事故になりうるため、日々の利用人数の確認方法を変更し、以降は、送迎忘れは起こっていない。その他の内容は、確認ミスと連絡ミス、運転業務についての相談で、毎日の申し送りで連絡を密にすること、安全運転に心がけることを確認している。

6. 《総括》

新規利用者数： 20名 体験利用者数： 32名

前年度と比較し、新規利用者数(34名)を下回り、充足率は年間で57.5%となった。大慈デイは介護度の高い方も多いため、ショートを併用して利用する方が多く月の大半をショートの利用となるため充足率が低下する。

また、中重度者ケア体制加算の取得を休止し、介護度が軽度な方が利用できるデイを検討するが、設備の面でも選ばれにくいデイとなっていた（トイレや浴室の設備面など）。

今後、新たな強みの発見と新しい体制でレクの充実や環境面の整備を検討し、次年度には人気のあるデイを目指し充足率の向上を図りたい。そして、ご利用頂いている方の大半である、地元の櫛谷、井吹台に住まわれている、高齢者の方にさらに、ご利用して頂ける取り組みとして、地域住民との関係性作りを強化し、地域貢献活動にも、さらに力を入れることで、大慈デイの名前をアピールしていきたい。

令和6年度 事業報告書

養護老人ホーム 大慈吉祥園

1. 《基本方針》

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的・肉体的な援助を行う。又、ゲストの皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。

2. 《令和6年度重点目標・行動計画》

『コミュニケーションをとっていく中でお互いの楽しみを見つける』

① ゲストの楽しみを引き出し笑顔にする

毎年実施している誕生日プレゼントでは普段施設で食することが出来ない、お寿司を食べて頂く機会を作ることで、楽しまれた。

また、看取りの方や外出できない方に対しても、さらに喜んで頂くために、園内弁当かハンドセラピーを選択の上、提供できるように工夫することで、年度途中の開始ではあったが、大変喜ばれているご様子が伺えた。

プチ旅行では新しいお店（ステーキ店）を開拓し、食事以外の遠足（須磨シーワールド）に行く企画も実行できた。加え、個々に希望を聞き出し、洋服や手芸品、化粧品等の買い物外出、墓参り、喫茶店でお茶会を楽しんで頂けた。今後も、日頃よりコミュニケーションを多くとり希望をかなえていくことは常に継続していきたい。

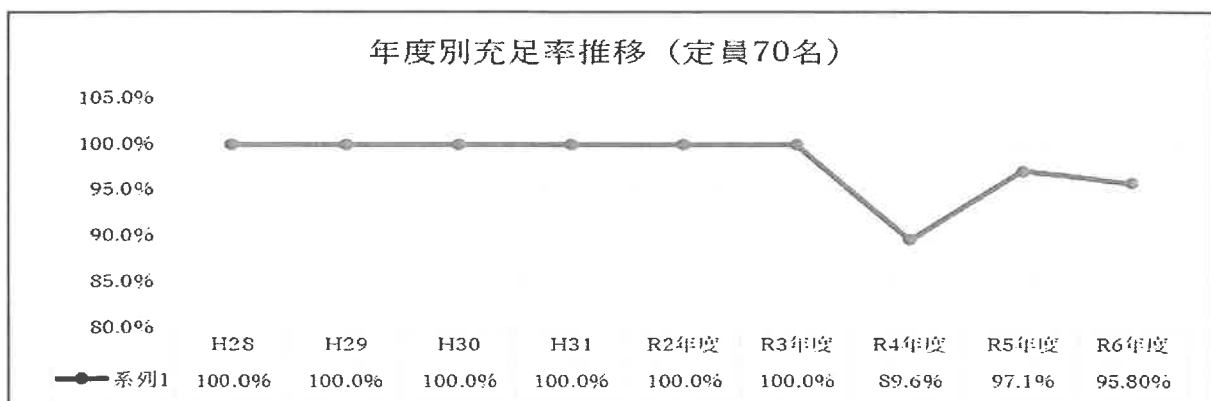
② 職員も楽しめる行事を企画する。

今年度はコロナ前に実施していたご家族を招待しての吉祥祭を開催し、職員の出し物、エイサー踊りを披露し喜んでいただくことができた。また、職員の子どもと一緒に花火大会やハロウィンパレードなどを行う、参加型行事を実施し、職員もゲストも楽しめる行事を多く実施できた。

レクリエーションでもゲストと一緒に作る手芸クラブを復活させることができた。社会貢献活動の取り組みで実施している、農福連携プロジェクトでは地域の人と交流しながら、畑の野菜を収穫し自然に触れる楽しみと人とのつながりを感じることができるいい機会となった。

3. 令和6年度充足率表

○充足率推移（%）定員 70名



待機者がいない状況が3年続いている。5月には64名に落ち込み10月は69名まで回復するが入院者も年間18名と多くなり、退居や死亡16名もあり、充足率は95%、平均の入所者数は、67名という結果になる。死亡者も12人中8名が看取りの方で比較的在籍年数が長い方のレベル低下がみられ、亡くなった時期が重なった印象がある。そんな中ではあるが新入所も18名と多い一年であった。

○入退所等内訳表（人）

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
① 令和6年度	18	16	18	11	12	1

○介護度別年齢別等人数表

令和7年3月31日時点での在籍数

	令和5年度				令和6年度			
介護度	合計 人数	男	女	平均	合計 人数	男	女	平均
非該当	5	2	3	86歳	6	2	4	79歳
要支援1	6	2	4	85歳	3	1	2	83歳
要支援2	2	0	2	91歳	1	1	0	81歳
要介護1	23	7	16	83歳	19	6	13	85歳
2	10	1	9	79歳	16	5	11	85歳
3	9	2	7	89歳	12	2	10	87歳
4	6	3	3	87歳	4	2	2	85歳
5	4	1	3	94歳	5	1	4	95歳
合計	65	18	47		66	20	46	
平均 介護度		1.8	1.8	1.8		1.8	2.0	1.9
平均年齢		82歳	88歳	85歳		79歳	88歳	85歳
最高年齢		93歳	100歳			94歳	100歳	
最小年齢		73歳	75歳			70歳	73歳	

4. 《リスクマネジメント報告》

① 報告件数

	令和5年度	令和6年度
事故件数	150件	178件
ドキドキ件数	153件	200件

②発生内容別件数

○事故内容

事故内容別発生件数



② リスクマネジメントまとめ

前年度と比較すると事故件数が上昇傾向にあった。お元気だった方がADLの低下により事故が多発していた印象。何度も同じようなケース（下肢筋力の低下）での転倒事故があり、再発を防ぐことが出来なかったが、訪問リハにて専門的にリハビリを行い必要に応じて回数を増やすなど特定の方の転倒事故が減った。ヒヤリハット件数に関しては前年と比べると上昇傾向にある。新人職員や中堅職員でもどこまでがヒヤリハットなのか理解出来ていなかった様子であったため会議にて周知し、個別でもヒヤリハットの意義を教え入力してもらうように説明した。毎年変わらず、事故の全体が居室での転倒で殆どを占めている。薬関係に関しては朝食時が多い。（落薬）人員配置も3人→4人体制になるべく出来るようにシフトも考慮している。朝食後薬配薬時にはダブルチェック実施できないこと、服薬して頂くゲストの人数が多く焦って目視しなければいけないところを見落としてしまっていることが結果に結びついていると思われる。部署会議にて毎月報告し以前実行していた遠藤メソッドによる技術標準を用い意識を高めていくことが必要であると考えられる。

4. 《苦情・相談結果報告》

報告件数

令和5年度				令和6年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	18 件	2 件	16 件		28 件	1 件	27 件

まとめ

同じ方からの相談は以前からあるゲスト同士の確執によるトラブルで、継続して見守りつつ間に入って調整することが多い。食事に関する相談が2件あり、厨房と連携して継続し異物混入の無いように対応していく必要がある。

ゲストが快適に過ごしていけるように、今後も普段からコミュニケーションを図り大きくなる前に解決できるようにしていきたい。

《総括》

今年度は、地域・社会交流を職員とゲストが一緒に明るく元気に楽しく過ごせるように尽力した一年であった。充足率については、他施設への退居や死亡退所などの空きをスムーズに埋めることは出来ず、95%という結果となったが、退所16名に対し18名の新入所もあり在籍年数が長い方の体調変化が著明に出た一年でもあった。

高齢者部門での相談員・ケアマネジャー同士のつながりも深めており、老人ホームの特色や窓口を病院などに知らせて回り、区役所の窓口にも連絡を行えていることが新入所数にもつながっていると思われる。その為、引き続き密な役所との連絡を行っていく必要がある。ゲストとの交流を深め、職員の介護力・対応力のスキルを上げていきたいと考えている。

令和6年度 事業報告書

指定特定施設入所者生活介護事業所 大慈吉祥園

1. 《基本方針》

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的・肉体的な援助を行う。又、ゲストの皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。

2. 《令和6年度重点目標・行動計画》

『コミュニケーションをとっていく中でお互いの楽しみを見つける』

※大慈吉祥園に準ずる

3. 《職員体制》

管理者 1 名	介護支援専門員 1 名（吉祥園の相談員兼務）	介護職員 5 名以上
	相談員 1 名（吉祥園主任相談員兼務）	

令和6年度 事業報告書

ヘルパーステーション大慈

1. 《基本方針》

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的・肉体的な援助を行う。又、ゲストの皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。

2. 《令和6年度重点目標 行動計画》

『コミュニケーションをとっていく中でお互いの楽しみを見つける』

※大慈吉祥園に準ずる

3. 《職員体制》

管理者1名	サービス提供責任者2名以上 (訪問介護職員兼任)	訪問介護職員3名以上
-------	-----------------------------	------------

令和6年度 事業報告書

特別養護老人ホーム 大慈智音園

1.《基本方針》

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、入居者一人一人の意思及び人格を尊重し、入居者の居宅における生活への復帰を念頭に置いて、入居前の居宅における生活と入居後の生活が継続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいて入居者が相互に社会関係を築き、自律的な日常生活を営むことができるサービスを提供する

2.《最終目標》

心・和み・笑顔 ～私達が将来入居したい施設を目指します～

「いつでも前向き」「私はあなたで、あなたは私」「共に楽しみ、共に笑う」

- ・全ての人々の心を大切にします
- ・全ての人々の和を大切にします
- ・全ての人々が笑顔になれる場所にします

3.《令和6年度 施設の目標》

①人財育成（チームコーチングにより、人間力を向上させます。）

令和4年の1月より開始したチームコーチングを2年間継続して実施した。

1年目に信頼関係作りの為に意義のあるコミュニケーション場の提供が出来る様に会議の方法を変えた。2年目に入り、さらなる信頼関係作りの為には、会議の方法を変える一括の方法のみでは難しい事を実感した。

その為、個別の対応も並行して実施した。

・役職者の他にサポーターを任命し共に部署を運営していく人を育成する部署（リーダーの思いが、フロアすべての職員に伝わりやすくなった、フロア職員の思いがリーダーに伝わりやすくなった。）

・リーダーが居なかった為医務へリーダーを任命した（医務の意見として、まとめた意見が聞きやすくなった、逆に、医務への他部署の意見が伝わりやすくなった。）

・多くなったリーダーの仕事をフロア内の職員全員に役割分担を明確にした上で分けた部署（フロアの職員が自身の役割を把握する事で責任を持ち行動する事が出来るようになった）

今後も、部署内の状況や人材を考え、方法を変えてきめ細やかに考えアプローチする事で、役職者が、（自部署の状況を確認し、継続するのか、やり方を変えるかの判断と行動をしよう）本来の仕事が出来る事を目指していく。

②シフトシステム改革（無理なく、協力しあえるシフトシステム構築をします。）

人材不足におちいった際に、少ない人員で、今と同じサービスを提供できる様に、また、普段時には、今よりもレクリエーションやコミュニケーションの時間が確保出来る様に、1日1フロアを4人で勤務表を組んでいたものを、3.5人にして、それぞれのフロアを助け合う事を試みた。現状は、負担が偏ってしまったり、感染症や欠員が出た際に、止まってしまったりと言う問題点はみられているが、リーダー同士で話し合いコミュニケーションをとる姿がみられている事や有給がとりやすくなったと言う意見は聞かれている。現状の問題を解決し目的を達する事が出来る様に来年度も継続していく。

タイムマネジメントと言う意識を持って、シフトを作成出来る様に、事前の計画・準備の大切さを考え確認実行出来る仕組み作りを行っている。これに関しては、経過途中の段階である為、来年度、しっかりとした仕組み作りを確立させる。

③業務改善（職員から発信される無理と無駄をリサーチし、現場業務の見直しを行います。）

昨年度導入した、ほのぼのケアパレット（i Pad）、ピュアット（入浴介助器具）、Hug（移乗介助器具）については、良い点を積み上げる事と、改善点を毎月、常に確認する事を継続する事で、効率的に以前よりも使用できる様になっている。

今年度は、Bluetooth 型の血圧計、体温計を導入した。紙に書いてからパソコンに入力するという作業から、紙に書くという作業がなくなった事、さらに、入力間違いがなくなったと言うメリットが聞かれた。来年度は、さらに台数を増やす事で、使用表の削減につなげる。

兵庫県の労働環境改善支援事業のよる補助金を受け、wifi工事、インカム、Neos+Care（見守りカメラ）を導入した。インカムに関しては、他部署間で職員を探す手間が大幅に削減された、すぐに指示を仰げる、同じ部署間では1人では対応が難しい時にすぐに助けを呼ぶことが出来る様になった。Neos+Careに関しては、1月に導入したばかりであるが、端坐位・体位交換している等お部屋での様子が良くわかる様になった。動き出しが分かる様になった為、脱衣行為が防げる様になった。謎の内出血の訳が柵にぶついていると分かった。感染対応時に、必要最低限の訪室に出来る。訪室すればするほど興奮する方の安全を外から見守る事が出来た。朝なかなか起きない方の声かけのタイミングがはかれる様になった。お部屋のご様子が見える事で、ムダな訪室が大幅に減った。

移乗用ボードも新たに加え、職員の腰痛対策も行った。その際に、使用方法等を伝えていく仕組み作りを検討した。

今後も、業務改善を目指していく。

④福利厚生（職員を大切にする施設である事を、職員がさらに感じられる施設になります。）

職員を大切にする施設である事を、職員がさらに感じられる施設になる為に、3000円チケット「あなたが好きだからカード」を作成し、パンの移動販売、訪問整体、訪問美容、部署の食事会、オフィスグリコ等、自分が受けたい福利厚生に使用できる仕組みを作り上げた。職員からは、来年もやって欲しいとの声が多く聞かれている。

また、ゲストの家族からの喜びの声を職員全員に伝える仕組みを継続している。称賛の声が得られる事で、仕事へのやりがいや誇りに繋げている。

⑤サービスの充実（ゲストと家族に満足頂けるサービスを提供します。）

ヒトメコネクトによる、ご家族への随時連絡、ゲストのご様子をお伝えする写真とコメントは、毎月作成しご家族に送付する事は、今年も継続した。

ゲストの個々の願いを叶える事を令和5年度に実施した事で、令和6年度は、別表年間行事のゲスト全員に対しての行事とは別に、個々のご要望に答える形で、選べるサービス提供として、参加費を徴収する形で、ご希望の方の要望にお応えした多くの外出行事が実施出来た。選べるサービスとして、その他に、家族撮影会、訪問美容を4カ月に1回（10人弱参加）、訪問衣類販売を半年に1回（10人強参加）を継続的に実施出来た。

令和6年度から、新しく給食参観を始めた。施設でのお食事を居室で食べて頂く事で、どんな食事を食べて頂いているかの体験はもちろん、ご家族と家族との貴重なコミュニケーションの時間になったとの感想もたくさん頂けており、継続して実施していく予定である。

⑥部署や施設を超えた繋がり（共創する関係を作ります。）

医務部会、リハビリ部会、栄養部会、主任部会、相談員部会等、施設単位ではなく、法人全体で会議をする事が増えた。各々が、話合える関係となり、法人全体での協力体制が強化している。

令和6年度より、食を通じたつながり支援による、食品の配布を実施した。支援を受ける多くの方から、喜びの声が聞こえている。

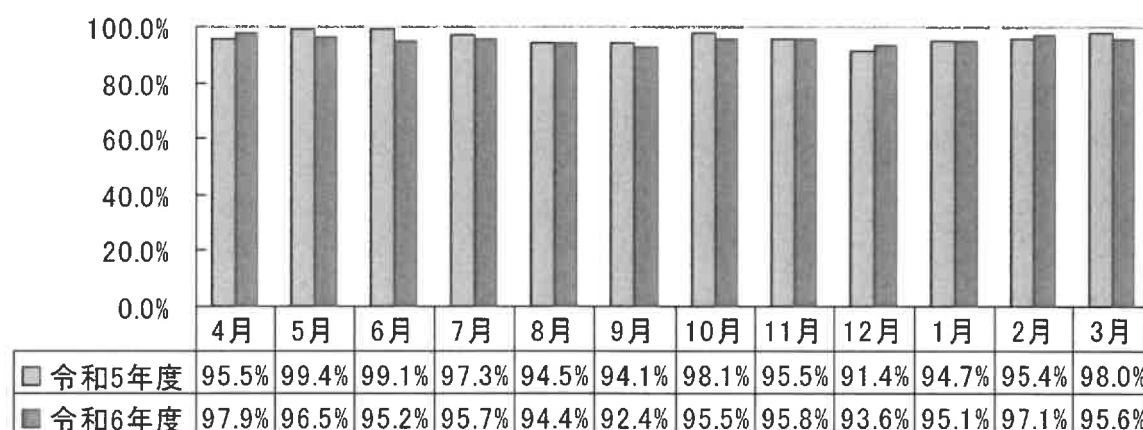
4.《経営部門》（定員70名）目標：充足率98％

特養単体にて、充足率を考えていたが、ショートステイと一体的に考えやすく出来る様に、ショートステイと合わせて施設の80床について、どれだけ稼働する事が出来たかを分かる仕組みに変えた（※3参照）。施設全体の稼働率として、目標が見やすくなった事で収益アップに繋がった。

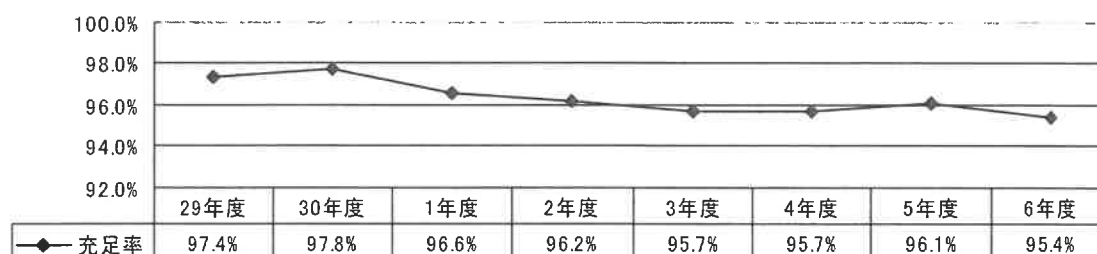
支出面では、警備10月から月1360円の値上げ、ごみ収集費10月から19800円の値上げ、パソコンリース（5年）代金9月から23809円の増加、電気料金の値上げ（電気使用量も28450kwhの増加により年間1,399,772円増加）、水道料金の値上げ等、令和6年度、特に年度後半に物価高騰の波が押しよせたと感じられる。そんな中でも、排泄タオル・おしぼり・使い捨てタオル 合計 R5年7,274,113円→R6年6,412,230円と861,883円の削減。水道使用量は402㎡の削減（78,822円削減）、ガス使用量は970㎡の削減（27,209円削減）水道とガスについては、ピュアットを導入した事により削減されている事が実感出来た。

今後も物価高騰、人件費アップにて、支出が増える事は予想される。収入を増やす事はもちろん、生産性向上に取り組み、無駄な時間と労力の削減に努めたい。

○令和5・6年度月別充足率表（定員70人）



○※1 年度別充足率推移



○※2 入退所等内訳表（人）（延）

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
① 令和5年度	23	11	35	27	11	0
② 令和6年度	18	9	30	22	11	0
増減②－①	-5	-2	-5	-5	0	0

○※3 ショートも含めた一体的な稼働率と床数表（定員 70+10）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
稼働率（80床中）	95.3%	95.0%	98.0%	98.1%	98.1%	95.8%	
月の残り床数	113	125	49	46	46	101	
月の使用床数	2287	2355	2351	2434	2434	2299	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
稼働率（80床中）	94.6%	97.3%	96.9%	97.5%	99.3%	98.3%	96.9%
月の残り床数	135	66	77	61	16	42	877床
月の使用床数	2345	2334	2403	2419	2224	2438	28323床

○介護度別年齢別等人数表

令和7年3月31日時点での在籍数

平均滞在期間37.5ヶ月（男性33.6ヶ月、女性38.7ヶ月）

最高滞在期間119ヶ月

	令和5年度				令和6年度			
要介護度	合計 人数	男	女	平均	合計 人数	男	女	平均
1	0	0	0		0	0	0	
2	1	0	1	93	1	0	1	83.5
3	29	10	18	87.8	23	7	16	89.1
4	23	4	19	87.6	23	5	18	89.7
5	17	5	12	85.1	22	4	18	87.7
合計	70	19	51	87.1	69	16	53	88.8
平均 介護度		3.7	3.8	3.8		3.9	4.0	4.0
平均年齢		83.7	88.6	87.1		85.2	89.3	88.8
最高年齢		98	101			100	101	
最小年齢		65	71			67	73	

5.《OFF-JT》

日付	研修内容	参加人数
4月30日	BCPについて 身体拘束適正化のための研修	8名
5月30日	事故発生防止（RM）について	7名
6月27日	身近な感染症の意識向上について ノーリフティングについて	14名
7月31日 10月4日 10月24日 12月6日 3月6日	コンプライアンス・高齢者虐待防止研修 身体拘束の適正化に関する研修	61名
10月16日	腰痛（労働衛生）	8名

	ノーリフティングについて 福祉用具使用方法	
10月31日	事故発生防止（RM）について	9名
12月3日	（感染）手洗いについて BCP 訓練	7名
2月28日	看取りオンコールの取り決め	7名
2月27日	個人情報・プライバシー配慮・ハラスメント・法令順守	6名
3月27日	労働衛生 次年度の事業計画について	4名

6. 《年間実施行事》

月	年間行事	
	施設内行事	
① 4月 2・4日 ② 4月8日 ③ 4月11日	① お花見お散歩（明石公園） ② 花見弁当 ③ 4階 揚げたて天ぷら	① 明石公園にお花見外出された。お花見を楽しみながら、普段食べない、たこ焼きを一緒に召し上がり喜ばれた。 ② 食事の雰囲気も楽しんでいただけるようランチョンマットを準備しゲストに選んでいただいた。食器も特別感があり、蓋を開けた時に「わー」と喜んでいただけた。 ③ 天ぷらを目の前で調理しているのを見ることも楽しまれた。提供が遅くなり「冷たかった」とのお言葉もあり、次回反省点として活かしたい。
① 5月10日 ② 5月12日	① 母の日（おやつ） ② 3階 揚げたて天ぷら	① カーネーションを女性ゲストにお渡しし「きれいね」「どれにしようかな」と笑顔も多くみられた。 マフィンについても食事形態により、トッピングの果物の大きさに注意し、事故なく提供することができた。 ② 大変喜んでいただけた。片方のユニットが行っている間、もう片方のユニットが待っている間の時間も長すぎず良かった。
① 6月14日 ② 6月2日 ③ 6月8日	① 父の日（おやつ） ② 2階 揚げたて天ぷら ③ 玉津中学吹奏楽訪問	① のれんや会議室を装飾したり、黒いTシャツ等の雰囲気作りを行い、楽しんでいただけた。炭酸飲料等提供し喜ばれた。 ② 目の前で揚げてもらいながら、出来立てを提供して大変喜ばれた。 ③ 毎年恒例の行事になっている。ご家族も参加し一緒に楽しむことが出来て良かった。

① 7月7日 ② 7月6日 ③ 7月4・5日	① セタ (ちらし寿司) ② 5階 揚げたて天ぷら ③ 流しそうめん ④ セタ短冊作り	① ちらし寿司が好評で食事を楽しんで頂けた。 ② 流しそうめんと同時に実施し天ぷらそうめんとして両方を楽しんで頂けた。 ③ 2日間分けて実施し全フロア流しそうめんを楽しんで頂けた。流れるのが早くつかめないことも笑いながら楽しんでいた。 ④ ゲストと一緒に短冊作りをしてコミュニケーションをとりながら作成することができた。
① 8月5・7日 ② 8月27・28日 ③ 8月3日	① スイカ割り ② ちいさい花火大会 ③ 4階 焼きたて焼き鳥	① 本物のスイカではなく、ゲストが割りやすい風船を使用した。職員付き添いで風船を割り見ている方を含めて楽しまれた。その後、スイカを食べて美味しかったと喜ばれた。 ② 台風で9月に延期となる。 ③ 皆様、美味しく召し上がられた。ただ、少し待ち時間が長くなってしまったことは反省点として次回に活かしたい。
① 9月28日 ② 9月6日 ③ 9月19日 ④ 9月5日	① 智音祭り ② ちいさい花火大会 ③ 敬老の日 (おはぎ) ④ 3階 焼きたて焼き鳥	① 毎年恒例の智音園での1番大きい行事、たくさんのご家族も参加し出し物や食事を楽しまれた。他施設職員やボランティアにも協力していただき、大盛況で開催することが出来た。 ② ご家族と一緒に手持ち花火や打ち上げ花火を楽しまれた。日の入りが遅く明るい時間帯であったので次回はもう少し遅く開催するようにする。 ③ 職員と一緒におはぎを作る所から楽しまれた。おはぎも美味しく喜ばれた。 ④ 普段あまり召し上がられないゲストも美味しそうに召し上がられていた。待ち時間も大きな問題はなかった。
① 10月23日 ② 10月3日	① 秋の味覚行事 (土鍋ご飯) ② 2階 焼きたて焼き鳥	① ゲスト様・家族様ともに「おいしかった」とおっしゃられていた。ご家族様からは、「食事の様子が見れて良かった」とのご感想もいただけた。 ② 普段出てこない焼き鳥を熱々で提供し大変喜んでいただけた。

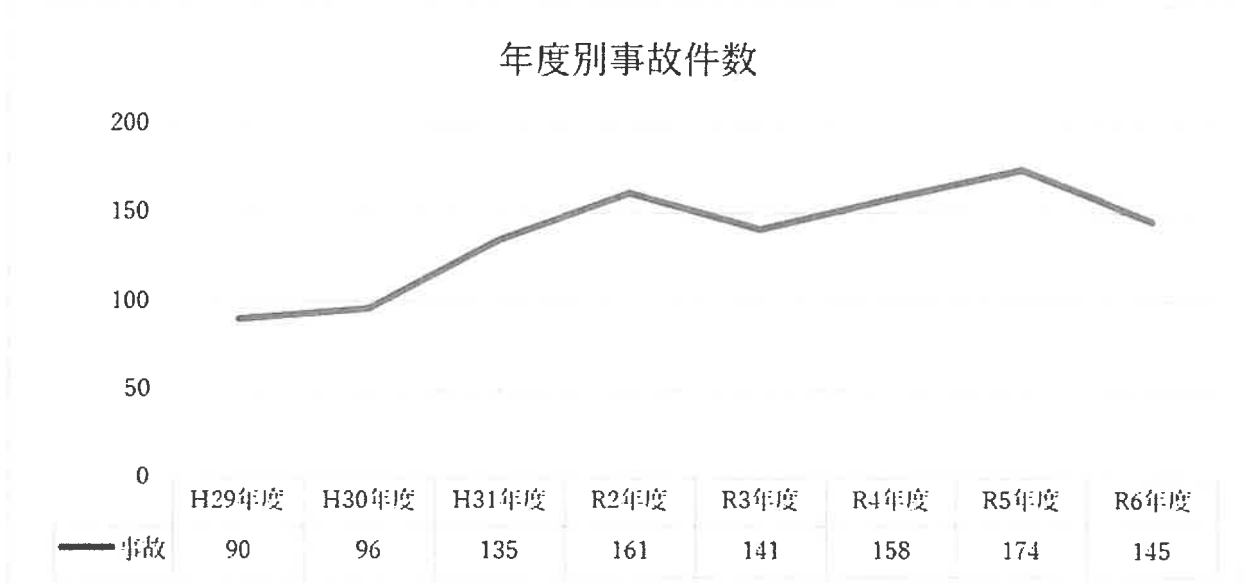
① 11月15日 ② 11月6日	① 焼き芋 ② 5階 焼きたて焼き鳥	① ゲスト様からは、おいしかったとのお声があり、おかわりしている方もいて大変好評だった。 ② よく召し上がっており好評だった。はんぺんが全員分無かった。種類が多く、選べる楽しさがあった。
① 12月22日 ② 12月31日 ③ 12月8日	① クリスマス会 クリスマスイルミネーション クリスマスランチ マフィンデコレーション ② 年越しそば ③ 4階 揚げたて串カツ	① 2階は職員がハンドベルを演奏し、楽しんで頂けた。4階入浴剤等のプレゼントやチキンナゲットやフルーツポンチをして好評、普段食べない人も食べていた。印刷したランチョンマットも行事毎にしたい。また、マフィンを提供し、喜んでいただけた。マフィンの大きさは、ご本人様の形態に合った大きさにして提供することが出来た。デコレーションもご本人様に行っていただき、楽しんでいただけた。 ② 毎年恒例の年越しそばを提供し美味しく召し上がっていた。 ③ エビなど食べ易く好評だった。バナナは賛否両論あり。量が多かった。
① 1月1日 ② 1月7日 ③ 1月12日 ④ 1月8日 ⑤ 1月4・5日	① おせち ② 七草粥 ③ 鏡開き（ぜんざい） ④ 3階 揚げたて串カツ ⑤ 初詣	① おせちを見た目から楽しんでいただけた。お正月の雰囲気を楽しんでいただけた。 ② 大きな問題なく召し上がられた。 ③ ぜんざいを提供し大変喜んでいただき、美味しいと好評だった。 ④ 串カツ好評でよく召し上がっていただけた。 ⑤ 諏訪神社に初詣に行かれた。お参りやおみくじをして喜ばれた。 諏訪神社に行けない方は施設内で神社を作りそこにお参りをしていた。
① 2月2日 ② 2月14日 ③ 2月1日 ④ 2月2日	① 節分（巻き寿司） ② バレンタインデー（チョコレートケーキ） ③ 2階 揚げたて串カツ ④ 節分（豆まき行事）	① 各階思考をこらしたレクリエーションが出来て盛り上がっていた。巻き寿司は好評だった。 ② ケーキからチョコフォンデュに変更した。珍しい物で大変喜んでいただけた。 ③ 串カツの種類が多く、大変喜んでいただけた。 ④ 新聞紙で豆を作り、安全に豆まきを行った。職員が鬼の衣装を着て楽しんでいただけた。

① 3月4日 ② 3月7日 ③ 3月7日	① ひな祭り (ちらし寿司) ② 5階 揚げたて串カツ ③ お雛様飾り	① 多くのゲストに大変喜んでいただきました。いなり寿司も提供し美味しいと好評だった。 ② 串カツの種類が多く、大変喜んでいただきました。 ③ お雛様を飾り、写真撮影を行った。きれいやねとたくさんのお声が聞かれた。
----------------------------	---	--

7.《リスクマネジメント報告》

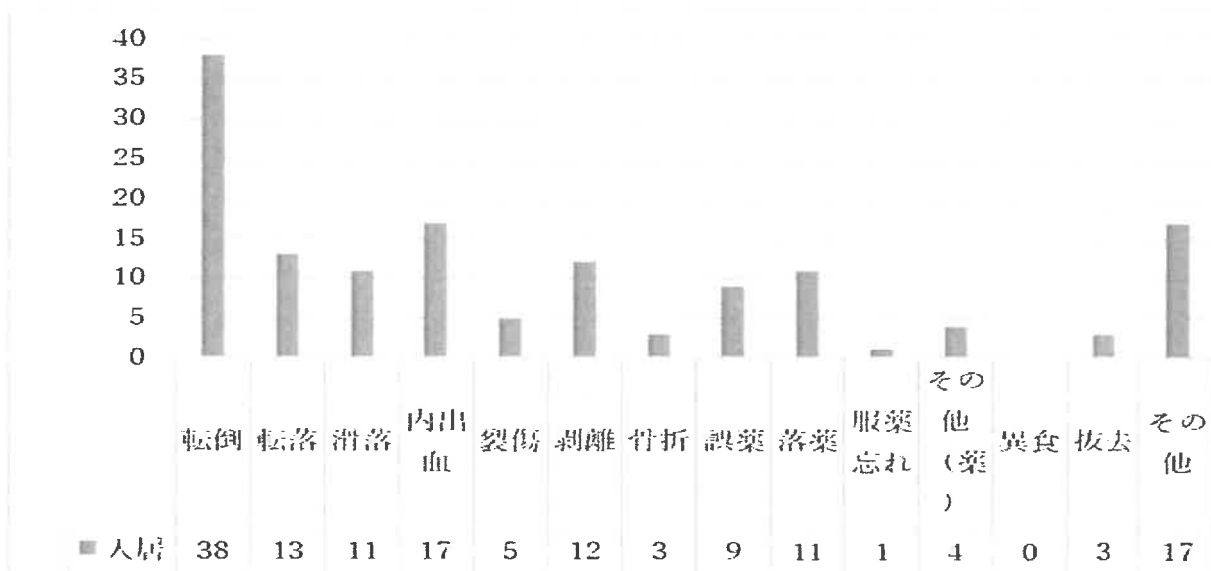
☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

① 報告件数



	令和5年度	令和6年度
事故件数	174件	145件

② 発生内容別件数



③ リスクマネジメントまとめ

前年度より事故総数は減少したが、薬関係の事故は増加している。服薬マニュアルやRM委員会で服薬業務の確認を行っているが減少には至らず、マニュアルの見直しから取り掛かり、OFF-JTにてマニュアルの周知を行い、事故防止に努める。来年度に向けては類似事故防止を目標にネオスケア（見守りカメラ）を活用し事故検証を行い、事故防止に努める。

8.《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→智音会議にて、多種職での話し合いの結果決定する。

○報告件数

令和5年度				令和6年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	58件	6件	52件		51件	4件	47件

○まとめ

面会に来たご家族が、施設の対応を見て、相談につながる。ゲストからの不満をご家族が聞き、相談につながる。等施設の力不足も多くあり、相談から学び次の対策を考える機会となっている。

相談者と施設のボタンのかけ違いで起こる相談については、一つ一つ丁寧に対応し、信頼を得る様に努めた。

ただ、謝罪するよりも、要望に対して、「出来ない」と言う事の方が難しく。出来ないと言う為には、ルールや内容を施設全体で把握しておく必要があり、施設全体での周知を心掛けた。

近年の相談内容からは、相談をされる側の職員の自信（どうして、そう言う行動が必要だったのかを理解し説明出来る力）や心の強さ（興奮している人に対応する力や無理難題を言われても行動出来る力）を高める教育も大切であると感じる為、人材育成に努めたい。

9.《総括》

チームコーチングにより、多くのプロジェクトが進行している。計画して実行する次の段階であるプロジェクトの進捗を確認、修正するという、PDCAサイクルのCとAに意識が持てる様になって来ていると感じる。その為、1から始めるのではなく、積み上げて来た物からさらに良い物を生み出す結果となった。

チーム力が向上した結果、入居とショートステイを一体的に、入居の部屋が空いている際には、ショートステイで利用する事がスムーズに行え、結果、大幅に報酬を上げる事が出来た。

令和6年度 事業報告書

大慈智音園ショートステイ

1. 《基本方針》

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的、身体的な援助を行う。又、居宅における生活と利用時の生活が継続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいてゲストが相互に社会関係を築き、自律的な日常生活を営むことができるサービスを提供する

2. 《最終目標》

心・和み・笑顔 ～私達が将来入居したい施設を目指します～

「いつでも前向き」「私はあなたで、あなたは私」「共に楽しみ、共に笑う」

- ・全ての人々の心を大切にします
- ・全ての人々の和を大切にします
- ・全ての人々が笑顔になれる場所にします

3. 《令和6年度 施設の目標》

①人財育成（チームコーチングにより、人間力を向上させます。）

大慈智音園同様

②シフトシステム改革（無理なく、協力しあえるシフトシステム構築をします。）

大慈智音園同様

③業務改善（職員から発信される無理と無駄をリサーチし、現場業務の見直しを行います。）

大慈智音園同様

④福利厚生（職員を大切にする施設である事を、職員がさらに感じられる施設になります。）

大慈智音園同様

⑤サービスの充実（ゲストと家族に満足頂けるサービスを提供します。）

大慈智音園同様

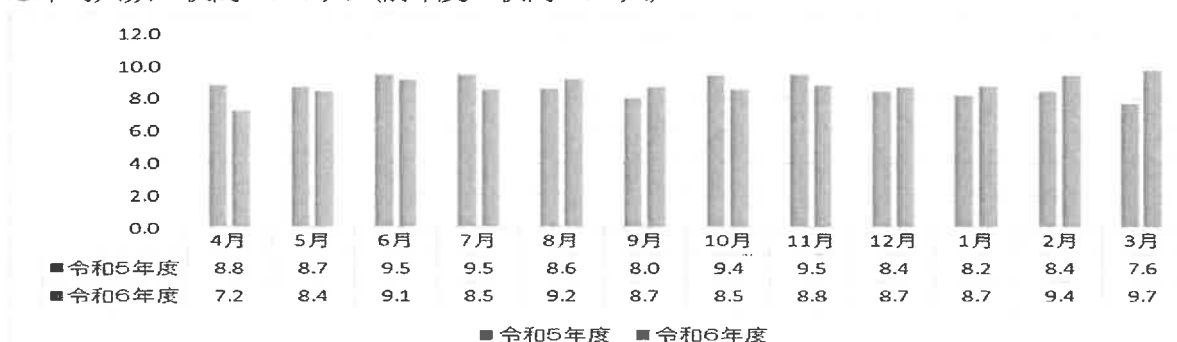
⑥部署や施設を超えた繋がり（共創する関係を作ります。）

大慈智音園同様

4. 《経営部門》（定員10名）目標：充足率 日中100%

日中96.6%という結果であったが、空床の数は含まれていない。空床も含めたショートステイの収入は大幅にアップしている。入居と施設全体で考えてご利用いただけた。

●平均人数→夜間8.7人（前年度 夜間8.7人）



●介護度別年齢別等人数表（令和6年3月31日時点での実人数）

要介護度	令和5年度				令和6年度			
	合計 人数	男	女	平均	合計 人数	男	女	平均
支援1	0	0	0		1	1	0	76.3
支援2	0	0	0		11	2	9	88.3
1	12	7	5	94.5	48	16	32	89.3
2	58	16	42	86.2	31	4	27	90
3	42	32	10	86.5	130	61	69	86.7
4	59	6	53	90.1	54	25	29	87.6
5	85	46	39	87.2	32	19	13	87.2
合計	256	107	149	88.1	307	128	179	84
平均 介護度		3.2	3.1	3.1		3.3	2.8	3.0
平均年齢		83	92.5	88.1		83.1	90.1	87.3
最高年齢		93	103			99	101	
最低年齢		67	82			71	58	

5. 《OFF-JT》

6. 《年間実施行事》

大慈智音園同様

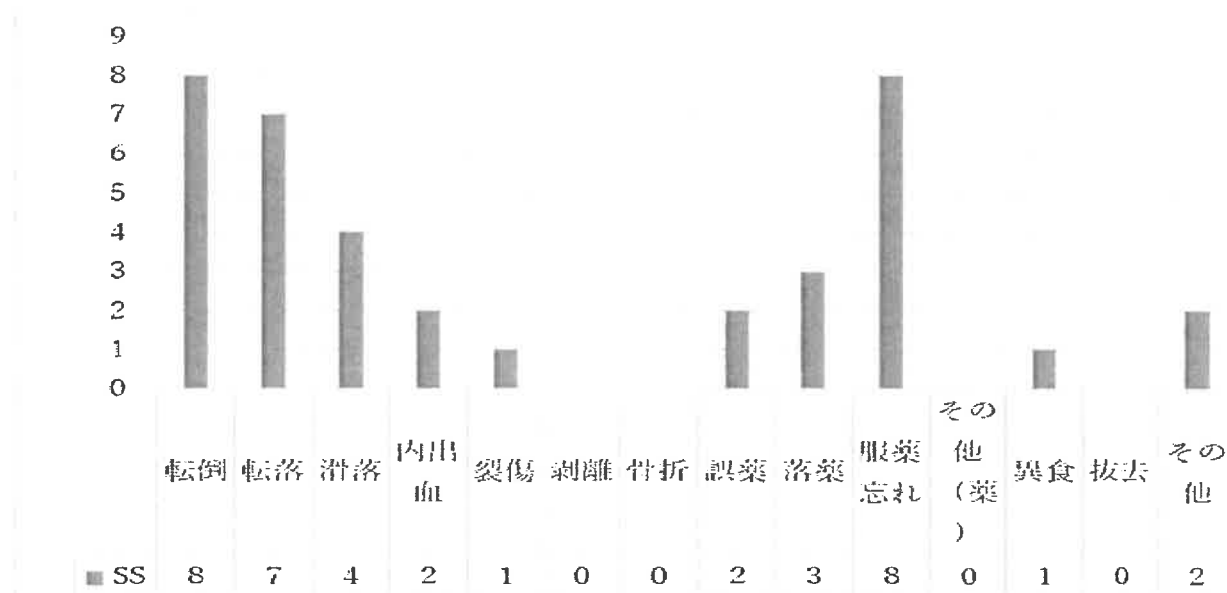
7. 《リスクマネジメント報告》

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

① 報告件数

	令和5年度	令和6年度
事故件数	38件	38件

② 発生内容別件数



③ リスクマネジメントまとめ

事故件数に関しては、前年度増減はなかった。SS のゲストは自立している方が多く、転倒、転

落の事故が多くなっている。ベッドセンサーや見守りカメラを活用し事故防止に努めたい。薬関係の事故が多くみられる。委員会は勿論、フロア会議やOFF-JT等でマニュアルや管理方法を周知徹底していく。

8. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→知音会議にて、多種職での話し合いの結果決定する。

○報告件数

令和5年度				令和6年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	16件	1件	15件		12件	0件	12件

○まとめ

苦情相談件数としては、12件であった。苦情目標の0件であった。
 ゲスト同士のトラブルの相談について、職員へ相談して頂ける関係性を築けていると感じる。
 洗濯物のトラブルについては、0件を目指したが、2件あった。来年こそは0件を目指したい。

9. 《総括》

特養と同じ様にPDCAサイクルを円滑に回す事が出来ている。
 当日利用等の急なご利用に対しても、多く対応した為、ケアマネジャーさんから「頼みやすい」とのお声も頂いた。
 空床利用を大いに活用できた為、施設一体で報酬が上がった。
 ショートステイと特養とが一体的に考え稼働していく事が出来た。来年度も、個々ではなく一体的に考えていける様にする。

1. 《基本方針》

法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、ゲストの人権を尊重し、自分らしく心豊かに生活を送っていただけることを目指し努力する。いつでも笑顔を絶やさず、思いやり・真心をこめて接することでゲストとの心のつながりを大切にする。ゲストが安全で健康的な暮らしができるようサポートする。

2. 《最終目標》

いきいきのびのびスマイリー運動

みんなが生き生き・みんなが伸び伸び・みんなが笑顔

(みんなとは、ゲスト・ご家族・職員を指します)

- ・生きがい・やりがいを大切にします
- ・自分らしさを大切にします
- ・自然と笑顔溢れる温かい雰囲気大切にします
- ・みんながしあわせになることを目指します

3. 《中期目標》

- ① 地域から、選ばれる施設にする
- ② 周囲から、この施設で働きたいと思われる事業所にする
- ③ まんだらシートに掲げた目標を達成させる

4. 《令和6年度重点目標》

＜ケア部門＞

- ① コーチング研修で学んだコーチングスキルをしっかりと習得する（2年目）

A) チーム力の向上を目指す

- ・全職員が共通の目標・価値観を理解・共有する
- ・チーム全体の意識統一、情報共有、役割分担を明確にする
- ・PDCA サイクルを繰り返し行い、継続的に改善していく

- ② ゲストが暮らしやすく、スタッフが働きやすい職場環境を目指す

A) 24時間シートを活用し、個別ケア（ゲストが望む生活）を充実させる

- ・スタッフ間で情報共有しケアの統一を図る
- ・効率的な人員運用を図る
- ・予防（気付き）を含め、ケガや事故のリスクを軽減させる

○まとめ

前年度から継続し、月に1度のコーチング研修を実施した。各介護フロアからの代表者、各専門職が参加。また、年度途中より総務部や居宅介護支援事業所からの参加を得ることができた。施設のビジョンや中期目標の達成を目指し、4つのプロジェクトチームを構成し、コーチング研修での学びを活かしながら行動計画を作成。チームがそれぞれ話し合いながら、ケアハウス大慈の成長に繋がるよう進めている。また、参加することができていない職員に関しても総合施設長より研修会を実施。全職員一丸となり目標に対しての共通理解が深まる

うとしている。次年度より各介護フロアの参加メンバーを役職者（リーダー・ユニットリーダー）へ変更を予定している。それにより組織全体としての連絡系統がスムーズになり、目標達成に向けてのスピード感のアップを目指していきたい。

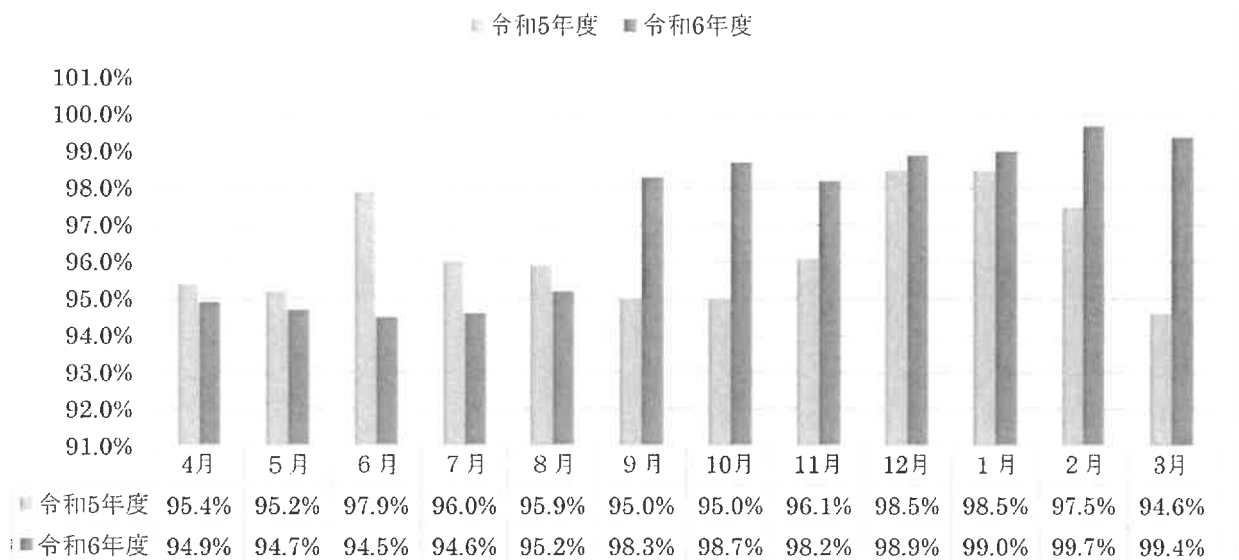
24時間シートに関しては全てのゲストに対しての作成が完了。しかし、活用までは至っておらず、課題が多く残った。効率的な人員の運用については、各フロア間で職員配置を協力し運営する風土ができつつあり、急な欠勤や欠員に対応している。

<経営部門>

① 在籍率97%以上、在園率95%を維持する

A) 確実な待機者数5名以上確保しておく

- ・各あんしんすこやかセンター、病院等、定期的な連絡・営業活動を実施する
- ・施設見学希望者に随時、対応していく



○入退所等内訳表

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
5年度	34	37	57	42	18	12
6年度	22	17	30	27	11	4
増減	-12	-20	-27	-15	-7	-8

<充足率> (90名定員)

充足率 令和5年度 在籍96.3% 在園90.6%

令和6年度 在籍97.2% 在園93.9%

○まとめ

前年度の充足率を上回ることができた。理由としては退所者の数が大きく減少したことが挙げられる。退所者の17名の内訳として、施設での看取りが7名、病院で亡くなられたゲストが5名、自宅復帰されたゲストが1名、他の介護施設へ転居されたゲストが4名となっている。他施設への転居として、金銭的な理由もあるが、介護度が高くなったことにより特別養護老人ホームへの入所を希望するご家族も増えつつあり、今後の課題も明確となっていく。入院数も大きく減少させることができおり、全職種の努力の成果といえる。次年度においても充足率を安定・向上することができるよう待機者の確保や迅速な入所を調整していきたい。

○介護度別年齢別等人数表 (定員90名)

要介護度	令和5年度				令和6年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
非該当	4	1	3	89.93歳	4	2	2	89.13歳
支援1	16	2	14	92.39歳	16	2	14	90.80歳
支援2	7	2	5	92.25歳	3	0	3	92.67歳
1	16	0	16	87.72歳	22	1	21	89.43歳
2	12	3	9	91.63歳	16	4	12	92.32歳
3	8	3	5	87.81歳	10	3	7	89.57歳
4	14	4	10	91.86歳	10	2	8	88.58歳
5	10	1	9	94.94歳	8	1	7	92.67歳
合計	87	16	71		89	15	74	
平均介護度	2.8	2.9	2.8		2.0	2.1	1.9	
平均年齢		82.78歳	92.02歳	90.35歳		84.67歳	93.9歳	90.5歳
最高年齢		98歳	100歳			99.2歳	100.8歳	
最小年齢		69歳	71歳			60.9歳	71.1歳	

5. 《環境整備計画》

大規模修繕計画を作成し、経年劣化による修繕と業務効率を意識した整備を実施する

- ① アルファード、エブリー車を廃車し、キャラバン等の寝台車を1台購入
→上記2台を廃車とし、日産セレナを購入 金額 4,195,710円(税込)
- ② 全居室空調機器更新工事
→次年度以降へ持ち越し
- ③ 排煙オペレーター修理工事
→修理工事完了 金額 605,000円(税込)
- ④ 感知器全数交換工事・非常灯交換工事
→次年度以降へ持ち越し
- ⑤ 屋上チラー更新工事(2機)若しくは3機
→次年度以降へ持ち越し
- ⑥ 浴室修繕工事
→次年度以降へ持ち越し

6. 《地域貢献事業》

- ① 社会貢献委員会が主催する行事
- ② ほっとかへんネットKOBÉ・西との連携

○まとめ

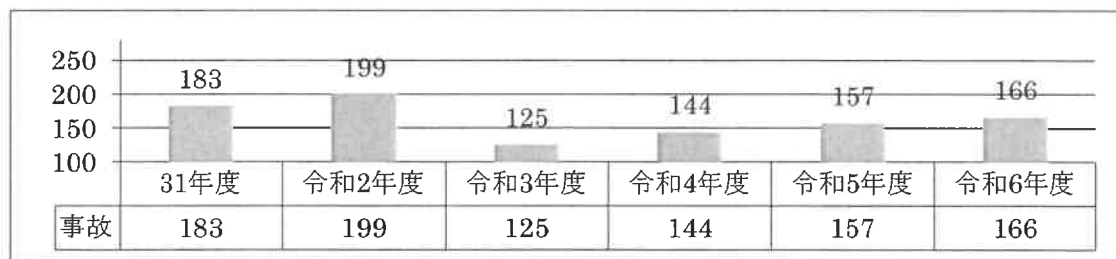
大慈弥勒園に準ずる

○令和6年度補助金

補助金・助成金	申請先	部署	金額	申請日	入金日
実務者研修等に係る代替職員の確保事業補助金	兵庫県高齢政策課	ケア	190,000	R6.7.1	R7.2.6
介護職種外国人技能実習生等日本語学習支援等事業	神戸市介護保険課	ケア	200,000	R6.7.1	未入金
介護人材確保・定着支援事業	兵庫県シルバーサービス事業部	ケア	93,725	R6.8.10	R7.2.5
介護業務における労働環境改善支援事業補助金 (介護ロボット補助金)	兵庫県高齢政策課	ケア	3,547,000	R6.8.30	R7.2.27
神戸市新規採用介護職員に関する住宅手当等補助事業	神戸市介護保険課	ケア	560,000	R6.9.20	未入金
結核予防費補助金	神戸市保健所保健課	ケア	81,282	R6.10.20	R7.1.10
			計 4,672,007		
		未入金額	計 760,000		

7. 《リスクマネジメント報告》 ☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

① 報告件数



②事故・等内訳表

平成5年度				令和6年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
	1041 件	157 件	884 件		1832 件	166 件	1666 件

③フロア別内訳

令和5年度				令和6年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
2F	99 件	20 件	79 件	2F	69 件	16 件	53 件
3F	157 件	28 件	129 件	3F	483 件	34 件	449 件
4F	76 件	24 件	52 件	4F	221 件	27 件	194 件
5F	458 件	45 件	413 件	5F	598 件	51 件	547 件
6F	251 件	40 件	211 件	6F	461 件	38 件	423 件
合計	1041 件	157 件	884 件	合計	1832 件	166 件	1666 件

④内容



○まとめ

- ①事故件数・ドキドキ件数が増加。危険予知の能力が向上し、職員間での共有が図れた結果であると考えられる。危険予知の段階で防げるようにしていきたい。
- ②神戸市報告案件が13件確認されている。事故に対する対策を講じるのは当然であるが、日常生活の延長線上にあると捉え、潜在的・顕在的なものを多角的に考察し、事故件数の減少に努めていく。
- ③委員会の取り組みとして、フロア職員以外の介護職・専門職と要因を採掘して考えることで対策に対しての裏付け（妥当性）がとれ、根拠を持った対策に繋げることができた。
- ④介護現場で事故発生をゼロにすることは非常に困難であるが、職員間、ご家族、関わるすべての人と情報を共有し、安心安全な環境を整えていけるように取り組んでいく。

8. 《苦情・相談報告》

☆苦情提議・・・サービス向上委員会にて話し合い、苦情か相談かを決定する。

<報告件数>

令和5年度				令和6年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	43	7	36		19	1	18

○まとめ

前年度に比べ、今年度は苦情・相談件数が大きく減少した。主だった苦情・相談事項の内容は、初動対応のまずさで苦情が大きくなったことが挙げられる。前年度と同様に情報共有、他部署との連携の不足、ゲストやご家族への気遣いや配慮、説明不足など、どの項目に関しても多くの課題が残った。感染対策が落ち着き、通常通りの面会が可能となっており、ご家族との関係作りに再度尽力したい。

9. 《職員会議等》

頻度	会議名			
月1回	法人運営会議	事業戦略会議	会計会議	だいじな会議
	フロア会議	リーダー会議	経営会議	
随時	ケアカンファレンス			

<委員会活動>

委員会名		
サービス向上委員会	事故再発防止対策委員会	身体拘束適正化検討委員会

虐待防止検討委員会	感染防止対策委員会	非常災害時対策・設備委員会
チェリッシュ委員会	看取りケア委員会	褥瘡防止対策委員会
外国人労働者担当者会議		

10. 《月行事・行事食・年間行事》

＜食事＞

行事食（赤飯）	毎月1日
---------	------

月	行事		健康・予防接種	年間計画	防災計画
	施設年間行事 外出行事	栄養科	項目	内容	項目・内容
4月	お花見 外出	お花見 ティータイム	ゲスト定期健診	採血 胸部X線	新人向け研修・ 消火訓練
5月	母の日 こどもの日	母の日 こどもの日	全職員定期健診	採血 胸部X線 検尿・検便 心電図	
6月	父の日 棒サッカー大会	父の日			
7月	七夕	七夕 16周年記念 バイキング			
8月	スイカ割り	かき氷			避難訓練 (日中想定)
9月	100歳のお祝い	お餅つき			OFF-JT (不審者・火災 想定) 図上訓練
10月	ゲーム大会		予防接種 (全職員)		
11月			インフルエンザ 予防接種 (ゲスト) 介護職員定期健診	採血 採尿	避難訓練 (夜間想定)
12月	クリスマス会	クリスマス会			
1月	初詣	おせち 七草粥			神戸市 シェイクアウト 訓練
2月	豆まき	節分			避難訓練 (夜間想定)

3月	ひな祭り	ひな祭り			OFF-JT (災害・ 地震想定図上 訓練)

1 1. 《職員構成》

施設長	副施設長	生活相談員	看護職員 (パート)	管理栄養士
1名	1名	1名	2(2)名	2名
事務員	介護職員 (1フロア)	介護職員 (パート) (1フロア)	機能回復訓練士	運転手
2名	7名	3名	1名	2名

1 2. 《総括》

前年度と比べ、充足率を向上させることができた。ただし、待機者を多く確保するには至っておらず。空き部屋を有効活用するために年度途中(2月1日)に短期利用の開始届出を提出。次年度以降も積極的に広報活動を行い『ケアハウス大慈』を多くの方に知っていただき、見学者を増やしたい。『選ばれる施設』となるには何が必要で、何をすべきか、を模索していきたい。

職員間の情報共有の不足や受け身姿勢型の業務の在り方などの課題も依然として大きく、コーチング研修を通して、改善していくことができればと考える。今後のケアハウス大慈として、個別ケアの充実や職員が働きやすい職場、サービスの質、専門性の向上を目指し、組織体制の変革などを行っていく。

1. 《基本方針》

法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、ゲストの人権を尊重し、自分らしく心豊かに生活を送っていただけることを目指し努力する。いつでも笑顔を絶やさず、思いやり・真心をこめて接することでゲストとの心のつながりを大切にする。ゲストが安全で健康的な暮らしができるようサポートする。

2. 《最終目標》

いきいきのびのびスマイリー運動

みんなが生き生き・みんなが伸び伸び・みんなが笑顔

(みんなとは、ゲスト・ご家族・職員を指します)

- ・生きがい・やりがいを大切にします
- ・自分らしさを大切にします
- ・自然と笑顔溢れる温かい雰囲気大切にします
- ・みんながしあわせになることを目指します

3. 《中期目標》

- ① 地域から、選ばれる施設にする
- ② 周囲から、この施設で働きたいと思われる事業所にする

4. 《令和6年度重点目標》

＜ケア部門＞

- ① コーチング研修で学んだコーチングスキルをしっかりと習得する（2年目）

A) チーム力の向上を目指す

- ・全職員が共通の目標・価値観を理解・共有する
- ・チーム全体の意識統一、情報共有、役割分担を明確にする
- ・PDCA サイクルを繰り返し行い、継続的に改善していく

- ② 個別ケアサービス計画の充実を図る

A) カラオケ・リズム体操などの集団レクリエーション、個別のニーズや要望に応じた楽しみを提供する

B) 居宅サービス計画書を基にショートステイでもサービス計画書作成し、目標を達成できるよう努める

- ・お好きな事柄を入れ、個別性を高める

○まとめ

前年度から継続し、月に1度のコーチング研修を実施した。各介護フロアからの代表者、各専門職が参加。また、年度途中より総務部や居宅介護支援事業所からの参加を得ることができた。居宅介護支援事業所職員が参加することとなり、研修の中でショートステイさくらのサービス内容を共有することや課題を分析、検討することができている。

集団レクリエーションについては、週に1度のシルバー体操やリハビリ器具を使った運動など好評を得ており、定着している。居宅サービス計画書に関してもお好きな事柄を入れて個別性を高めた個別サービス計画書を作成できている。

<経営部門>

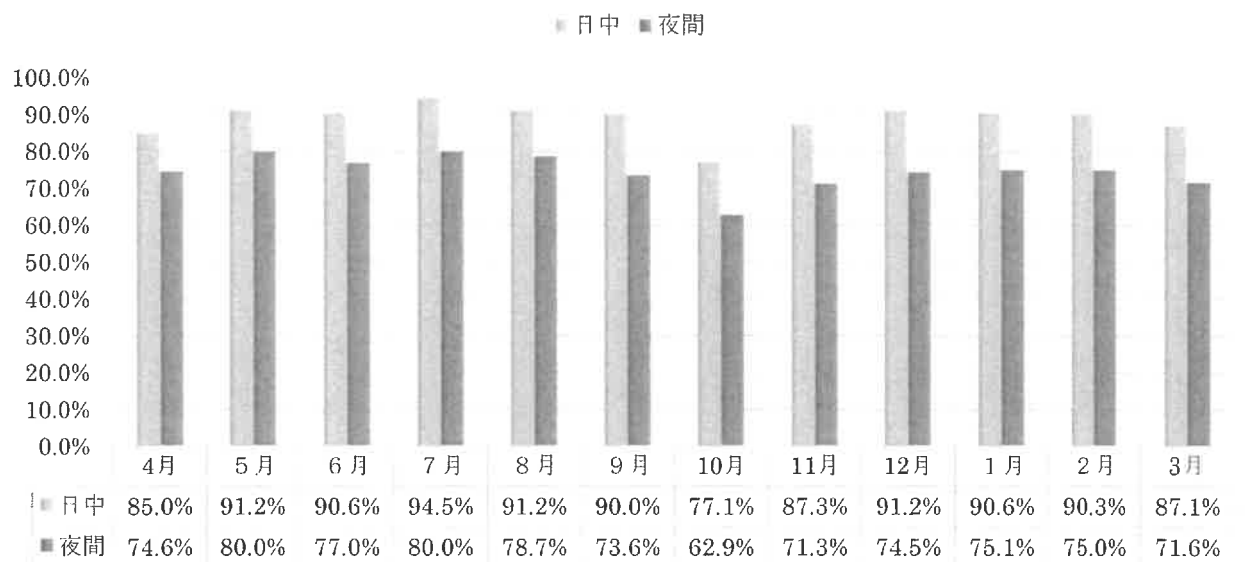
① 充足率の向上（目標95%以上）

- ・空きベッドの公開、外部への連絡調整を行う
- ・ケアカンファレンスへ参加し、ケアマネジャーとの情報交換に努める

② 定期的な営業活動の実施

- ・あんしんすこやかセンター、病院関係等への訪問

<充足率>（10名定員） 日中充足率88.8% 夜間充足率74.5%



○入退所等内訳表

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
5年度	294	294	0	0	0	0
6年度	346	346	0	0	0	0
増減	+52	+52	0	0	0	0

○介護度別年齢別等人数表

要介護度	令和5年度				令和6年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
1	92	23	69	88.45歳	115	44	71	86.67歳
2	70	16	54	86.52歳	63	17	46	82.92歳
3	81	18	63	88.77歳	96	23	73	86.71歳
4	38	4	34	92.92歳	60	6	54	92.83歳
5	13	9	4	89.29歳	12	4	8	86.14歳
合計	294	70	224	89.19歳	346	94	252	87.03歳
平均介護度		2.4	2.6	2.5		1.9	2.6	2.4
平均年齢		81.56歳	90.94歳	88.92歳		83.26歳	89.29歳	87.89歳
最高		95歳	103歳			93歳	99歳	

年齢								
最小年齢		57 歳				65 歳	74 歳	

○まとめ

前年度と比べ日中は3%、夜間は6%ほどの充足率が下がっている。新規利用者の確保はできているものの、利用開始日直前に体調不良や入院、他の入所施設への入所が決定したなどの理由によるキャンセルが大きく影響している。ショートステイとしてのサービスの質においては利用者やご家族、担当ケアマネジャーからの信頼は高まりつつある。キャンセルが出た際の調整や補充などの課題解決には繋がっておらず、今後の課題である。担当者会議へは積極的に参加しており、新たな利用者確保のための営業を続けていく。

5. 《環境整備計画》
6. 《地域貢献事業》
7. 《職員会議等》
8. 《月行事・行事食・年間行事》
9. 《職員構成》
- 10.《苦情・相談》

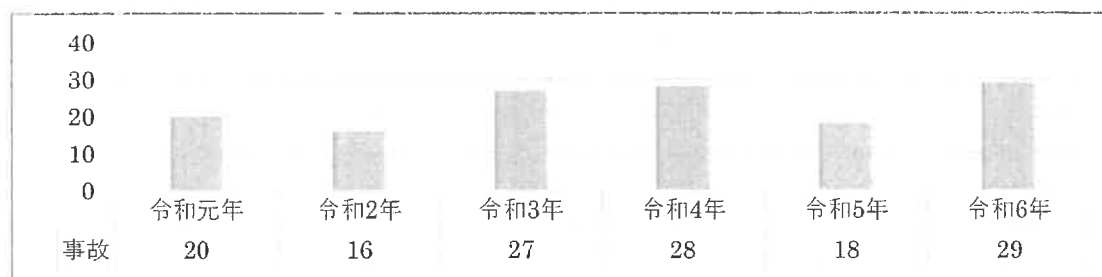
ケアハウス大慈に準ずる

11. 《リスクマネジメント報告》

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数

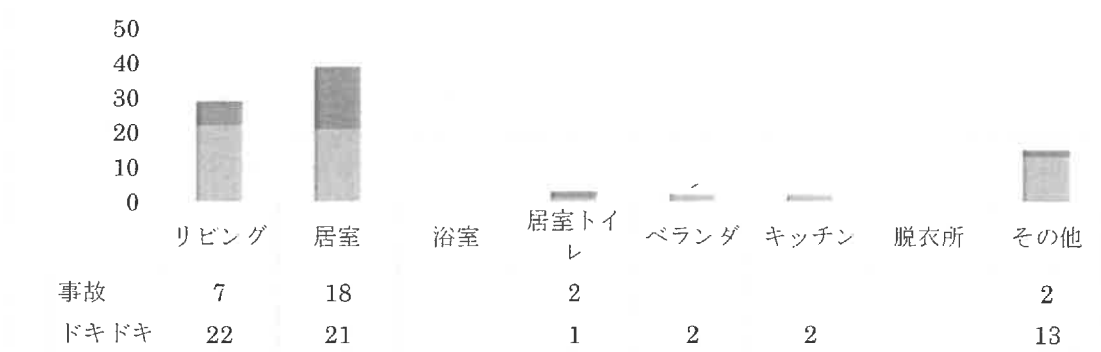
○年度別事故件数



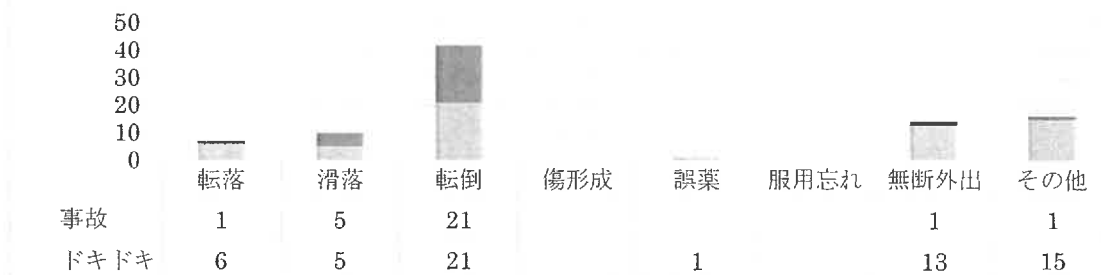
令和5年度				令和6年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
	230 件	18 件	212 件		90 件	29 件	61 件

神戸市事故報告書案件：1件（6月13日）

○発生場所別件数



○内容



○まとめ

- ①前年度比として、ドキドキ件数が減り、事故件数が増えている。内容については居室での転倒事故が多かった。
- ②認知症の周辺症状として「異食の恐れ」が1件あった。今後しては面接の段階で、認知症の既往歴などがあれば、ご家族やケアマネージャーへ周辺症状について確認し、対策を講じていく。
- ③委員会の取り組みとして、当フロア職員以外の介護職・専門職と要因を探届して考えることで対策に対しての裏付け（妥当性）がとれ、根拠を持った対策につなげることができた。
- ④介護現場で事故発生をゼロにすることは非常に困難であるが、職員間、ご家族、担当ケアマネージャーなど、関わるすべての人と情報を共有し、安心安全な環境を整えていけるように取り組んでいく。

12.《総括》

リピーターの数や新規利用者の数の増加からショートステイさくらの知名度や信頼度は徐々に高まってきていると感じる。しかし、充足率は前年度と比べ下回る結果となった。大きな原因として、キャンセル時の対応と課題は明確である。次年度は営業活動に力を入れ、各事業所のケアマネージャーとの関係作りやショートステイさくらのサービスを知っていただく、機会を増やしていく。

令和6年度 事業報告書

西神南あんしんすこやかセンター

1. 《基本方針》

- ①介護保険制度をはじめとする市町村の介護・福祉行政の一翼を担う機関であることを認識し、公正中立な事業運営を行う。また、地域の特性や実情を常に把握し何事に対しても柔軟に対応をしていく
- ②職員相互で常に情報を共有し、互いの業務の理念・基本的な骨格といったものを理解した上で、連携・協働の体制を整え、地域包括支援センター業務全体をチームとして支えていく
- ③圏域の居宅介護支援事業所・介護サービス事業所・地域と密に連携をとり、地域包括ケアの充実を図る

2. 《実績》

○介護予防ケアプラン数

請求合計4,274件 前年149件減

(直営担当数:2,478件 前年比157件増、委託数1,796件 前年比306件減)
月平均は356件(前年368件)。

新規ケース数は年間134件(前年比3件減)。月平均11件。

今年度より、居宅介護支援事業の予防支援事業所指定が可能となったことにより、要支援のケースでも居宅介護支援事業所が直営として担当できるようになった。そのため、委託ケースの数が減少している状況。逆に、センター内部としては、その数年職員の退職や移動が続いていた中、今年度は安定した雇用を継続できたこともあり、直営ケースの件数を伸ばすことができた。年度末には職員に対し事業所会計の勉強会を開催したことにより、コスト意識の向上を図ることもでき、今後も直営ケースの安定した確保を目指したい。

○令和5年度月別請求件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
直営件数	192	195	197	201	205	207	208	207	216	214	222	215	2478
委託件数	172	174	168	159	152	143	141	139	139	142	136	131	1796

○令和5年度月別新規件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
直営件数	2	12	6	6	8	6	7	7	9	9	12	6	90
委託件数	10	5	0	3	2	2	5	1	6	5	3	2	44
新規合計	12	17	6	9	10	8	12	8	15	14	15	8	134

3. 《目標に対しての報告》

①相談対応の充実

○介護者支援の充実

在宅介護をされている方を対象に、介護リフレッシュ教室を年間6回(偶数月)開催。参加者同士が、ご自身の介護体験や悩みを話せる自助グループとしての役割を担っている。窓口相談に来られた認知症ケースのご家族などへ開催の案内を行い、新規の利用者も多

い。今年度は新たに圏域内の薬局にも開催の案内を配布し、事業の啓発に努めた。

(内容)

4月24日：在宅介護について（講師：デイサービスあさんて 管理者 加藤長年氏）

6月26日：笑いヨガ（講師：水島寿子氏）

8月27日：納涼・安らぎの音楽（演奏：河合千佳子氏）

10月29日：介護体験談、日々の介護の情報交換（講師：認知症家族の会）

12月25日：クリスマス会

2月25日：介護体験談、日々の介護の情報交換（講師：認知症家族の会）

今年度は年6回全て開催する事ができた。毎回、10名前後の参加者があり、日々の介護に関する悩みの相談や情報交換を行った。次年度は他のセンターの取り組みの見学も行い、開催内容に取り入れていく検討を行っていく予定。

○地域力の向上

10/19西神井吹台住宅集会所で開催される「ゆうゆうつどい場」にて権利擁護講座を開催。最近の消費者被害の動向や、高齢者虐待、成年後見制度の説明等を行った。また、1/21には樫谷町にて地域ネットワーク会議を開催。樫谷長寿会を始め、民生委員、圏域内事業所等が一堂に会し樫谷町の地域課題に対してグループワークで検討を行った。農村部特有の難しさもあるが、今後樫谷町でのフレイル予防に繋げて行くための一歩となった。

○地域の関係者との連携

圏域内の高齢者を対象とした行事に参加し、参加者の状況や地域の声の収集等行っていた。

(参加行事) 井吹台住宅集会所：やさしい体操、ゆうゆうつどい場

西神南住宅集会所：いきいき百歳体操、みんなのたまり場

井吹東地域福祉センター：ふれあい給食会、ふれあい喫茶、敬老会

井吹西地域福祉センター：いきいき百歳体操、ふれあい給食会

井吹北地域福祉センター：北町カフェ、敬老会

樫谷地域福祉センター：おもと会

ルゼフィール井吹台集会所：フレイル予防体操、練功十八法、

カフェいばしょ、

グランコリーナ集会所：カフェぐらん 等

○相談窓口の周知徹底

センター広報誌、「すこやか便り」を5月11月2月に発行。民生委員の会議や地域行事にて配布を行った。また、広報誌を通じて、地域ネットワーク会議の報告やあんしんすこやかセンターの紹介も行い、センターの活動を広く住民に知っていただく機会とした。

○認知症事業の啓発

今年度は樫谷民生委員の方々を対象に、認知症サポーター養成講座と認知症高齢者声掛け訓練を行った。開催前は「樫谷では認知症高齢者が迷子になっているケースはなかなか無い」といった意見が民生委員から上がっていたが、実際に行うことでイメージもできたようで、「買い物の場などでは怪しい人を見たこともある」と訓練に積極的に参加していた。

相談支援に関しては、圏域内での認知症に関する相談も年々増加している状況。必要時相談者へ認知症神戸モデルやあんしん登録事業の提案を行った。困難ケースの解決にはオ

レンジチーム（認知症初期集中支援チーム）との連携を図りながら対応を行い、必要なサービスへ繋いでいく事ができた。

②介護予防の充実

○介護予防ケアマネジメントの充実

神戸市主催の研修にも参加し、適正なケアマネジメントを行う事が出来ている。
月に1回、神戸市介護保険課より巡回訪問あり、指摘事項に関しても迅速に改善を行っている。

また、月1回の事例検討会をセンター内で開催し、職員のケアマネジメントスキルの向上、事例検討能力の向上を図った。

○介護予防事業への推奨

日々の相談ケースに関し、必要時介護保険認定申請を行い、必要な介護予防サービスへつないでいる。既存のサービスだけでなく、地域でのインフォーマルサービスなどにも繋いでいる。

③地域見守りの強化

○地域団体との連携、コミュニティづくりの充実

今年度も参加できる行事や会議などには感染対策に留意しながら参加した。
前年度より、前年度開催ができなかった、櫛谷地域での地域ケア会議を開催し、フレイル予防の必要性を呼び掛けた。「フレイルを自分事としてとらえてもらう」事が目的の一つではあったが、「まだ自分は大丈夫」という意見も多く、都市部とは違った難しさもあった。
今後は既存の集まりで何らかのフレイル事業が展開できないか、地域の介護保険事業所も交えて検討を行っていく。

4. 《会議》

	頻度	会議名
開催	月1回	あんすこ・居宅内部会議(事業所内)
		ネットワークミーティング
	月2回	伝達会議
	随時	地域ケア個別会議 地域ネットワーク会議
参加	月1回	西区あんしんすこやかセンター連絡会
	年2回	神戸市あんしんすこやかセンター区代表者会
		各民生委員児童委員協議会定例会（井吹東、井吹西、櫛谷、伊川谷）
	年1回	西区実務者会
		西区地域ケア会議
		西区虐待防止検討委員会
	随時	職種別連絡会(主任ケアマネジャー・保健師・社会福祉士・地域支えあい推進員)
		西区地域ケア会議ワーキング
		西区認知症ワーキング
		認知症初期集中支援チーム員会議
		神戸包括西区ブロック会議
		待コア会議

5. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→センター長が直接対応した件を苦情とする。

○令和6年度報告件数

令和5年度				令和6年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	1件	1件	0件		1件	0件	1件

精神的に不安定な利用者で、サービス内容の変更も多かったケース。新人職員に担当が変更になったこともあり、ご本人の訴えが二転三転する状況が続き職員の対応へのクレームにつながった。

様々な困難状況が重なり、問題の多様化も多くなっている昨今、相談援助力の向上のためにも、コミュニケーション力を上げる外部研修へ職員が順に参加していけるようにし、今年度は1名の参加を行った。

6. 《総括》

圏域内の高齢者数は年々増加しており、農村地域以外のニュータウン地域でも高齢化率が40%を超える地域も出てきている。そういった地域は、50台後半から60台の人口も多く、今後更に高齢化率の上昇は継続すると思われる。

高齢化の進行に伴い相談は変わらず多い状況で、認知症に関する相談も多くなっている。今年度より制度改正で、居宅介護支援事業所が予防支援事業所の指定を取得できるようになったことにより、近隣の居宅介護支援事業所で要支援の直営担当を行う事も出てきたため、請求プランの総数は減少している。しかし、圏域内全体で介護保険を利用する人口は増えていると思われ、直営ケースは157件増加している状況。今年度は予防プランナーも安定して雇用できたため、件数の増加につながった。また職員に対し、事業所の収支の勉強会を開催したことにより、コスト意識の向上も図れたと思われる。

今年度は樺谷町での地域ケア会議も開催することができた。農村部独特の意識や考えもあり介入に苦慮する事もあるが、地域の課題の一つである「フレイル予防」の取り組みに向けて、今後も話し合いを重ねていきたい。

令和6年度 事業報告書

居宅介護支援事業所 大慈園

1. 《基本方針》

- ①可能な限り住み慣れた地域において、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営む事ができるよう支援する
- ②公正中立な立場で、自己決定ができるように援助する
- ③質の高いケアマネジメントの推進
- ④地域包括ケアシステム内の関係構築

2. 《最終目標》

「豊かで安心できる在宅生活の実現」

- ・介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で最期まで過ごせるよう、様々な社会資源を活用し生活をサポートしていく

3. 《目標》

①介護支援専門員としての資質の向上

- A) 事例検討会を年5回行う（一人1事例）
- B) 事例検討会で検討したケースのケアプラン点検を行う
- C) 職務基準書（兼業務マニュアル）の見直しにより業務手順の再確認を行う（継続）
- D) 地域ケア会議、地域ネットワーク会議に参加し、学びを事業内で共有する
- E) 予防支援業務従事者研修を受講し、全員が予防支援業務を行える体制を作る
- F) 報酬改定の内容の理解

○事業所内勉強会及び研修参加状況

月	事業所内勉強会	外部研修	他
4月			
5月	5/7 事例検討会①	5/18 カスタマーハラスメントの予防と対策 5/22 口から食べられなくなった時の栄養方法	
6月	6/8 事例検討会②	6/14 ファインリンクの便利な活用について 6/15 気づきの事例検討会 6/21 介護予防ケアマネジメント研修 6/28 居宅のBCP作成について	6/21 地域ケア会議
7月	7/16 事例検討会③	7/24 こども若者ケアラーへの支援 7/26 運営指導・監査対応セミナー	7/12 集団指導伝達
8月	8/30 事例検討会④		
9月	9/2 報酬改定勉強会 9/6 事例検討会⑤	9/20 自立支援型ケアマネジメント研修	
10月		10/10 災害時の対応 10/18、10/30 スーパービジョン研修	10/16 運営指導 10/24 虐待研修

		10/26 気づきの事例検討会 10/31 西区高齢者虐待防止研修	
11 月		11/14 金銭管理に課題のある方の支援 11/16 気づきの事例検討会 11/20 スーパービジョン研修	11/19 認定調査員現認研修
12 月		12/6 公開事例検討会	12/3、12/6 虐待研修 12/11 コーチング① (あん居合同)
1 月	1/16 ケアプランチェック①② 1/27 ケアプランチェック③	1/15、1/29 地域同行型初任者研修 1/18 気づきの事例検討会	1/21 地域ケア会議
2 月		2/11 パーキンソンの言語療法 2/19、2/26 地域同行型初任者研修	2/5 コーチング② (あん居合同)
3 月	3/20 ケアプランチェック④⑤	3/15 倫理と権利擁護 3/22 気づきの事例検討会	3/28 倫理・権利擁護研修 高齢者虐待防止研修 ハラスメント研修 身体拘束防止研修 3/31 コーチング③ (あん居合同)

○資質の向上に関するまとめ

上半期に事例検討会、下半期は上半期に事例提出したケースを中心としたケアプランチェックを計画通り実施した。職員相互によるケアプランチェックを通じて、支援が必要と判断した根拠となる情報、帳票類の日付、内容の記載方法がケアマネごとに異なっている現状に気づくことができ統一に向けた意見交換ができた。また「研修の学び」や「業務に活かす事」の意識づけにつながるよう今年度、研修報告書の様式変更を行った。予防支援の受託に関しては、予防支援業務従事者研修を受講し全員が予防支援業務を行える体制ができ1年を通じて70件の請求ができた。報酬改定内容理解の為、集団指導の伝達講習、Q&Aの内容確認や復講研修を行い内容理解に努めた。今年度、居宅として初めての運営指導を受けた。減算につながる大きな指摘事項はなかったが、BCPとは別に感染防止に関する委員会の開催が必要との指摘を受けた為、年度内に委員を決め指針作成に取り掛かった。また、あんすこ居宅で坂本総合施設長からコーチングを受ける新たな取り組みを開始し、今年度は3回実施した。居宅、あんすこそれぞれがまんだらシートを作成し、シートをもとにスタッフ全員で事業計画を作成したことで、事業計画に取り組む意欲向上につながったと評価する。次年度も引き続き開催していきたい。

②収益の維持

- A) 月平均150～160件請求する
- B) 入退院加算を可能な限り取得する
- C) 業務効率化に向けての意見交換を行う

請求実績 1708件 (昨年度より120件増)

月平均 142件 (昨年度より7.5%増)

予防委託 70件

○月別・介護度別請求内訳

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護 1・2	84	96	95	94	101	98	98	100	99	92	102	111	1170
要介護 3・4・5	39	42	49	48	49	40	39	45	46	46	43	52	538
合計	123	138	144	142	150	138	137	145	145	138	145	163	1708

予防委託	2	2	2	6	7	5	6	6	8	8	9	9	70
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

○入退院加算算定状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院	5	2	0	2	5	2	3	4	2	3	2	2	32
退院	1	5	1	1	2	0	2	1	1	1	1	2	18
合計	6	7	1	3	7	2	5	5	3	4	3	4	80

○収益に関するまとめ

今年度は要介護のケースを1708件請求し、昨年度に比べ120件増となった。加えて、予防支援の受託が年間通じて70件請求出来ており要介護の請求と合すると1778件となった。予防支援は要介護の平均報酬の約1/4と安価であるが、予防支援の担当を増やすことが将来的に要介護の請求につながる為、次年度も引き続き予防支援の担当を継続して行っていく。上半期に請求実績が少ない状態が続いた為、併設の西神南あんしんすこやかセンターへの新規依頼を実施。また、広報チラシを作成し、他圏域のあんしんすこやかセンターや病院地域連携、在宅医への営業活動を実施した。また、事業所内で居宅の経営状態の内容を管理者から報告し、担当件数のさらなる増への取り組みが必要であることを共通認識した。次年度は、数年にわたる大慈居宅の財政状況をまとめ、収支に関する勉強会を開催することで全スタッフが経営状態を理解できる取り組みを行う予定である。業務効率化への取り組みとして、音声文字変換アプリを活用し入力の手間削減、契約書類の保管場所変更し動線改善、ファックス登録の表記をあいいうえお順に変更し事業所を探す手間削減、終了ケースのファイル保管の方法変更、ほのぼのの便利活用術の共有など実際の業務改善につながった。

③連携の強化

- A) 医療と介護の連携（在宅医・病院地域連携との情報共有）
- B) 西神南あんしんすこやかセンター及び圏域外の地域包括支援センターとの連携
- C) 地域行事に参加しインフォーマルサービスの現状を知る
- D) 法人主催の地域貢献行事（地蔵盆）の参加、手伝い
- E) 伝達会議を通じて担当ケースの以外の利用者の情報共有を密にする
- F) 職員間の親睦会開催

○連携の強化に関するまとめ

加算算定につながったケースは連携シートを作成、加算算定に至らない支援については、週1回の伝達会議で報告しあい共有できた。要支援から介護に移行する利用者の支援や、虐待疑いのケースの支援で他圏域のあんしんすこやかセンターと情報を共有、連携し利用者支援ができた。地域行事への参加は井吹台住宅のつどい場、ルゼフィールのフレイル予防体操に担当者と共に参加し利用につながった。法人主催の地蔵盆や、弥勒園の秋祭りへの参加を予定していたが規模縮小や開催中止等から参加とならず、今年度は智音園の秋祭りのみの参加となった。週1回の伝達会議やラインワークスでの情報共有を通じて事業所内での連携を図り担当以外の利用者支援を行うことが出来た。職員間の親睦会はボーリング大会を予定していたが、西神南あんしんすこやかセンターと共同開催に変更、職員の参加調整が難しく結果的には開催とならなかった為、次年度に引き継ぐ形で事業計画作成した。

④更新認定調査委託業務の維持・継続

○月別認定調査件数推移

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
調査件数	34	32	32	24	23	24	32	28	24	39	36	22	350

○認定調査に関するまとめ

今年度は350件の調査委託を受けた。昨年度に比べて98件減少した。認定期間が最長4年となった事が大きな要因と考えられる。認定調査連絡会は2カ月に1回開催継続し、調査にかかる書類の管理や報告が必要なケースの有無の確認を実施した。また、認定事務センターからの問い合わせがあった項目で共有が必要な内容を全員で確認、意見交換したことで選択肢の選び方や、特記事項の記載内容の学びにつながった。

⑤BCPの管理と訓練実施

⑥高齢者虐待防止の推進

⑦ハラスメント対策の強化

○BCP、高齢者虐待、ハラスメント対策の強化に関するまとめ

BCPは昨年度から引き続き、西神南あんしんすこやかセンターの委員と共同で計画書の見直しと共に、2/1に災害伝言ダイヤルの訓練、災害時の備えに関する勉強会を実施した。高齢者虐待防止に関しては委員会の開催、法人全体で開催する虐待防止研修に加えて、居宅職員を対象とした研修を3月に開催し学びの機会を持った。ハラスメント対策は、委員会を開催し指針を完成、また、カスタマーハラスメント防止の為、「利用者及び家族へのお願い」を作成し神戸市が発出している啓発チラシと共に、契約時に説明する新たな取り組みを開始した。神戸市の運営指導の指摘を受け、今年度は感染防止対策の委員を決め指針作成を行った。

4. 苦情・相談結果報告

令和5年度				令和6年度			
	苦情	相談	合計		苦情	相談	合計

報告件数	0件	4件	4件	報告件数	0件	3件	3件
------	----	----	----	------	----	----	----

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
苦情	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(複数回答あり)

	話を聞いてほしい	調査依頼	教えてほしい	改善依頼	回答依頼	金銭面	謝罪要求
相談	2	0	0	0	1	0	0
苦情	0	0	0	0	0	0	0

○苦情報告まとめ

苦情報告は昨年度1件減り3件の報告で内容としては相談だった。今年度は認定調査に関する相談はなくケアマネジャーの支援に関する相談が3件だった。

契約解除の要望、担当変更、ケアマネジャーの訪問に関する内容だった。契約解除に関するものは「ケアマネジャーが希望のサービスを入れてくれない」と本人が介護保険課に電話し介護保険課から事業所管理者連絡があった相談だった。家族、担当ケアマネジャーに事実確認行った結果、本人の思い込みと判明し家族からは謝罪の言葉があったが、本人が書面での契約解除手続きを強く希望された為、総合施設長に報告、堅正弁護士の指導受け解約通知書を作成、双方署名したことで終了となった。担当変更に関するものは、入院中に担当が決まり退院に向けた家屋訪問の際のケアマネジャーの対応から担当変更を希望された相談だった。事業所内で共有・検討し対面前に契約を行いケアマネジャーの役割説明を丁寧に行う事や顔の見える関係を作る重要性を共有した。ケアマネジャーの訪問に関する相談は、毎月の訪問がないと本人が認識し事業所に来所された相談だった。実際は家族同席し毎月訪問しているが本人がそれを認識できてない現状からの相談だったため、ケアマネ訪問を視覚化する工夫を行い、本人が毎月訪問を認識された発言を受けて終了となった。

5. 年間行動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
法定研修見学実習受け入れ	実施	実施										
地蔵盆												
他法人との事例検討				実施							実施	
地域ケア会議等			参加									
BCP研修・訓練実施											実施	
虐待研修(施設と共催)							実施		実施			実施
ハラスメント研修												実施

※伝達会議(週1回)、調査員会議(隔月)、研修・地域ケア会議・地域行事には随時参加
事業所内勉強会は年間計画表に沿って実施

《総括》

上半期は請求件数が少ない状況が続き、チラシの作成や営業活動と並行して予防支援が受けられる体制を構築。要支援のケースを担当することで、今後の収益増への足掛かりとし、最終的には昨年度より120件増え、1708件の請求と70件の予防支援の請求につながった。次年度は、直近5年間程度の大慈居宅の経営状態に関する勉強会を計画しており、職員一人一人が今まで以上に経営への意識をもって業務に携われるようにしていきたい。業務効率化への取り組みに関する意見交換から実際の業務改善につながった事も評価する。

ケアマネジメントの質の向上の為、事例検討会と職員相互のケアプランチェックは計画通り実施でき、利用者支援への学びとなった。今年度は、居宅として初めて運営指導を受け、利用者支援の記録物、事業所内の環境整備、運営規定と重要事項説明書の記載方法統一、感染症対策委員会の設置や虐待研修受講の期間について指摘を受けた。指摘事項は事業所内で共有し改善への取り組みを行った。運営指導前には整える帳票類のリストとその内容を5年以上の経験がある主任ケアマネジャーにも指導し、運営指導に関する後進の育成を行った。

更新認定の調査委託件数は昨年より減少した。高齢者人口増に伴い要介護認定者は増えているが認定期間が延長したことで調査研修も減少していると考ええる。

今年度は、あんしんすこやかセンターと共にコーチング研修を企画し3回実施した。初めての取り組みだが、まんだらシートの作成、まんだらシートに沿って事業計画を立てたことで事業計画実行への意欲につながったと考える。次年度も引き続き継続していきたい。

1. 《基本方針》

- ①子どもを第一に考え、保護者に寄り添い共に育てる。
- ②職員一人一人が自己研鑽に励み、資質向上に努める。
- ③職員の定着に向けて、業務の効率化を図る。

2. 《中長期計画》

- ①教育・保育要領を理解し、教育保育を深める。
- ②地域交流を深め、地域と共に育てる。
- ③キャリアパスを基に研修の充実を図る。
- ④広報活動・求人活動を積極的に行う。
- ⑤法人内の幼保連携型認定こども園・小規模保育園との連携を図り、独自性を出す。
- ⑥地域の子育て家庭への支援を行う。

3. 《令和6年度報告》

- ①子どもの発達段階をよく理解し、主体性を育むよう努める。
 - ・オンライン研修 園内研修を通じて学びを深め保育に生かした。
- ②子どもの好奇心から始まる自発的な遊びや活動が展開できるように環境を整える。
 - ・子どもの遊びに合わせて環境を整え手作り玩具など環境構成の工夫をした。
- ③本園、とも分園が一体となり保育をするために、職員同士の連携を強化する。
 - ・5歳児を中心に交流を深め、合同で行う行事も連携を図ることができた。
- ④特色・事業内容の視覚化を進める。
 - ・職員紹介ニュースを発行し、保護者に職員を知っていただけた。
 - ・ホームページ等で情報発信を行った。
 - ・地域に園だより等を配布した。
- ⑤資質向上のため職場内、職場外研修（オンライン研修を含む）を行う。
 - ・キャリアパス要件を満たすよう研修を受講した。
 - ・職員会議毎に研修、伝達講習、ブレインストーミングを行った。
 - ・教育保育部門職員合同研修（オンライン研修を含む）を行った。
 - ・コンプライアンス研修を行った。
 - ・子どもの人権、人格の尊重に関する研修を行った。
- ⑥人財確保・定着に努める。（ICTの活発な活用等により効率化を図る。）
 - ・書類の効率化に努めた。
 - ・保育者同士のコミュニケーションの充実を図った。
- ⑦リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
 - ・近隣の道路工事が長期で行われており、園外保育や分園との行き来を注意喚起した。

- ⑧保育の振り返りをミーティング・職員会議で行い、子どもの人権・人格を尊重する。
 - ・支援の必要な子どもに対する関わりなど共有しみんなで考える場を設けた。
- ⑨園開放にたくさん参加していただけるよう受け入れ体制を整えておく。
 - ・子育て支援担当職員を配置し安心して来園していただけるようにした。
- ⑩地域の子育てニーズに応えるべく一時保育を積極的に受け入れる。
 - ・分園で一時保育を積極的に受け入れ、子育て支援を行った。
- ⑪子育てサロンを通して、地域の子育て支援を深める。
 - ・地域の子育ての悩みに応えられるように子育てサロンを開催した。
- ⑫6月よりこども誰でも通園制度（モデル事業）を行い、延べ40名の利用があった。

4. 《修繕・購入報告》

- ・ロールカーテンの交換

5. 《地域貢献事業報告》

- ・8月 地蔵盆（大慈こども園）
- ・12月 おもちつき
- ・毎月 基本第2・第4火曜日 とも分園 園であそぼう
- ・毎週 木曜日 本園 園であそぼう
- ・毎月 基本第4土曜日 子育てサロン開催
- ・ほっとかへんネット中央との連携

6. 《大慈あい小規模保育園・大慈さち小規模保育園との連携》

- ・1号認定に移行する大慈あい小規模保育園・大慈さち小規模保育園の園児（2歳児）を早めに受け入れ慣れられるようにした。

7. 《行事報告》

年間行事

月	行 事
4 月	入園式
5 月	こいのぼりの集い
6 月	お楽しみ会 歯科教育指導 同園会
7 月	創立記念日 プール開き セタまつり ワークキャンプ受け入れ
8 月	地蔵盆（大慈こども園）
9 月	お泊り保育（5 歳児）
10 月	DAIJI フェスタ 秋の遠足（0～2 歳児は遠足ごっこ）
11 月	作品展 保育参加・参観 お楽しみ会 津波避難訓練 遠足（5 歳児） トライやるウィーク受け入れ
12 月	音楽 Day（4・5 歳児） クリスマス会 お餅つき（感染症のため 2 月に）
1 月	お楽しみ会 よい子のつどい 津波避難訓練
2 月	ワクワクデー（発表会） ピドスコープ撮影
3 月	お別れ遠足（全園児） お別れ会 卒園式 津波避難訓練

月間行事（月 1 回）

- ・お誕生日会 防災訓練 防犯訓練

その他

- ・ECC 英語遊び（2～5 歳児） 音楽指導（4・5 歳児） 月数回
- ・消火器、火災報知器の点検 年 2 回
- ・消防署による消防訓練 年 1 回
- ・警察署による交通安全教室、防犯訓練 年 1 回
- ・事故対応訓練（SIDS・プール事故・アレルギー・痙攣）

8. 《保健衛生報告》

項 目	頻 度 等
園児・職員定期内科健康診断	園児 春秋年 2 回 職員 春年 1 回
園児歯科健診	6 月・11 月（4・5 歳児）
園児耳鼻科健診	6 月 年 1 回
園児眼科健診	5 月（4・5 歳児）11 月 年 1 回
園児発育測定	月 1 回
園児検尿	年 1 回
調理員・保育者全員検便	月 1 回以上
調理室の消毒	毎月 1 回
グリストラップの清掃	年 5 回
エアコン・換気扇の清掃	年 1 回

9. 《令和6年度在籍園児数》

本園

2・3号認定

年齢 (定員)	0歳児 (9人)	1歳児 (21人)	2歳児 (23人)	3歳児 (25人)	4歳児 (26人)	5歳児 (26人)	合計 (130人)	充足率
4月	8	25	25	25	25	25	133	102%
5月	8	25	25	25	25	25	133	102%
6月	8	25	25	24	25	25	132	102%
7月	8	25	25	23	25	25	131	101%
8月	8	25	25	23	25	25	131	101%
9月	9	25	25	23	25	25	132	102%
10月	9	25	25	24	25	25	133	102%
11月	9	25	25	24	25	25	133	102%
12月	9	25	25	24	25	24	133	102%
1月	9	25	25	24	25	24	133	102%
2月	9	25	25	24	25	24	133	102%
3月	9	25	25	24	25	24	133	102%
合計	103	300	300	287	300	296	1,590	102%

1号認定

年齢 (定員)	3歳児 (5人)	4歳児 (5人)	5歳児 (5人)	合計 (15人)	充足率
4月	6	6	7	19	127%
5月	6	6	7	19	127%
6月	6	6	8	20	133%
7月	6	6	8	20	133%
8月	6	6	8	20	133%
9月	6	6	8	20	133%
10月	6	6	8	20	133%
11月	6	6	8	20	133%
12月	6	6	8	20	133%
1月	6	6	8	20	133%
2月	6	6	8	20	133%
3月	6	6	8	20	133%
合計	72	72	94	238	132%

とも分園

2・3号認定

年齢 (定員)	0歳児 (2人)	1歳児 (3人)	2歳児 (4人)	3歳児 (5人)	4歳児 (7人)	5歳児 (9人)	合計 (30人)	充足率
4月	5	9	9	9	8	8	48	160%
5月	5	9	9	9	8	8	48	160%
6月	5	9	9	9	8	7	47	156%
7月	6	9	9	9	7	7	47	156%
8月	7	9	9	9	7	7	48	160%
9月	8	9	9	9	7	7	49	163%
10月	9	9	9	9	7	7	50	167%
11月	9	9	9	9	7	7	50	167%
12月	9	9	9	9	7	7	50	167%
1月	9	9	9	9	7	7	50	167%
2月	9	9	9	9	7	7	50	167%
3月	9	9	9	9	7	7	50	167%
合計	90	108	108	108	87	86	587	163%

10. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

本園

令和5年度		令和6年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
10件	1,867件	10件	2,007件

とも分園

令和5年度		令和6年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
3件	729件	1件	1,145件

○まとめ

- ・シャッターに子どもを閉じ込めるといった重大な事故につながる恐れのあるケースがあった。

緊急会議を行い早急に倉庫の工事・態勢強化を行い、全職員安心安全な保育について共有し、3歳児までの外遊び中は監視員を設ける事にした。

- ・職員が原因の怪我があったので子どもの動きを予測して行動する様に伝えた
- ・口を打つケガが多かったので、ハイハイや手をつく動作運動を強化した。
- ・とげなどの環境要因は環境整備を強化した。

1 1. 《苦情・相談結果報告》

※園長が直接対応した件を苦情の定義とする。

○報告件数・・・7件（本園6件 分園1件）

令和5年度				令和6年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	7件	7件	0件		7件	7件	0件

○まとめ

- ・保護者との情報共有を密に行い、園での様子を細やかに伝える。
- ・職員の言動に対しての不信感による苦情が複数あった。その瞬間を見て判断されることや、また本人は気づいていないこともあるので気になった言動は周りがすぐに注意するよう伝えた
- ・起こってしまったことに対し複数で話し合いすぐに改善できるようにした。
- ・主幹や園長補佐が保育に入り現状把握、保護者の安心感につながるようにした。
- ・職員の不注意での怪我からの苦情もあったので細やかな対応をするようにした。
- ・降園後に園の周りで騒いで、なかなか帰らず苦情に繋がった。
園内掲示で呼びかけを行った。

1 2. 《総括》

- ・重大な事故につながる恐れのある事故を起こしてしまい、子ども保護者職員につらい思いをさせてしまった。
緊急会議を数回を行い環境改善できるところはすぐに工事を行い環境・職員態勢ともに早急に改善し年度末まで安全に保育できた。
- ・保育内容については、ドキュメンテーションを活用し日頃の保育を知っていただくよう努め、子ども主体の保育が職員間から保護者へも少しづつ定着してきた。
- ・職員間のコミュニケーション不足からの苦情や言動での指摘をいただき、職員間での関わりを見直す機会になった。
- ・事故の件での退職や保護者からの苦情を引き金とする休職、私的理由の休職者が複数同時に出たことで主幹・園長補佐が保育に入ることになり統括部長・事務職員・部門間での協力を頂けたことは感謝、心強さをとても感じた年になりました。
- ・令和7年度に向けてより一層チーム力を高め子ども第一の安心安全な保育を目指します。

令和6年度 事業報告書

大慈ひょうご幼保連携型認定こども園

1. 《基本方針》

- ・安全を第一に考え、保護者に寄り添い共に育てる。
- ・職員一人一人が自己研鑽に励み、資質向上に努める。
- ・職員の定着に向けて、業務の効率化を図る。

2. 《中長期計画》

- ・理念に基づいた教育、保育を職員で共通理解し、実施する。
- ・子ども、保護者に寄り添い、地域とともに歩む。
- ・キャリアパスを基に研修の充実を図る。
- ・法人内幼保連携型認定こども園、小規模保育園との連携を図り、独自性を出す。
- ・地域交流を深め、地域子育て家庭への支援を行う。

3. 《令和6年度報告》

- ①子どもの発達段階をよく理解し、主体性を育むよう努める。
 - ・子どもの発達段階をよく理解し、丁寧な関わりに努め、子どもの想いを共有した。
 - ・子どもが自ら活動できるよう環境を検討し、工夫した。
- ②子どもの好奇心から始まる自発的な遊びや活動が展開できるように環境を整える。
 - ・その時の子どもの興味、関心を見逃さず、広がる遊びを予想し環境を整えた。
- ③子どもや保護者、地域とのより良い信頼関係が保てるよう積極的に関わる。
 - ・職員紹介ニュースを発行し、職員と保護者の関係が円滑に築けるようにした。
 - ・地域の学校、施設、関係者に園だよりを配布し、園の活動内容を知って頂ける様に努めた。
 - ・要支援家庭、外国籍家庭に対して、職員が共通理解を持ち保育を進めると共に、関係機関と連絡を密にして子どもが安定して園生活を過ごすことができるようにした。
- ④異年齢児交流を行い、関わりを深めていく。
 - ・異年齢で一緒に散歩に行く等して関わりを深めた。
 - ・共通の遊びを通して異年齢での関わりを多く持った。
- ⑤資質向上のため、職場内、職場外研修（オンライン研修含む）を行い、全職員で共通理解をする。
 - ・キャリアパス要件を満たすよう研修を受講した。
 - ・職員会議毎に研修、伝達講習、ブレインストーミングを行った。
 - ・教育保育部門で合同研修を行った。
 - ・法人内職員での専門性を深めるチーム会議を随時行い、各園に周知した。
 - ・コンプライアンス研修を行った。
 - ・子どもの人権・人格の尊重に関する研修を行った。
- ⑥人財確保・定着に努める。（ICTの活発な活用等により効率化を図る）
 - ・保育書類をiPadで作成し、効率化に向けて取り組んだ。
- ⑦行事に地域の方を招待し、一緒に遊ぶ機会を計画するなど、地域交流を深め、地域に根付いた園であり続ける。
 - ・地域のイベントに参加し、児童が歌を披露するなどの交流を持った。
- ⑧リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。

- ・部門全体のリスクマネジメントも行い、想定内を増やすよう努めた。
- ⑨保育の振り返りをミーティング・職員会議で行い、子どもの人権・人格を尊重する。
 - ・不適切保育についての話を会議で行い、職員に子どもの人権尊重意識を養っていった。
- ⑩1号に移行する大慈あい小規模保育園、大慈さち小規模保育園の園児（2歳児）を早めに受け入れ、慣れるようにする。
 - ・新年度が始まる前に受け入れ、新しい環境に安心して慣れることができるようにした。
- ⑪感染症対策を、状況により取り組んでいく。
 - ・感染症が発生した時は、職員間で情報共有を行い、手洗いや消毒、換気などを徹底した。
 - ・発熱時、その他症状における対応を適切に行った。

4. 《修繕・購入報告》

- ・水道漏水工事
- ・見守りカメラ設置

5. 《地域貢献事業報告》

- ・7月、8月 プール開放 大慈こども園の地蔵盆
- ・11月 焼き芋パーティー
- ・毎月第1、3水曜日、木曜日 園庭開放
- ・ほっとかへんネット兵庫 地域の悩み相談、食品や日用品の交換配布会

6. 《行事報告》

年間行事

月	行 事
4月	入園式
5月	こいのぼりの集い
6月	食育フェア（中止） お楽しみ会 歯科教育指導
7月	プール開き 七夕祭り 夏まつり
8月	プール参観 ワークキャンプ受け入れ
9月	お泊り保育（5歳児）
10月	スポーツフェスティバル いもほり遠足（3、4歳児） 秋の遠足（0～2歳児、5歳児）
11月	焼きいも大会 保育参加・参観 作品展 避難訓練（津波） 遠足（5歳児）
12月	ドレミコンサート クリスマス会
1月	もちつき よい子のつどい（5歳児） 津波避難訓練（津波）
2月	わくわくひょうごデー
3月	お別れ遠足（全園児） お別れ会 卒園式 津波避難訓練（津波）

月間行事（月１回）

- ・お誕生日会
- ・防災訓練
- ・防犯訓練
- ・ＥＣＣ英語遊び
- ・音楽あそび

その他

- ・兵庫区内児童館との交流
- ・湊小学校との交流
- ・東出町自治会、老人会との交流
- ・消防署による消防訓練 年１回
- ・警察署による交通安全教室、防犯訓練 各年１回
- ・事故対応訓練（ＳＩＤＳ プール事故 痙攣）
- ・消火器、火災報知機の点検を年２回行う。

7. ≪保健衛生計画≫

項 目	頻 度 等
園児、職員定期内科健康診断	園児 春秋年２回 職員 春年１回
園児歯科健診	６月 １１月 年２回
園児耳鼻科健診	６月 年１回
４、５歳児眼科健診	６月 年１回
園児身体測定	月１回
園児尿検査	年１回
調理員、保育者検便	月１回以上
調理室の消毒	月１回
グリストラップの清掃	年４回
エアコン、換気扇の清掃	年１回
砂場消毒	年１回

8. 《令和6年度在籍園児数》

2・3号認定

年齢 (定員)	0歳児 (8人)	1歳児 (15人)	2歳児 (16人)	3歳児 (17人)	4歳児 (17人)	5歳児 (17人)	合計 (99人)	充足率
4月	2	17	18	22	22	23	104	105%
5月	2	16	18	22	22	23	103	104%
6月	2	15	18	22	22	23	102	103%
7月	4	16	18	22	22	23	105	106%
8月	5	16	18	22	22	23	106	107%
9月	6	18	18	23	21	23	109	110%
10月	7	18	18	23	21	23	110	111%
11月	7	17	18	23	21	23	109	110%
12月	7	17	18	23	21	23	109	110%
1月	7	17	17	23	21	23	108	109%
2月	7	17	17	23	21	23	108	109%
3月	7	17	18	23	21	23	109	110%
合計	63	201	214	271	257	276	1282	108%

1号認定

年齢 (定員)	3歳児 (3人)	4歳児 (3人)	5歳児 (3人)	合計 (9人)	充足率
4月	3	3	3	9	100%
5月	3	2	3	8	89%
6月	3	2	3	8	89%
7月	3	2	3	8	89%
8月	3	2	3	8	89%
9月	3	2	3	8	89%
10月	3	2	3	8	89%
11月	3	2	3	8	89%
12月	3	2	3	8	89%
1月	3	2	3	8	89%
2月	3	2	3	8	89%
3月	3	2	3	8	89%
合計	36	25	36	97	90%

9. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

○報告件数

令和5年度		令和6年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
4件	886件	7件	1057件

○まとめ

- ・今年度のヒヤリハット報告件数は、昨年度に比べて増加した。日々の保育や園内の安全に対して意識をするようになったと思う。一方で、報告を提出している職員は特定の数名に偏っている傾向があった。ヒヤリハットは誰にでも起こり得ることであるため、全職員が当事者意識を持って共有し、より安全な保育環境の実現につなげていきたい。
- ・けがをしないようにと細心の注意を払って保育を行っていたが、それでも肘内障のような予想外の事故が発生することもあった。一方で、保育環境や職員の動き方によって、事前に予測し防ぐことができた事故もあった。子どもたちとの生活の中では、思いがけない出来事も起こり得るため、「危険かもしれない」と感じた箇所にはすぐに対応し、予想外の事故が起こった際には適切な緊急対応ができるよう、職員間での情報共有や研修を行っていく。

10. 《苦情・相談結果報告》

※苦情の定義→園長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数・・・4件

令和5年度				令和6年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	1件	0件	1件		4件	4件	0件

○まとめ

- ・担任からの直接の伝言をしておらず、又聞きになったことで、伝達不足により保護者の方を不安にさせてしまっていた。担任が直接話をするすることで、どういった保育をしているのかを理解していただき、安心してくださる様子が見られた。
担任が直接話をするべきことを、他の職員に伝言を任せてしまうなど、判断ができない職員が増えてきたように思う。保護者の方は園での様子がわからないため、密にコミュニケーションをとり、信頼関係を築いていくよう職員に話をした。
また、遅番のオムツ替えなどは時間を決めて行っていたことを、若い職員に引き継がれておらず、「知らなかった」ということもあった。新任職員が勤務に入る際は、中堅職員と組み、確実に仕事内容を引き継げるようにしていく。

11. 《総括》

- ・一部の場面において保護者の方への伝達が十分でなく、不安に感じさせてしまう事例が数件あった。職員には会議で、不安をあおるような表現は避けることや、分かりやすく丁寧に説明することを話している。保護者の方が安心して子どもを預けられるように、職員一人一人が意識を高め、伝え方や配慮の在り方を見直していく。
- ・今年度、4・5歳児の保育においては、子どもたち一人ひとりの興味や関心に基づいた主体的な遊びが多く見られた。
一方で、子どもの主体的な遊びをより深め、広げていくための保育者の関わり方については、子どもの姿から遊びの展開を予想し、意図的に環境を構成するなど、計画的な保育の実践が十分でなかったという課題も見られた。日々の保育の中で子どもの興味や発達の過程を丁寧に捉え、そこから保育者がどのように関わり、環境を構成していくかを職員間で共有し、次につながる保育の計画づくりを行っていききたい。

令和6年度 事業報告書

大慈ほまれ幼保連携型認定こども園

1. 《基本方針》

- ・子どもを第一に考え、保護者に寄り添い共に育てる。
- ・職員一人一人が自己研鑽し、資質向上に努める。
- ・職員の定着に向けて、業務の効率化を図る。

2. 《中長期計画》

- ・教育・保育要領を理解し、教育保育を深める。
- ・地域交流を深め、地域と共に育てる。
- ・キャリアパスを基に研修の充実を図る。
- ・広報活動・求人活動を積極的に行う。
- ・法人内の幼保連携型認定こども園・小規模保育園との連携を図り、独自性を出す。
- ・地域の子育て家庭への支援を行う。

3. 《令和6年度報告》

- ①子どもの発達段階をよく理解し、主体性を育むよう努める。
 - ・法人内研修や園内研修を通して勉強し、主体的に遊ぶことが出来るように検討した。
- ②子どもの好奇心から始まる自発的な遊びや活動が展開できるように環境を整える。
 - ・子どものつぶやきや発見を大切にし、遊びや興味、関心を自ら深めていくことができるように保育環境を整えた。
- ③大慈あい小規模保育園、大慈さち小規模保育園との連携を図り、豊かな保育が行えるようにする。
 - ・職員間で情報を共有し、お盆期間中や土曜日の合同保育を行った。
 - ・1号への移行児は、園が変わっても出来る限り子どもの負担にならないように、職員間で情報共有や子ども同士の交流ができる機会を多くもった。
- ④特色や事業内容の視覚化を進める。
 - ・職員紹介ニュースを発行し、保護者に職員を知っていただいた。
 - ・ホームページやInstagramの更新をし、保育の発信を図った。
 - ・地域に園だよりを配布して、園のことを知っていただけるよう努めた。
 - ・保育説明会を開き、地域の方に法人の保育への想いを発信した。
- ⑤資質向上のため職場内、職場外研修（オンライン研修を含む）を行う。
 - ・キャリアパス要件を満たすよう研修を受講した。
 - ・毎月の職員会議でマニュアル研修・ブレインストーミングを行い、職員間での共通理解を深めた。
 - ・部門全体で合同研修（2・3年目研修、大慈研修会）を行った。
 - ・コンプライアンス研修、子どもの人権・人格の尊重に関する研修を行った。
- ⑥人財確保・定着に努める。（ICTの活発な活用等により効率化を図る）
 - ・保育書類をiPadで作成し、効率化に向けて取り組んだ。
 - ・学生に向けて、実際の保育現場を体験したり、保育教諭と話す機会を設けたりして人材確保へ繋げることが出来るように保育体験会を開催した。

- ⑦リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
 - ・職員間で周知、改善をし、再発防止に努めた。
 - ・部門全体のリスクマネジメントも行い、想定内を増やすよう努めた。
- ⑧保育の振り返りをミーティング・職員会議で行い、子どもの人権・人格を尊重する。
 - ・ミーティング・職員会議で報告をし、職員間で共通理解を図った。また、みんなで意見を出し合い検討を重ねた。
- ⑨「園で遊ぼう」にたくさん参加していただけるよう受け入れ体制を整えておく。
 - ・子どもの発達に合わせた場所（屋内外）で受け入れをし、たくさんの方に利用していただいた。
 - ・いろいろな方に参加していただけるように、初めて参加の方限定の日を設けた。その結果多くの方に参加していただけるようになった。
 - ・初めての園庭開放の時には、たちばな児童館より子育てチーフアドバイザーに来ていただき、話しやすい環境を作った。
- ⑩地域の子育てニーズに応えるべく一時保育を積極的に受け入れる。
 - ・0・1歳のニーズが高く、問い合わせが多数あった。受け入れ可能な限り受け入れをした。
- ⑪子育てサロンを通して、地域の子育て支援を深める。
 - ・月1回　とも分園で開催した

4. 《修繕・購入報告》

- ・12月に全部屋の扉のクロスの張り替え
- ・1月に門の塗装工事を行った。

5. 《地域貢献事業報告》

- ・6月　教育・保育説明会
- ・7月　お楽しみ会
- ・8月　大慈こども園の地蔵盆
- ・1月　おもちつき（たちばな児童館すこやかくらぶの親子を招待した）
- ・毎月　基本第2、第4木曜日　「園であそぼう」
- ・担当保育教諭がほっとかへんネット中央の活動に参加し、地域の状況把握、異業種交流を図った。

6. 《大慈あい小規模保育園・大慈さち小規模保育園との連携》

- ・土曜日は大慈あい小規模保育園、大慈さち小規模保育園の園児も大慈ほまれ幼保連携型認定こども園で保育を行う。
 - 日々の合同ミーティングで子どもの情報を共有した。
 - 小規模の職員もこども園に出勤をして子どもが安心して過ごすことができるようにした。
- ・1号に移行する大慈あい小規模保育園、大慈さち小規模保育園の園児（2歳児）を早めに受け入れ慣れるようにする。
 - 11月より交流をはかり、少しずつこども園で過ごす時間を延ばしていった。3月中旬よりこども園に移行し過ごした。

7. 《行事報告》

年間行事

月	行事名
4月	入園式
5月	こいのぼりの集会
6月	歯科教育指導（5歳児のみ） 同園会
7月	プール遊び セタまつり お楽しみ会 ワークキャンプ受け入れ
8月	地藏盆（大慈こども園にて）作品展
9月	5歳児お泊り保育
10月	スポーツフェスティバル（2部制） お楽しみ会 遠足ごっこ（0歳児～2歳児） 秋の遠足（3歳児～5歳児）
11月	保育参加・参観 津波避難訓練（大倉山中央体育館） 遠足（5歳児） よいこの集い
12月	ほまれっこコンサート（4・5歳児） クリスマス会
1月	おもちゃつき 地震避難訓練（大倉山中央体育館）
2月	わくわく会
3月	全園児お別れ遠足 津波避難訓練（屋上園庭） お別れ会 卒園式

月間行事（月1回）

・お誕生日会 ・防災訓練 ・防犯訓練 ・園児発育測定

その他

- ・ECC英語遊び（2～5歳児）月数回
- ・音楽指導（4・5歳児）月数回
- ・近隣の園との5歳児交流会 年2回
- ・たちばな児童館の小学生との交流 長期休暇期間 数日
- ・消火器 火災報知器の点検 年2回
- ・警察署による交通安全教室、防犯訓練 年1回
- ・事故対応訓練（SIDS プール事故 アレルギー 痙攣）

8. 《保健衛生報告》

項目	頻度等
園児、職員定期内科健康診断	園児5月10月 年2回 職員年1回
園児歯科健診	6月 10月 年2回
園児耳鼻科健診	6月 年1回
園児眼科健診	7月 年1回
園児発育測定	月1回
園児検尿	兵庫県予防医学協会により年1回
調理員、該当保育教諭検便	登録衛生検査所有研により月1回 6月～10月 月2回
調理室の消毒	サニックスにより月1回
グリストラップの清掃	アーテックサーキュレーションにより年5回
エアコン、換気扇の清掃	アーテックサーキュレーションにより年1回
砂場消毒	年1回

9. 《令和6年度在籍園児数》

2・3号認定

年齢 (定員)	0歳児 (6人)	1歳児 (10人)	2歳児 (10人)	3歳児 (11人)	4歳児 (11人)	5歳児 (12人)	合計 (60人)	充足率
4月	8	12	12	11	12	13	68	113%
5月	8	12	12	11	12	13	68	113%
6月	8	12	12	11	12	13	68	113%
7月	9	12	12	12	12	13	70	117%
8月	9	12	12	12	12	13	70	117%
9月	9	12	12	12	12	13	70	117%
10月	9	12	12	12	12	13	70	117%
11月	9	12	12	12	12	13	70	117%
12月	9	12	12	12	12	13	70	117%
1月	9	12	12	12	12	13	70	117%
2月	9	12	12	12	12	13	70	117%
3月	9	12	12	12	12	13	70	117%
合計	105	144	144	141	144	156	834	116%

1号認定

年齢 (定員)	3歳児 (5人)	4歳児 (5人)	5歳児 (5人)	合計 (15人)	充足率
4月	5	6	5	16	107%
5月	5	6	5	16	107%
6月	5	6	5	16	107%
7月	5	5	5	15	100%
8月	5	5	5	15	100%
9月	5	5	5	15	100%
10月	5	5	5	15	100%
11月	5	5	5	15	100%
12月	5	5	5	15	100%
1月	5	5	5	15	100%
2月	5	5	5	15	100%
3月	4	5	5	14	93%
合計	59	63	60	182	101%

10. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

○報告件数

令和5年度		令和6年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
8件	1463件	7件	1281件

○まとめ

- ・事故の内容が突発的に起きた事案で予測が難しかった。事故発生時の対応も職員間で連携をはかり、速やかに行うことができるようになってきた。歯科を受診する際に直ぐに診ていただける病院が少ない。法人内の園・館で地域の病院の情報を共有し、直ぐに対応できるようにしていきたい。
- ・全職員が初めて園内で痙攣の対応をすることになったが、複数人で確認をしながら対応をすることができた。緊急時訓練の大切さを改めて感じた。

1 1. 《苦情・相談結果報告》

※園長が直接対応した件を苦情の定義とする。

○報告件数

令和5年度				令和6年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	1 件	1 件	0 件		0 件	0 件	0 件

○まとめ

- ・子ども同士のかかわり方等で保護者の方より担任に相談が何件かあったが、担任との会話の中で解決した。園長が直接対応する案件はなかった。
これは、日々の職員と保護者の方との信頼関係の積み重ねが大きく影響していると感じた。
今後も引き続き子どもの健やかな成長、安全を第一に考え保護者の方の思いに寄り添いながら保育を進めていきたい。

1 2. 《総括》

- ・子どもたちは日々やりたいことに溢れ、忙しそうではあったが、生き生きとしていると感じることが多かった。ただ、途中で終息してしまう活動もあった。一つずつ達成感を感じることができるように考えることが次年度の課題だと思う。
子どもの活動に対して協力的な保護者が多く、日々の様子を共有したり、行事ではありのままの姿を見ていただくことができた。
- ・保育経験が浅い職員が多く、子どもたちの主体的な活動を深めていくための環境づくりや取り組み方等、その都度話し合いを重ねた一年だった。
歩みはゆっくりではあるが、職員の成長も感じた。これからも子どもも職員も成長していける場でありたい。
- ・一時保育のニーズが高い。今年度はたくさんの受け入れができた。引き続き、地域の子育て支援の一環としてできる限りニーズに応えていきたい。

1. 《基本方針》

- ①子どもを第一に考え、保護者に寄り添い共に育てる。
- ②職員一人一人が自己研鑽に励み、資質向上に努める。
- ③職員の定着に向けて、業務の効率化を図る。

2. 《中長期計画》

- ①保育理念に基づいた保育を職員で共通理解し、実施する。
- ②子ども、保護者に寄り添い、共に子育てをする。
- ③キャリアパスを基に研修の充実を図る。
- ④法人内幼保連携型認定こども園との連携を図り独自性を出す。

3. 《令和6年度報告》

- ①保育理念をよく理解し、子どもの主体性を育むよう保育をする。
 - ・子どもの発達段階や興味のある玩具を置き、主体的に遊べるように環境を整えた。
- ②保護者理解が深められるよう、日頃からの関わりを大切にする。
 - ・園での様子をこまめに伝え、成長した姿を共有する中で家庭での様子を聞き、連携を図った。
- ③大慈ほまれ幼保連携型認定こども園との連携を図り、豊かな体験を増やす。
 - ・職員間で情報を共有し、土曜日の合同保育を行った。
 - ・連携園に遊びに行くことで、各園の園庭や室内で同年齢との交流を図った。
- ④保護者や地域の方々とのより良い信頼関係が保てるよう積極的に関わる。
 - ・職員紹介ニュースを発行し、職員と保護者の関係が円滑に築けるようにした。
 - ・地域に園だより等を配布するとともに、積極的に働きかけ、関係を深めた。
- ⑤資質向上のため職場内、職場外研修（オンライン研修含む）を行う。
 - ・キャリアパス要件を満たすよう研修を受講した。
 - ・教育・保育部門合同研修を行った。
 - ・部門全体で合同研修（2・3年研修、大慈研修会）を行った。
 - ・コンプライアンス研修、子どもの人権・人格の尊重に関する研修を行った。
- ⑥日頃より、法人内園・児童館に行き、交流を深めた。
- ⑦人財確保・定着に努める。（ICTの活発な活用等により効率化を図る）
 - ・保育書類をiPadで作成し、効率化に向けて取り組んだ。
 - ・学生に向けて、実際の保育現場を体験したり、保育教諭と話す機会を設けたりして人材確保へ繋げることができるように保育体験会を開催した。
- ⑧リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保した。
- ⑨保育の振り返りをミーティング・職員会議で行い、子どもの人権・人格を尊重した。

4. 《大慈はまれ幼保連携型認定こども園との連携》

- ・土曜日は大慈はまれ幼保連携型認定こども園で保育を行った。
 - ・1号で移行する園児（2歳児）は各連携園に、早めに受け入れていただき、慣れるようにする。
- 12月から交流を図り、3月中旬より移行先のこども園で過ごし始めた。

5. 《行事計画》

年間行事

月	行 事
4月	入園式
6月	個人懇談
7月	七夕まつり
10月	運動会 遠足ごっこ
11月	保育参加 個人懇談（0-1歳） 津波避難訓練
12月	クリスマス会
1月	もちつき（2歳児のみはまれこども園にて参加） お楽しみ会 津波避難訓練
2月	豆まき 個別懇談（2歳児）
3月	津波避難訓練 お別れ遠足（バスに乗ってさち小規模保育園の子ども達と神戸どうぶつ王国へ行った） お別れ会（子ども達と職員と一緒に遊んだ） 修了式（2歳児とその保護者が参加をし修了式をした）

月間行事

- ・お誕生日会（月1回）
- ・ECC英語遊び
- ・防災訓練

その他

- ・防犯訓練
- ・事故対応訓練（SIDS・誤飲・アレルギー対応・窒息）
- ・消火器、火災報知機の点検 年2回

6. 《保健衛生計画》

項 目	頻 度 等
園児・職員定期内科健康診断	園児 春秋年2回 職員 春年1回
園児歯科健診	6月・年1回
園児耳鼻科健診	6月 年1回
園児身体測定	月1回
園児検尿	兵庫県予防医学協会により年1回
保育者全員検便	（株）有研により月1回以上

7. 《令和6年度在籍園児数》

年齢 (定員)	0歳児 (3人)	1歳児 (4人)	2歳児 (5人)	合計 (12人)	充足率
4月	3	4	4	11	92%
5月	3	4	5	12	100%
6月	3	4	5	12	100%
7月	3	4	5	12	100%
8月	3	4	5	12	100%
9月	3	4	5	12	100%
10月	3	4	5	12	100%
11月	3	5	5	13	108%
12月	4	5	5	14	117%
1月	4	5	5	14	117%
2月	4	5	5	14	117%
3月	4	5	5	14	117%
合計	40	53	59	152	106%

8. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診断を受けた怪我を事故と定義する。

○報告件数

令和5年度		令和6年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
1件	1262件	1件	1197件

○まとめ

- ・トイレの後、手を洗おうとしていたときに職員が電話対応をしてしまった。その際に洗面台の踏み台から転倒し、上唇小帯を切った。一人で子どもを見ている時の電話対応は、他の職員に任せること、子どもから目を離さないようにすることを職員に周知した。

9. 《苦情・相談結果報告》

※苦情の定義→管理者が直接対応した件を苦情とする

○報告件数

令和5年度				令和6年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	1件	0件	0件		0件	0件	0件

10. 《総括》

- ・感染症が流行ることなく、みんな元気に過ごしていた。感染症対策としてクリーン・リフレ（電解無塩型次亜塩素酸水）を導入し、感染拡大防止のため消毒を引き続き徹底していく。
- ・待機児童解消のため0歳児の拡大枠を設けた。
- ・職員が体調を崩し退職することになった。それにより職員の入れ替えがあった。子どもたちが不安にならないよう一人一人に寄り添い、ゆったりと過ごせるようにした。

1. 《基本方針》

- ①子どもを第一に考え、保護者に寄り添い共に育てる。
- ②職員一人一人が自己研鑽を行い、資質向上に努める。
- ③職員の定着に向けて、業務の効率化を図る。

2. 《中長期計画》

- ①子ども、保護者に寄り添い、共に子育てをする。
- ②保育理念に基づいた保育を職員で共通理解し、実施する。
- ③地域に愛される大慈さち小規模保育園になるよう努める。
- ④法人内幼保連携型認定こども園との連携を図り独自性を出す。
- ⑤キャリアパスを基に研修の充実を図る。

3. 《令和6年度報告》

- ①保育理念をよく理解し、子どもの主体性を育むよう保育をする。
 - ・子どもの興味・発達に合った室内環境を整え、主体的に遊べるようにした。
- ②保護者理解が深められるよう、日頃からの関わりを大切にする。
 - ・園での様子や成長した姿を家庭と共有し、保護者との信頼関係を築いた。
- ③法人内幼保連携型認定こども園との連携を図り、豊かな体験を増やす。
 - ・小まめに連携園に遊びに行くことで、各園で砂遊びや広い園庭で十分に身体を動かすなど様々な経験をした。
- ④保護者や地域の方々とのより良い信頼関係が保てるよう積極的に関わる。
 - ・職員紹介ニュースを発行し、職員と保護者の関係が円滑に築けるようにした。
 - ・地域に園だより等を配布するとともに、積極的に働きかけ、関係を深めた。
 - ・花壇に綺麗な花を咲かせ、地域の心温まる場所になるよう小まめに手入れをした。
- ⑤資質向上のため職場内、職場外研修（オンライン研修含む）を行う。
 - ・キャリアパス要件を満たすよう研修を受講した。
 - ・教育・保育部門合同研修（2・3年目研修、大慈研修会）を行った。
 - ・コンプライアンス研修、子どもの人権・人格の尊重に関する研修を行った。
- ⑥人財確保・定着に努める。（ICTの活発な活用等により効率化を図る）
 - ・保育書類をiPadで作成し、効率化に向けて取り組んだ。
 - ・学生に向けて、実際の保育現場を体験したり、保育教諭と話す機会を設けたりして人材確保へと繋げることができるよう保育体験会を開催した。
- ⑦リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
 - ・園内だけでなく、部門全体で情報を共有し、想定内を増やすように努めた。
- ⑧保育の振り返りをミーティング・職員会議で行い、子どもの人権・人格を尊重した。
- ⑨感染症対策を行う。
 - ・常に窓を開けて換気を行うことで感染防止に努めた。
 - ・職員、子ども、保護者の体調管理の把握に努めた。
 - ・手洗い、手指、玩具の消毒の徹底し、感染防止に努めた。
 - ・神戸市からの情報発信を配布、掲示し、連携園と蜜に情報共有し感染防止に努めた。
 - ・発熱やその他の症状における対応として、流行している病気を掲示し周知した。

4. 《大慈ほまれ幼保連携型認定こども園との連携》

- ・土曜日は大慈ほまれ幼保連携型認定こども園で保育を行う。

→感染症の状況を見ながら合同保育を行った。

- ・1号で移行する園児（2歳児）は各連携園に、早めに受け入れていただき、慣れるようにする。

→小まめに姉妹園に遊びに行く機会を作った。また、12月から行事がある日以外はこども園で過ごした。

5. 《行事報告》

年間行事

月	行 事
4 月	入園式
6 月	個人懇談
7 月	七夕まつり
10 月	運動会 遠足ごっこ お楽しみ会(姉妹園にて実施)
11 月	保育参加 津波避難訓練(大倉山中央体育館)
12 月	個人懇談(希望者のみ) クリスマス会
1 月	おもちつき(2歳児のみ) お楽しみ会(中止) 津波避難訓練(大倉山中央体育館)
2 月	豆まき
3 月	修了式(2歳児とその保護者が参加した) お別れ遠足(バスに乗ってあい小規模保育園の子どもと動物王国へ行った) お別れ会(子どもや保育者と一緒に遊んだ) 津波避難訓練(大倉山中央体育館)

月間行事

- ・お誕生日会(月1回)
- ・ECC英語遊び(9月から実施)
- ・防災訓練

その他

- ・防犯訓練
- ・事故対応訓練(SIDS・誤飲・アレルギー対応・窒息)
- ・消火器、火災報知機の点検 年2回

6. 《保健衛生計画》

項 目	頻 度 等
園児・職員定期内科健康診断	園児 春秋年2回 職員 春年1回
園児歯科健診	6月・年1回
園児耳鼻科健診	6月 年1回
園児発育測定	月1回
園児検尿	兵庫県予防医学協会により年1回
保育者全員検便	(株)有研により月1回以上

7. 《令和6年度在籍園児数》

年齢 (定員)	0歳児 (4人)	1歳児 (7人)	2歳児 (8人)	合計 (19人)	充足率
4月	4	7	8	19	100%
5月	4	7	8	19	100%
6月	4	7	8	19	100%
7月	4	7	8	19	100%
8月	4	7	8	19	100%
9月	4	7	7	18	95%
10月	4	7	8	19	100%
11月	4	7	8	19	100%
12月	4	7	8	19	100%
1月	4	7	8	19	100%
2月	4	7	8	19	100%
3月	4	7	8	19	100%
合計	48	84	95	227	100%

8. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

○報告件数

令和5年度		令和6年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
0件	588件	3件	492件

○まとめ

0、1歳児がつかまり立ちをしたり、玩具を持って立ったりしている時にバランスを崩し、けがをすることがあった。バランス感覚が育っていない乳児の子どもが多いため、常に転倒の可能性を考え危険のないように側に付く。

9. 《苦情・相談結果報告》

※苦情の定義→管理者が直接対応した苦情とする。

○報告件数

令和5年度				令和6年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	1件	1件	0件		0件	0件	0件

○まとめ

- ・子どものこと等の相談は何件かあったが、担任との会話の中で解決した。
管理者が直接対応する件はなかった。
今後も引き続き、保護者の方と日々の成長等を伝え合い、安心、安全に過ごせるように関わっていき、保護者の方の思いに寄り添いながら保育を進めていきたい。

10. 《総括》

- ・感染症対策としてクリーン・リフレ(電解無塩型事案塩素酸化水)を導入した。
引き続き、手洗い、消毒等の基本的な感染症予防対策も徹底して行い、全員が安心、安全に過ごせるようにしていく。
- ・新任職員が多かったこともあり、保護者の方への伝言や子どもへの関わり方など、一つ一つのことを丁寧に指導したり、話し合いの機会を沢山作った。
話し合いを重ねていくと、視野が広がり子どもの姿や成長に気づき、遊びへと繋げることができるようになってきたと感じる。
- ・地域の方には温かく受け入れていただき、子どもたちの成長を見守っていただいた。
令和7年度も、子どもや保護者、地域にとってよりよい保育を考えていきたい。

令和6年度事業報告書

神戸市立たちばな児童館

1. 《基本方針》

家庭的な雰囲気の中で、遊びや子ども同士の関わりを通して、将来も幸せになるよう支援を行い、子育てコミュニティの拠点となるよう地域に開かれた児童館を目指す。

2. 《中長期計画》

- ・地域と連携して、子どもを健全に育成する拠点となる。
- ・法人内幼保連携型認定こども園と連携を図り、保育の玄関口となる。
- ・親子が気軽に集い、育児に対する負担感を軽減できる場となる。
- ・育児に不安を覚えた際に、安心して相談しに行きたい場所になる。
- ・初めて来られる方が安心して利用できるように、また、児童館の存在を知らない子育て家庭に、知っていただけるように広報活動をしていく。
- ・地域の小学生以上の児童が進んで遊びに来なくなる場所を目指す。
- ・ボランティアの募集を積極的に行い、児童館活動の更なる充実を図る。

3. 《令和6年度報告》

①地域との連携を密にし、児童館活動を充実させる。

- ・毎月おたよりの配布を行った。
- ・菊水天神祭りのこども神輿に希望者を募り参加した。
- ・学童保育出席児童を引率し、地域防災訓練に参加した。
- ・子育てコミュニティの方達と打ち合わせをし、日曜開放や、行事に参加していただくことができた。

②法人内こども園と連携して、活動内容の見直しや、環境の整備を行う。

- ・園やおやこふらっとひろば中央で乳児が使っている玩具を紹介してもらったり、手作り玩具を作ってもらったりして、乳児がより楽しめる遊びを取り入れた。
- ・月に1回、園の栄養士が来館し「大慈こども園の栄養士と話そう」を予約制で実施した。
- ・月に1回、園の職員がDAIJ I ハウスーパフエスーを児童館で行った。

③SNSやホームページを使って広報活動を積極的に行い、児童館の活動内容を地域の方々に知っていただく。

- ・LINEやホームページを活用して親子館事業のプログラムの予約案内をした。
- ・部門のInstagramに児童館の様子を載せた。

④気軽に足を運び、相談ができるように清潔で明るい雰囲気を作っていく。

- ・職員から来館者に声をかけ、気軽に話ができるよう努めた。
- ・いつでも子育て相談ができるように、子育てチーフアドバイザーを配置した。
- ・毎週土曜日の午後に茶房を開き、お茶を飲みながらほっと一息ついて子育て相談ができるよう努めた。

⑤ボランティア受け入れを行い、遊びや行事の充実を図る。

- ・学習支援教室で年間を通して活動を行った。
- ・すこやかクラブで弟妹の託児のボランティア活動をしていただいた。

⑥学習支援教室を引き続き行い、子どもの居場所づくりをすることで地域貢献を行う。

- ・常時3～5名の参加にとどまり、前年度よりも利用児童が少なくなりました。

4. 《地域貢献事業報告》

○ 学習支援教室「まなびやDAIJI」

- ・小学1年生～6年生を対象に令和6年度も引き続き実施した。
- ・主に湊川神社にて実施し、使用できないときは総合福祉センター、たちばな児童館で開催した。
- ・毎週金曜日15:00～17:00に実施した。
- ・登録人数：5人（2年生～6年生）
- ・ボランティア：3名
- ・令和6年度は50回開催することができた。
- ・地域や婦人大学、職員からの紹介により集まったボランティアにより宿題や、授業の分からないところを一緒に考えていくようにした。
- ・居場所づくりとして友だちが増えるように、学習用カードゲームを使用したレクリエーションタイムも設けた。

○ トライやるウィーク

- ・湊翔楠中学校の児童を受け入れた。
- ・親子館事業の準備や乳児との関わり、学童保育の準備等の活動を通して児童館事業の体験をしてもらうようにした。

5. 《児童健全育成事業報告》

- ・児童館での日常の自由遊びや行事を通して、児童の健全育成を図った。
- ・引き続き木製の大型遊具をリースで設置し、木のぬくもりを感じながらゆったりとごっこ遊びを楽しんだり、体を動かしたりできるようにした。リースの玩具の入れ替えも行った。
- ・月ごとに季節の絵本の見直し、購入を行った。
- ・高齢者と児童がふれあい交流に参加した。

年間行事

4月	新入生歓迎会 こいのぼり作り
5月	楠北まつり参加
6月	夏祭り WEEK
7月	交通安全教室
8月	サマープログラム（工作・ゲーム等） ビデオシアター 高齢者とのふれあい交流 子ども神輿参加
9月	高齢者へのプレゼント（中止）
10月	ハロウィン WEEK リニューアル記念 WEEK
11月	シェイクアウト訓練 音楽遊び
12月	なかよしひろばクリスマス会
1月	カルタ大会 昔あそび大会
2月	豆まき
3月	つくって遊ぼう

月間行事

- ・けん玉検定 ・おりがみ教室 ・みんなで遊ぼう ・おはなし会（中止）

利用人数

	乳幼児	低学年 (一般)	高学年 (一般)	中高生	大人	学童保育	合計
4月	299	20	28	8	287	364	1006
5月	301	12	0	4	307	324	948
6月	581	21	29	7	468	305	1411
7月	439	17	10	12	417	439	1334
8月	325	17	15	0	301	473	1131
9月	405	7	2	4	402	265	1085
10月	463	4	0	3	457	294	1221
11月	480	10	25	12	474	229	1230
12月	490	7	7	8	467	264	1243
1月	524	9	5	2	470	246	1256
2月	516	11	14	3	501	238	1283
3月	550	12	4	8	526	268	1368
合計	5573	147	139	71	5077	3709	14516

6. 《在宅育児家庭支援報告》

○ 親子館事業

- ・在宅育児家庭における育児に伴う孤立や育児不安などへ対応するため、地域に住む幼児と保護者を対象に親子が気軽に集える場として事業を行った。
- ・職員が仲立ちとなり、保護者同士が交流できるよう配慮した。
- ・季節が感じられるようなプログラム、親子のふれあいを楽しめるプログラムを取り入れた。
- ・登録児童とその保護者が活動に集中できるように、職員で0、1歳児の弟妹をできるだけ預かるようにした。

○ 「すこやかクラブ」2～4歳児とその保護者の仲間づくり（登録制）

目 的：グループで楽しく遊び、保護者同士の交流を図った。

対 象：2～4歳児とその保護者

実施日時：毎週金曜日10：30～11：30

地域の幼稚園のプレ等により、利用者のニーズに合わせて金曜日の10：30～11：30に行った

託児機能：0、1歳児の弟妹は児童館職員ができるだけ預かり、登録の親子が活動に集中できるようにした。

登録組数：（子どもの人数）：11組（11名） 内4組が0、1歳児の弟妹同伴

実施内容・参加人数

	月	日	内 容	参加人数（組数）
1 学 期	5	10	開講式	20人（9組）
		17	ふれあいあそび	21人（10組）
		24	制作（カレンダー）	17人（8組）
		31	運動あそび	19人（9組）

	6	7	制作 (ちょうちん)	22 人 (10 組)
		14	制作 (カレンダー)	16 人 (7 組)
		21	染め紙あそび	18 人 (8 組)
		28	夏まつりごっこ	18 人 (8 組)
	7	5	制作 (七夕)	19 人 (9 組)
		12	1 学期お誕生日会 制作 (カレンダー)	18 人 (8 組)
2 学期	9	6	制作 (カレンダー)	22 人 (10 組)
		13	ふれあいあそび 制作 (しおり)	16 人 (7 組)
		20	制作 (カレンダー)	20 人 (9 組)
		27	運動あそび	20 人 (9 組)
	10	4	ミニ運動会	20 人 (9 組)
		11	消防署見学	26 人 (11 組)
		18	歯みがき指導	26 人 (11 組)
		25	ハロウィンごっこ	28 人 (10 組)
	11	1	リニューアル記念コンサート	18 人 (8 組)
		8	制作 (クリスマスブーツ)	22 人 (9 組)
		15	おかあさんプログラム	22 人 (10 組)
		29	制作 (カレンダー)	19 人 (8 組)
	12	6	交通安全指導	16 人 (7 組)
		13	クリスマス会	26 人 (11 組)
3 学期	1	9	おもちつき (ほまれこども園)	15 人 (7 組)
		17	制作 (カレンダー)	20 人 (8 組)
		24	おかあさんプログラム	26 人 (11 組)
		31	節分ごっこ	24 人 (10 組)
	2	7	終了記念制作 (手さげかばん)	22 人 (9 組)
		14	お別れ遠足 (王子動物園)	22 人 (10 組)
		21	制作 (カレンダー)	21 人 (9 組)
		28	制作 (カレンダー)	23 人 (10 組)
	3	7	修了式 3 学期お誕生日会	21 人 (9 組)
		14	茶話会	22 人 (10 組)

○ 「キッズクラブ」すこやかクラブの保護者による幼児の相互関わりと交流

目 的：すこやかクラブのグループで保護者が主体となって遊びの内容を決めて活動する。

対 象：すこやかクラブ員の希望者

※令和 6 年度は、希望者がいなかった為、実施なし

○ 「なかよしひろば」子育て親子の交流の場

対 象：0 歳児～就学前児とその保護者

・ 0 歳児タイム、1 歳児タイムは令和 5 年度に引き続き申込制にして実施した。

・ 予約制にし、インターネット予約で受付をした。

実施日：毎週火曜日・水曜日（4 月～3 月）

・ 0 歳児タイム…0 歳児の親子が楽しく遊ぶ

毎週火曜日 10：30～11：00

・ 1 歳児タイム…1 歳児の親子が楽しく遊ぶ

毎週水曜日 10：30～11：00

- ・おべんとうひろば…自由に昼食をいただく
毎週月曜日～土曜日 11:30～12:30
- ・誕生日会…月に1度行った

なかよしひろば参加人数

	0歳児タイム参加人数 (組)	1歳児タイム参加人数 (組)	合計人数 (組)
4月	60 (30)	20 (10)	80 (40)
5月	58 (29)	81 (40)	139 (69)
6月	97 (48)	88 (43)	185 (91)
7月	95 (47)	89 (44)	184 (91)
8月	50 (25)	32 (16)	82 (41)
9月	74 (36)	78 (39)	152 (75)
10月	80 (39)	74 (36)	154 (75)
11月	70 (35)	69 (35)	139 (70)
12月	76 (38)	78 (38)	154 (76)
1月	79 (39)	74 (37)	153 (76)
2月	66 (33)	78 (39)	144 (72)
3月	58 (29)	59 (29)	117 (58)
合計	863 (428)	820 (406)	1683 (834)

7. 《子育てコミュニティ育成事業（児童館日曜開放）報告》

目 的：地域における子育てコミュニティづくりを図る

- ・地域の各種団体やボランティアで構成する「開放委員会」が実施する。
- ・児童館は日曜開放に積極的に協力し、委員の方と共に実施する。
- ・予約制にして開催した。
- ・夏祭り WEEK、ハロウィン WEEK、昔遊び大会は、児童館と共同開催で行った。

日曜開放実施内容及び参加人数

	内 容	参加人数
5月	つくってあそぼう（宝探しゲーム）	8
6月	スライム作り	32
6月	夏祭り WEEK	204
7月	七夕飾り	21
9月	スーパーボールすくい	48
10月	ミニ運動会	32
10月	ハロウィン WEEK	70
11月	英語遊び	21
1月	昔あそび大会	32
2月	プラバンキーホルダー作り	39
3月	万華鏡作り	34

8. 《インセンティブ事業》

○令和6年度より児童館ごとに実施する事業を選び、事業の内容、実施状況によってポイントが付き補助金が出る。

- ・地域人材を活用した子育て支援…地域ボランティアによる、すこやかクラブ中のきょうだいの預かり
- ・夏休みの居場所…夏休み期間中の乳幼児親子の居場所づくり。週に1度、学童保育児童を地域福祉センターにて保育し、普段学童保育で使っている基の間に乳児向けプログラムを実施した。
- ・不登校児童の支援…学校に行きにくい児童を対象に毎週木曜日に児童館の部屋を専用室として開放。小学生の国語、算数と英語の学習支援に対応

9. 《広報報告》

- ・ホームページを活用し、「じどうかんだより」の更新を行った。
- ・SNSを活用して、興味を持ってもらうことに努めた。
- ・毎月「たちばな新聞」を地域の関係者・関係機関に届け、地域との関係強化を図った。

10. 《安全指導・危機管理報告》

- ・避難訓練（火災、地震、水害、防犯）月1回～2回
- ・一般来館の児童も避難訓練に参加した。

11. 《研修報告》

- ・神戸市や中央区社会福祉協議会が開催した児童館研修に参加し、知識を得た。持ち帰り、他職員への伝達、実際に実施と有効に活用できた。

12. 《総括》

- ・子育てチーフアドバイザーを配置したことで、子育ての相談が増え、子育てチーフアドバイザーに会いに来ることを目的とする方も複数いた。
- ・土曜日の利用者、特に父親の来館が増えた。DAIJ Iハウスで来られた方が自由来館を利用することが増えたと考えられる。また、午後に行っている茶房も利用者が多く、お茶を飲みながら職員に相談をする方もいた。
- ・おやこふらっとひろばと連携し、双方の利用案内を行った。
- ・すこやかクラブの0、1歳児のきょうだいが多かったため、たちばなふれあいのまちづくり協議会で協力をお願いし、託児ボランティアに来ていただくことができた。
- ・学童保育利用児童や、元利用児童の誘いで、一般来館で遊びに来る児童がいた。また、長期休み中の日中の居場所としての活用も見られた。児童がたくさん住んでいる場所からは離れているが、それでも遊びに来たくなる場所であるように行事や遊びなどの活動内容を引き続き工夫していく。
- ・学童保育を利用していた中学生や高校生が時々やってきて職員に近況を話していた。今後も地域の児童に長く関わっていける児童館でありたい。また、中高生にとっても、安心できる居場所としていきたい。

令和6年度 事業報告書

神戸市立たちばな児童館放課後児童クラブ

1. 《基本方針》

- ・豊かな遊びや経験を通して、健やかな育成を図る。
- ・保護者、地域社会との連携を図り、よりよい子育て環境作りを行う。
- ・湊学童保育コーナーとの連携を密に図る。

2. 《中長期計画》

- ・児童一人一人と丁寧に向き合い、心落ち着く場にする。
- ・安心して学童保育が利用できるよう、保護者との関係作りに努める。

3. 《令和6年度報告》

- ①高学年児童への対応を学び知識、技能を深める。
 - ・研修参加、ミーティングや会議で話し合いを重ねた。
 - ・高学年児童とも積極的に関わり、理解に努めた。
- ②豊かな経験ができるよう努める。
 - ・お楽しみ会等の企画、準備、進行などを自分たちで行う等のサポートをした。
 - ・地域の神輿に希望者とともに参加した。
- ③夏季休業日期間の希望者にお弁当委託サービスを行う。
 - ・今年はどうどん家に委託し、実施することができた。
- ④リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
 - ・部門で情報を共有し、安全確保に努めた。
 - ・職員会議で毎月情報共有し、対応について話し合った
- ⑤児童、職員の交流を深め、湊学童保育コーナー、湊第二学童保育コーナーと一体的に保育を行う。
 - ・毎日オンラインで合同ミーティングを行い、情報を共有した。
- ⑥植物や生物の世話をする機会を設け、命の大切さを学ぶ機会を作る。
 - ・メダカやクワガタの飼育や花、観葉植物への水やりなどを通して、命を大切にすることを学ぶ機会を設けた。
- ⑦小学校との定期的な連絡会を実施する。
 - ・定期的な連絡会ではなかったが、必要に応じて情報のやり取りを随時行った。
- ⑧児童が興味を持っていることに進んで取り組めるように、環境を整えていく。
 - ・児童が中心となって発案し準備、進行をしたお楽しみ会を行った。
- ⑨小学生のパソコン学習に対応する。また、利用に関するルールについて職員も理解を深め、子どもに伝えていく。
 - ・Wi-Fiにつないで宿題をしている。宿題をする時のみ使用できるルールになっていることを児童や保護者に伝えた。
- ⑩資質向上のため職場内、職場外研修（オンライン研修を含む）を行う。
 - ・コンプライアンス研修を行った。
 - ・子どもの人権・人格の尊重に関する研修を行った。

- ⑪保育の振り返りをミーティング・職員会議で行い、子どもの人権・人格を尊重する。
- ・子どもへの関わり方について気になる点は無かったか議題に取り入れ、振り返りを行った。

4. 《児童への指導内容》

- ・健やかで安全な環境作りに努めるとともに、限られた場所と時間の中で自立を支援する指導を行ったり、人間関係が円滑にいくよう指導を行ったりした。
- ・学校や地域と連携を密に行い、子どもの安全確保、自立支援に努めた。

5. 《行事報告》

年間行事

4月	新入生歓迎会
5月	楠北まつり こども神輿参加
6月	七夕飾り作り
7月	たちばなカフェ 交通安全指導
8月	サマープログラム（ゲーム・工作） ビデオシアター 高齢者とのふれあい交流 子ども神輿参加
9月	運動遊び 高齢者へのプレゼント（中止）
10月	ハロウィン
11月	クリスマス飾り作り
12月	年末お楽しみ会（学童お楽しみ会） たちばなカフェ
1月	かるた大会 けん玉で遊ぼう 個人懇談
2月	地域作品展に編み物等を出品
3月	新1年生入会説明会 お別れ会 たちばなカフェ

月間行事

- ・お誕生日会 ・けん玉検定 ・おりがみ教室 ・みんなであそぼう
- ・おはなし会（休止）

6. 《月別在籍数報告》 受け入れ可能人数84名

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
4月	5	4	7	4	5	2	27
5月	5	4	7	4	5	2	27
6月	5	4	7	4	5	2	27
7月	5	4	7	4	5	2	27
8月	5	4	7	4	5	2	27
9月	5	4	7	4	3	2	25
10月	5	4	7	4	3	2	25
11月	5	4	7	4	2	2	24
12月	4	4	6	4	2	2	22
1月	4	4	6	4	2	2	22

2月	5	4	6	4	2	2	23
3月	5	3	6	4	2	2	22
合計	67	53	88	48	41	24	321

7. ≪夏休み限定利用≫

- ・受け入れ可能児童数に40人以上の空きがあったため夏休み限定の学童保育利用児童受け入れを行うことになった。
- ・交通の便の良さ、中央区ではたちばな児童館しか受け入れがなかったこともあり遠方の校区の児童も利用があった。

○利用人数

小学校名（区）	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
湊（中央）	3	0	2	0	0	0	5
兵庫大開（兵庫）	1	0	0	0	0	0	1
山の手（中央）	0	1	0	0	0	0	1
中華同文（中央）	0	0	2	0	0	0	2
高羽（灘）	0	1	0	0	0	0	1
西須磨（須磨）	1	0	0	0	0	0	1
関西学院初等部（宝塚）	1	0	0	0	0	0	1

8. ≪防災・防犯訓練報告≫

- ・火災、地震、水害、防犯の何れかの訓練を月1回以上行った。
- ・総合福祉センターの防災訓練に参加した。

9. ≪会議報告≫

- ・毎月職員会議を行った。児童について、児童の関わり、作業手順の統一、学童保育の約束事の共通理解、問題点や改善点について話し合った。
- ・長期休み期間を除く平日にオンラインで湊学童保育コーナーとミーティングを行い、情報共有をした。

10. ≪リスクマネジメント報告≫

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

○報告件数

令和5年度		令和6年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
0件	1012件	0件	837件

○まとめ

- ・事故の発生はなかった。
- ・前年度と比較しヒヤリハットの件数が減っている。前年度は沢山書くことができ

たが、職員の負担が大きくなっているようにも感じられたため、負担を大きく感じる事が無いように書き方や内容を整理した。

今後も事故の芽を摘むことへの意識を高めることに注力して事故を防いでいく。

1 1. 《苦情・相談結果報告》

※苦情の定義→館長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

令和 5 年度				令和 6 年度			
	合計件数	苦情	相談		合計件数	苦情	相談
報告件数	1 件	0 件	1 件	報告件数	5 件	0 件	5 件

○内容

- ・児童館から家に帰る途中、イジメにあっている。ランドセルを引っ張られたり、通せん坊されたりして、この前は転んで帰ってきた。事実確認をして欲しい。
- ・中国籍の児童から足の甲を積み木で叩かれた。何度もやられている。文化の違いか。しっかりみていて欲しい。
- ・児童館からの帰り道、6年生と3年生の男子児童からズボンを脱がされそうになった。今までにも3回同じことがあった。実際どうなのか、事実確認をして欲しい。

○まとめ

- ・それぞれ該当の児童に聞き取りをし、指導を行った。申し出のあった保護者の方にその都度報告をして、納得していただいた。

1 2. 《虐待の疑いのある児童への対応》

○内容

- ・児童と話をしている際に、左頬に痣があった。児童に話を聞くと、顔色が変わり、「お母さんに噛まれた」と言い腕をさするので腕を見せてもらおうと腕にも痣があり暴力等があることが分かった。

○対応

- ・虐待の疑いのあるケースと思われたため、館長に報告。子ども家庭支援室へ当方から連絡を入れた。子ども家庭支援室の指示に従い、今日は帰らせても良いとの指示があった為、職員が送って帰った。小学校へ連絡。子ども支援室より、児童館からお母さんへ連絡をして聞き取りをして欲しい。との連絡があり児童館から連絡を入れ聞き取りをした。先日、児童が学童保育利用中に友だちを噛んだ。その痛みをわかって欲しくて噛んだとの事だった。後日、子ども家庭支援室担当職員との面談を行った。

○まとめ

- ・職員間で情報共有をし、変わった様子がないか観察をするようにした。

- ・その後も子ども家庭支援室担当者からの聞き取りがあったが、話に出たようなことは起きていないとのこと。
- ・母が来館したことがあったが、変わった様子は見受けられなかった。

13. 《総括》

- ・人数が少ないのでゆったりと過ごしており、自分のしたい活動に集中して取り組んでいる様子だった。
- ・夏休み限定の学童保育の受入を行った。10人ほどの利用であった。
学校の垣根を越えて仲良く遊んでいて、友人関係が広がり、複数の学校の児童が利用している意義があった。
しかし、近隣の小学校だけでなく、いろんな区からの利用があった。子どもたちが慣れたところに終わること、毎日のようにトラブルになる児童がいたことなどがあり、通年利用の児童から落ち着かないなどの様子があった。
- ・午後から一般で遊びに来る乳児に対して優しく接することができ、一緒に遊ぶ姿も見られた。
- ・学童保育利用人数が少ないので、一人一人の様子を見ながら関わっていくことができた。職員の気付く力、対応力を上げていけるよう教育、指導を行っていく。
- ・虐待の疑いのある児童がおり、対応に当たった。普段の様子に変わったことがないか、異変に気付いていけるよう職員が一丸となって業務に励んでいく。

令和6年度 事業報告書

神戸市立湊学童保育コーナー
神戸市立湊第二学童保育コーナー

1. 《基本方針》

- ・豊かな遊びや経験を通して、健やかな育成を図る。
- ・保護者、地域社会との連携を図り、よりよい子育て環境作りを行う。
- ・親館との連携を密に図る。

2. 《中長期計画》

- ・児童一人一人と丁寧に向き合い、心落ち着く場にする。
- ・安心して学童保育が利用できるよう、小学校・保護者との連携作りに努める。

3. 《令和6年度報告》

- ①小学校との連携を密に図り、定期的な連絡会を実施する。
 - ・定期的な連絡ではなかったが、必要に応じて情報交換を随時行った。
- ②児童、職員の交流を深め、親館と一体的に保育を行う。
 - ・たちばな児童館に行き、昔遊び大会に参加して交流を図った。
- ③豊かな経験ができるよう努める。
 - ・学童内の行事の準備や進行を行い、友だちと協力して目的に取り組むようにするなど多様な経験をできるようにした。
- ④夏季休業日期間の希望者お弁当委託サービスを行う。
 - ・今年度はうどん家に委託し、実施することができた。
- ⑤リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
 - ・会議で情報を共有し、安全確保に努めた。
 - ・職員会議で毎月情報共有し、対応について話合った
- ⑥植物や生物の世話をする機会を用意し、命の大切さを学ぶ機会を作る。
 - ・メダカの飼育や植物への水やりなどを通して、命を大切にすることを学ぶ機会を設けた。
- ⑦児童が興味を持っていることに進んで取り組めるように、環境を整えていく。
 - ・子どもの意見を聞きながら、興味のある遊びができる玩具や書籍を購入した。
 - ・落ち着いてくつろげる場所や、ゆっくり眺めることができるサンドアートなどを購入し、環境整備を行った。
- ⑧小学生のパソコン学習のルールについて職員も理解を深め、子どもに伝えていく。
 - ・Wi-Fiにつないで宿題をしている。宿題をする時のみ使用できるルールになっていることを児童や保護者に伝えた。
 - ・小学校に確認して、タイピングのアプリについて使用してよいものや時間について約束を伝えた。
- ⑨利用人数増加が見込まれるため、小学校の空き教室を使つての受け入れを行う。
 - ・新校舎2階の空き教室2部屋を湊コーナー分室とし、2年生の保育を行った。

- ⑩湊コーナー、分室、第二コーナーで連携を図り延長保育や土曜日の保育を合同で行う
・延長保育や土曜保育を、年間を通じて合同で行った。
- ⑪資質向上のため職場内、職場外研修（オンライン研修を含む）を行う。
・コンプライアンス研修を行った。
・子どもの人権・人格の尊重に関する研修を行った。
- ⑫保育の振り返りをミーティング・職員会議で行い、子どもの人権・人格を尊重する。
・子どもへの関わり方について気になる点は無かったか議題に取り入れ、振り返りを行った。

4. 《児童への指導内容》

- ・健やかで安全な環境作りに努めるとともに、限られた場所と時間の中で自立を支援する指導を行ったり、人間関係が円滑にいくよう指導を行ったりした。
- ・学校や地域と連携を密に行い、子どもの安全確保、自立支援に努めた。

5. 《行事報告》

年間行事

4月	新入生歓迎会
5月	楠北まつり・こども神輿参加
6月	つくって遊ぼう
7月	昼食会 交通安全教室
8月	サマープログラム（工作・ゲーム） ビデオシアター 菊水天神祭りこども神輿参加 夏祭りごっこ
9月	製作遊び
10月	ハロウィンパーティー
11月	製作遊び
12月	クリスマス会 昼食会
1月	お正月遊び 個人懇談 昔遊び大会参加
2月	豆まき 新1年生資料配布 入会説明会
3月	お別れ会 入会説明会 昼食会

月間行事

- ・お誕生日会 ・けん玉検定 ・みんなであそぼう（ゲーム、工作）

6. 《月別在籍人数報告》

- ・湊学童保育コーナー 受け入れ可能人数 135名

1、5、6年生

	1年生	5年生	6年生	合計
4月	68	14	3	85
5月	70	13	3	86
6月	70	13	3	86
7月	70	13	3	86
8月	68	13	3	84

9月	67	13	3	83
10月	68	13	2	83
11月	69	12	2	83
12月	69	12	2	83
1月	69	12	2	83
2月	68	12	2	82
3月	68	11	1	80
合計	824	151	29	1004

- ・分室 受け入れ可能人数 70名
2年生

	2年生
4月	71
5月	71
6月	71
7月	70
8月	69
9月	68
10月	66
11月	66
12月	67
1月	64
2月	63
3月	63
合計	809

- ・湊第二学童保育コーナー 受け入れ可能人数105名
3、4年生

	3年生	4年生	合計
4月	62	29	91
5月	59	29	88
6月	58	29	87
7月	56	29	85
8月	55	28	83
9月	55	25	80
10月	55	25	80
11月	55	22	77
12月	52	21	73
1月	51	19	70
2月	51	17	68
3月	50	17	67

合計	659	290	949
----	-----	-----	-----

7. 《防災・防犯訓練報告》

- ・火災、地震、水害、防犯の何れかの訓練を月1回以上行った。

8. 《会議報告》

- ・毎月職員会議を行った。児童について、児童の関わり、作業手順の統一、学童保育の約束事の共通理解、問題点や改善点について話し合った。
長期休み期間を除いて、平日に児童館とオンラインでミーティングを行い、情報共有をした。

9. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

○報告件数

湊学童保育コーナー

令和5年度		令和6年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
3件	390件	8件	469件

○事故発生内容

- ・目の打撲

児童がふざけて蹴る真似をした際、はいていたスリッパが飛んでいき前にいた児童の目に当たった。打撲と診断。異常なし。

- ・金属製の扉で額を打った。打撲。
- ・出欠時に使用しているICカードが割り込みをした児童の目に当たった。
白目に傷。
- ・転んで腕が上がらなくなった。打撲で病院に行くと上るようになった。
- ・遊んでいて相手の目に手が当たった。白目の充血。
- ・転んでコンクリートで顔面を打った。打撲、前歯にひび。
- ・転んでコンクリートで顔面を打った。打撲。
- ・転んで床で顔面を打った。打撲。揺れていた乳歯が抜けた。

○まとめ

- ・高学年がふざけていて相手に怪我をさせることがあった。大事故につながることもあるのでしないように指導をした。
- ・転んで怪我をすることが多く、顔を打つことがいろんな場面で起こっていたランドセルを背負っているときは特に起きやすいので落ち着いて歩くように全体に指導した。

○報告件数

湊第二学童保育コーナー

令和5年度		令和6年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
1件	303件	1件	229件

○事故発生内容

- ・左目の打撲

段ボールで工作をしていて、穴を広げようと鉛筆を差し込んだところ、反対側にいた児童が穴を覗き込んだため目に鉛筆が当たった。左目角膜上皮剥離 全治1週間。

○まとめ

- ・偶然起こった出来事であるが、周りに人がいる時は周囲の状況に気を付けるよう双方に話をした。

10. 《苦情・相談結果報告》

※苦情の定義→館長・コーナー長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

湊学童保育コーナー

令和5年度				令和6年度			
	合計件数	苦情	相談		合計件数	苦情	相談
報告件数	4件	4件	0件	報告件数	10件	5件	5件

○苦情・相談内容

- ・保護者が迎えに来る児童が、1人で帰る児童のグループに間違えて入っていたが気づかずに帰らせてしまい、曾祖父の家にバスで行こうとしていたところを警察に保護された。なぜこのようなことが起こったのかという母からの苦情。
- ・分室の職員は子どもに好き勝手をさせて注意をしないのか。また、他児に意地悪をされていると言っているが注意をしないのか。
- ・来退館の通知が間違ってくるのが3回目である。仕事に影響が出るので起こらないように対応してほしい。
- ・ガムテープをふざけて自分の髪に貼り取れなくなったと申し出た児童の髪を、職員が勝手に切ってしまった。勝手に切らずに相談するべき。また、職員からの謝罪を受けたが、自分の子ども悪いといった印象を受けたので謝り方が悪い。
- ・夏休みの昼食提供の弁当を食べ終わっていないのに片付けられたと子どもが言っている。時間はかかるが本人が食べられるだけ食べさせてほしい。
- ・他児にきついことを言われて学童に行きたくないと言っている。
- ・他児とのトラブルについて電話をしたら、対応した職員の物言いに腹が立った。その職員を辞めさせてほしい。
- ・同じ児童から遊んでいるときに3回叩かれているので状況を知りたい。
- ・1人の児童に急所を触られたり、帰り道でちょっかいを出されてトイレに間に合わなかったりしたことがあったので、相手の保護者と話をしたい。
- ・1人の児童と学童でも学校でもトラブルが続くので関わらせたくない。

○まとめ

- ・ 職員の対応がもとで苦情につながっているケースが年度の前半は多かった。職員に対する指導を重ね、職員も対応についての意識が高まった。
- ・ 子ども同士のトラブルについては学童側の指導に加え、保護者にも自身の子どもの現状を理解していただけるように話を重ね対応することで理解や納得をしていただくように努めた。

○報告件数

湊第二学童保育コーナー

令和 5 年度				令和 6 年度			
	合計件数	苦情	相談		合計件数	苦情	相談
報告件数	2 件	1 件	1 件	報告件数	8 件	4 件	4 件

○苦情・相談内容

- ・ 学童からの帰り道に遊んでいて 18 時過ぎに帰ってきた。他の児童も一緒になって遊んでいるようなので注意してほしい。
- ・ 他児に暴言を言われたり、叩かれたりするるので接触させないでほしい。
- ・ アレルギー対応児童の母より、他の児童はおやつにアイスを食べていたと子どもから聞いたので、特別なおやつの際は用意をするので事前に伝えてほしい。
- ・ 玩具を取ったり首を絞めてきたりする児童がいるので指導をしてほしい。
- ・ 暴言を言ったり、お尻を見せたりする児童がいるので学童に行きたくないと言っている。
- ・ 嫌のことを言ってきたり、意地悪をしてきたりする児童がいるので相手の親と話をする場を設けてほしい。
- ・ 昼食会の弁当は食べられない食材があるので、弁当を持参すると伝えていたのに仕事中に食べなかった弁当の引き取りについて電話がかかってきて迷惑だった。職員間の伝達ができていないのではないかな。
- ・ 友達と喧嘩をした際の職員の対応に不満がある。職員に指導してほしい。

○まとめ

- ・ 児童の暴言、暴力による苦情が複数あった。職員から指導を行い、近くで見守る等して防ぐようには取り組んでいたが、複数の児童がそのような状態であったため防ぎきることができず苦情につながった。その児童の保護者にもその都度、状況を伝えていったが、聞き入れることをしない保護者もいたため対応に苦慮した。
- ・ 職員の対応に不満があったことに関しては、該当職員に聞き取りをし、指導を行った。職員に不備がない内容については、保護者に説明し理解していただいた。

1 1. 《総括》

- ・ 分室として 2 年生を空き教室で保育することになり、昨年以上に各施設の連携が難しく感じた。各場所のリーダーを決めていたが常勤職員の確保が難しく、情報の共有が上手くいっていないと感じる場面が多々あったため、リーダー会議を行うなどして改善に向けて取り組んだ。

- ・職員の対応がもとでの苦情が例年以上に多かった。確認や報連相の漏れ、保護者へ話すときの態度や言葉遣い等が原因であったため、改めて職員への指導を行った。引き続き意識、スキルの向上に努めていく。
- ・昨年に引き続き、衝動的行動をする児童が複数おり、カウンセラーの助言を受けながら対応していった。1人の児童は学年が上がり、暴言や暴力行為がエスカレートした。保護者に話をしようにも、自分の子どもをかばい職員が悪いと一方的に言われてしまうなど、退会に向けた話もできずに苦勞する時期があった。児童が落ち着いて過ごし暴力等をふるう場面を作らないようにしていく技量を持てるように努力をしていくとともに、保護者に対して毅然とした態度で対応できるようにしていく。

1. 《基本方針》

- ・利用者の最善の利益を目的とし、利用者主体の福祉サービスを提供する。
- ・母と子の権利擁護の為に、職員一人ひとりの倫理観、人間性を養い、母と子が安心して生活出来る場を提供する。

2. 《中長期計画》

- ・入所者が金銭的、精神的、社会的に自立出来る様、自立に繋がる支援をする。
また、全職員がそのヴィジョンに対し、共通の意識を持ち業務を遂行する。
- ・職員の資質向上。
- ・母子生活支援施設の認知の向上。

3. 《令和6年度報告》

- ①各入所者の自立へのプロセスを明確にし、ニーズに沿った支援をする。また、心理士を採用し、支援の質を高める。
 - ・利用者それぞれの状況に沿って、退所時期などを行政も含め、話し合い、自立に向けた支援を行った。また、令和7年度に向けて、心理士を採用する事が出来た。
- ②今後の施設の在り方を見据え、職員それぞれの個性、特性を活かした人員配置を行う。
 - ・インケアだけではなく、居場所づくり事業を開始するなど、地域に向けた取り組みを行った。また、事業を開始する上でも、職員それぞれが強みを活かし、やりがいを感じられるよう、職員の意見を尊重し、人員配置を行った。
- ③母子連盟での活動…関係機関を対象にした、施設見学、研修会開催。
施設での活動…大学を訪問し、授業を行う
 - ・母子連盟では、関係機関を対象にした施設見学、研修会を行った。施設では大学を訪問し授業を行った。

4. 《地域貢献事業報告》

- ①法人こども園の時間外保育受け入れ（20時以降）
 - ・依頼は1件のみだった。
- ②リフレッシュ保育事業
 - ・延べ50人の利用があった。
- ③アフターケア（居室訪問、相談業務、病院の付き添い、金銭管理、関係機関との連携等）
 - ・3世帯に行った。
- ④ほっとかへんネット中央との連携
 - ・研修への参加、広報活動を担った。

5. 《修繕・購入報告》

- ・水漏れの修繕を行った。

6. 《活動報告》

①研修

- ・母子関係の研修、法人内研修、施設内研修に参加した。

②広報

- ・市内の児童福祉施設で開催する就職フェアに参加した。

③学習指導

・小学生

長期休み以外（各児童週1回）…主に国語・算数を行い、個々の能力に沿って、学校の宿題プリント、ワークを用いた。

長期休み（1回30分）…夏休みの宿題を行った。

・中学生

テスト前以外（各児童週1回）…学校、塾のワークを用い、行った。

テスト前（各児童2日間連続）…テスト範囲の勉強を行った。

④健康診断

種類	職員	母親	児童
一般健康診断	年2回	年2回	年2回
検便（O-157）	月1回	—	—

⑤避難訓練

- ・消防訓練（毎月、1回）、浸水訓練（6月）、不審者訓練、地震訓練（9月）を行った。

・保健衛生

業者に依頼し、害虫駆除、各居室のエアコン清掃、排水管清掃、共有部の廊下清掃を行った。

7.《年間行事報告》

月	行事	月	行事
4	昼食会（カレーライス・プチゼリー）	10	親子エンジョイ OB会 ハロウィン
5	母子協 母と子の運動会	11	児童エンジョイ 施設内忘年会
6	害虫駆除 卓球大会	12	アイススケート招待（参加者が欠席となったため、中止） 施設内クリスマス会 昼食会（ビーフシチュー・チキンガレット・フライドポテト・ プチトマト・ブロッコリー・ロールパン・ジュース）
7	七夕 母子協 児童キャンプ 昼食会（二色丼・みそ汁・ミネジューズ） 昼食会（ハンバーグ・プチゼリー）	1	母子協 新春母と子の集い 新年会
8	料理教室招待 海釣り招待 地藏盆 個別キャンプ（巨大地震速報が発令され当日帰所） 昼食会（クリームシチュー・ロールパン・ヨーグルト） 昼食会（豚丼・みそ汁・ミネジューズ） 昼食会（カレーライス・プチゼリー）	2	節分母子協 母子協 児童スキーキャンプ
9	母子協 バス旅行（台風接近に伴い中止） 焼肉パーティー	3	ひな祭り 昼食会（カレーライス・プチゼリー） 昼食会（二色丼・みそ汁・ミネジューズ）

8. 《月間行事報告》

・月間行事

- ①母の会…月 1 回行い、行事の予定等について話した。
- ②個別遊び…月 1 回行い、食事作り等を行った。

9. 《入居者の異動利用状況》

・入居者の異動利用状況（定員…入所→20世帯、短期保護→2世帯）

月別 区分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	充 足 率
初日在籍世帯数		18	18	18	18	18	19	19	19	19	19	19	19	223	92
初日在籍人数		39	39	39	39	39	42	42	42	42	42	41	42	488	%
入所	暴力からの 逃避						1							1	
							2							2	
	経済的 理由						1							1	
							3							3	
退所	夫からの 追跡					1								1	
						2								2	

	住宅確保												2	2	
													4	4	
短期 保護	母子					1								1	58 %
						2								2	
	婦人	1	1	2	1		1	1	1	1	1	1	2	13	

(数字の上段は世帯数、下段は人数)

10. 《会議報告》

- ①職員会議、支援会議、リスクマネジメント会議、ワンアップ会議、リフレ委員会、
・毎月1回、行う。
- ②三者連絡会議
・年2回、行う。

11. 《リスクマネジメント報告》

※事故の定義…職員が付き添い、病院を受診したもの。

○報告件数

	令和5年度		令和6年度	
	事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
入所者	0 件	34 件	0 件	46 件

○事故発生内容

病院を受診する様な怪我は無かった。

○まとめ

ヒヤリハットの内容としては、職員による事務的ミスが多かった。また、在室確認漏れに関する報告も上がっており、その都度、対策を考え、職員間で共有した。

12. 《苦情・相談結果報告》 苦情の定義→施設長が状況を見て、苦情か相談かを判断する。

○報告件数

	令和5年度				令和6年度		
報告 件数	合計	苦情	相談	報告 件数	合計	苦情	相談
	1 件	0 件	1 件		6 件	6 件	0 件

○まとめ

昨年度、苦情・相談に関する報告が少なかったため、職員間で意識的に話し合い、報告するようにした。内容としては、職員の対応、生活環境に関すること、近隣からの騒音に関する苦情だった。職員の対応に関しては、未然に防げた内容もあり、適切な対応が行えるよう、会議を通し、職員間で共有した。

13. 《総括》

職員の休職や退職があり、例年より少ない職員数の中、職員それぞれが役割を担い、業務を遂行した。その中で、業務の効率化については、定期的に話し合い、実際に取り入れていった。来年度は、ICT化を促進し、より利用者の処遇に時間がかけられるよう、努めていきたい。また、処遇面において、利用者ニーズの変化に対応し、職員が共通の意識を持ち、一つ一つの支援が行えるよう、自立支援計画票や支援方法などの見直しにも努めていきたい。

1. 《基本方針》

- ・児童福祉法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき児童の人権を尊重する
- ・共同で行動することを通して、生活習慣、人間関係、思いやり等が身につくように援助する

2. 《中長期計画》

- ・地域福祉の一環として、地域のニーズに応え、利用者が安心して利用出来るサービスを提供する。また、各利用者が集団生活を通し、思いやりの心と考える力を育める様努める
- ・職員の資質向上

3. 《令和6年度報告》

- ①個別配慮が必要な児童の受け入れ等、利用者のニーズを把握し、ニーズに沿ったサービスを提供する
 - ・小規模学童の特性を活かし、個別に配慮が必要な児童の受け入れ、気象警報時の受け入れ習い事時の出入りの許可など、ニーズに沿った、サービスを提供した。
- ②今後の学童保育の在り方を見据え、職員それぞれの個性、特性を活かした人員配置を行う
 - ・子どもたちがより安心して過ごせる環境づくりを目指し、職員それぞれの個性や得意なことを活かした人員配置を行う事ができた。

4. 《地域貢献事業報告》

- ・延長保育の時間外受け入れ（19時以降）
延べ135名、受け入れを行った。

5. 《活動報告》

- ①広報
 - ・保護者、各区役所、神戸市役所こども家庭局に新聞を発行した。新聞の内容には、行事予定やお知らせ等を記載した。
 - ・新学童受け入れ説明会を行った。
- ②避難訓練
 - ・夜間想定以外、ハーバー大慈と同様に行う。
- ③保健衛生
 - ・エアコンのクリーニング、排水管清掃、廊下清掃を業者に依頼し、実施した。また、毎週金曜日（祝日、年末年始除く）、大掃除を行った。

6. 《行事報告》

年間行事

4月	お花見、昼食会（カレーライス・プチゼリー）
5月	グループワーク
6月	グループワーク
7月	個別懇談会（希望者対象）、 昼食会（二色丼・みそ汁・ミニジュース） 昼食会（ハヤシライス・プチゼリー）
8月	昔遊び、バルーンアート、水消火器訓練、映画会、交通安全教室 地蔵盆（お供えのお下がり配布） 昼食会（クリームシチュー・ロールパン・ヨーグルト） 昼食会（豚丼・みそ汁・ミニジュース） 昼食会（カレーライス・プチゼリー）
11月	グループワーク
12月	クリスマス会、もちつき、個別懇談会（希望者対象）
3月	お別れ会 昼食会（カレーライス・プチゼリー） 昼食会（二色丼・みそ汁・ミニジュース）

※月間行事

- ・のびっ慈 DAY
月1回、工作などを行った。
- ・ピラティス、たねまき寺子屋（お話し会）
月1回、講師に来ていただき、行う。

7. 《月別在籍人数報告》 定員35名

	1年生	2年生	3年生	4年生	合計	充足率
4月	10	6	7	3	26	74%
5月	10	6	7	3	26	74%
6月	10	6	7	3	26	74%
7月	10	6	7	3	26	74%
8月	10	6	6	3	25	71%
9月	10	6	6	3	25	71%
10月	11	6	6	3	26	74%
11月	11	6	6	2	25	71%
12月	11	6	6	2	25	71%
1月	11	6	6	1	24	68%
2月	11	6	6	1	24	68%
3月	11	6	6	1	24	68%

8. 《会議報告》

・学童委員会

月1回、行った。

9. 《リスクマネジメント報告》

※事故の定義…職員が付き添い、病院を受診したもの。

○報告件数

令和5年度		令和6年度	
事故	ヒヤリハット	事故	ヒヤリハット
2件	26件	0件	22件

○事故発生内容

病院を受診する様な怪我は無かった。

○まとめ

ヒヤリハットに関しては、昨年度に比べ減少したが、登下校システムに関する職員によるミスが多かった。同時に他の業務を行わないといけない際によくミスが起こっていたため、人員配置を変更するなど、対応した。

10. 《苦情・相談結果報告》

※苦情の定義…運営委員長が状況を見て、苦情か相談かを判断する。

○報告件数

令和5年度				令和6年度			
報告件数	合計	苦情	相談	報告件数	合計	苦情	相談
	4件	1件	3件		1件	1件	0件

○まとめ

苦情の1件は、職員の対応に関するもので、職員の配慮があれば防げていた内容だった。会議で話し合い、今後の適切な対応について、職員間で共有した。

11. 《総括》

今年度も、地域の利用者が安心して子育てができる環境づくりを目指し、利用者のニーズに沿った保育を行った。利用者の現況からも、小規模学童保育ならではの柔軟な対応が求められているため、職員の資質の向上や保育内容の充実を図り、放課後の安全な居場所として、安定した運営体制を構築していきたい。

1. 《基本方針》

- ・中央区の子育てコミュニティの拠点になる。
- ・親子に寄り添って支援を行う。
- ・中央区の子育て関係機関や近隣施設と積極的に連携を図る。

2. 《中長期計画》

- ・親子が安心して利用できるよう一人一人に寄り添って支援を行う。
- ・子どもが興味関心を持つよう環境を整える。
- ・「おやこふらっとひろば中央」を知っていただくように積極的に広報を行う。

3. 《令和6年度報告》

- ①中央区こども福祉課や保健師、関係課と密な連携を図り、子育て支援を行った。
 - ・中央区こども福祉課係長、保健師、保育サービスコーディネーターとの情報交換会を行った。
 - ・保健師や保育サービスコーディネーターにイベントの講師をしていただいたり個別相談を行っていただいたりした。
 - ・毎月、妊娠中の方の見学&相談会を開催し、保健師による個別相談や情報提供を行った。出産後、ふらっとひろばを利用されている方が徐々に増加している。
 - ・子育てに困っている保護者や疲れている保護者には、保健師と繋げられるよう連携を図った。
- ②中央区における子育てに関する課題を抽出し、対応できるように企画した。
 - ・双子、三つ子の保護者同士、外国にルーツを持つ子どもの保護者同士を繋げるようにイベントを行い、コミュニティ作りのお手伝いができた。
 - ・孤立している保護者に子どもの年齢の近い保護者と話ができるよう促した。
 - ・イベント時に保護者同士が話ができるよう「お喋りタイム」を設けた。
- ③一人一人に寄り添って子育て相談に応える。
 - ・どの保護者とも話をし、特に子育てに困っている人には十分時間を取って応えた。
- ④子どもの興味関心のあることを見極め、玩具を始めとする環境を整える。
 - ・子どもの様子をよく観察し、必要な玩具を用意した。
- ⑤広報活動を積極的に行う。
 - ・お家におられる方にも情報が届くよう、SNSの活用等行った。
 - ・母子手帳を受け取りに来られた妊娠中の方や4か月健診の時に保健師からパンフレットを渡していただいた。
 - ・近隣施設にもパンフレットを置いていただいた。
 - ・4か月健診、1歳6か月健診時に、ふらっとひろばの職員が出向き、手あそび等「おやこふらっとひろば中央」の広報をした。
- ⑥職員全員で情報を共有し、親子が安心していられるようにする。
 - ・保護者からの情報は全職員で共有し、全員が同じように支援ができるよう取り組んだ。
 - ・職員会議時に、全員で情報を共有できるよう、心がけた。

4. 《行事報告》

年間行事

月	行 事
4月	0歳タイム・1歳2歳タイム（ふれあい遊び）、お食事相談会、バースデー、音楽あそび、東遊園地・こども本の森神戸連携プログラム、三宮図書館連携プログラム パパフェス、絵本講座
5月	0歳タイム、1歳2歳タイム（運動あそび）、お食事相談会、バースデーフォト講座、双子三つ子プログラム、三宮図書館連携プログラム、パパフェス、音楽あそび
6月	0歳タイム・1歳2歳タイム（感触あそび）、お食事相談会、バースデーフォト講座、歯科衛生講座、三宮図書館連携プログラム、保育サービスコーディネーター相談会、妊娠中の方の見学&相談会 パパフェス
7月	0歳タイム・1歳2歳タイム（夏まつり）、お食事相談会、バースデーフォト講座、三宮図書館連携プログラム、保育サービスコーディネーター相談会、ベビーヨガ、木の玩具であそぶ、赤ちゃんフェスティバル、KIITO連携プログラム パパフェス、感触あそび
8月	0歳タイム・1歳2歳タイム（ふれあいあそび）、お食事相談会、バースデーフォト講座、三宮図書館連携プログラム、家庭内事故防止講座、看護師による熱中症予防講座、保育サービスコーディネーター相談会、妊娠中の方の見学&相談会 パパフェス、こども園であそぼう
9月	0歳タイム・1歳2歳タイム（運動あそび）、お食事相談会、バースデーフォト講座、三宮図書館連携プログラム、外国にルーツをもつ家庭のプログラム 連絡棟竣工記念イベント、パパフェス、絵具あそび
10月	0歳タイム・1歳2歳タイム（ハロウィンパーティー）、お食事相談会、バースデーフォト講座、三宮図書館連携プログラム、保育サービスコーディネーター相談会 妊娠中の方の見学&相談会、東遊園地・こども本の森神戸連携プログラム パパフェス、小規模保育園の運動会に参加しよう
11月	0歳タイム・1歳2歳タイム（こども本の森 神戸連携プログラム）、お食事相談会 バースデー、フォト講座、三宮図書館連携プログラム 感染症予防講座、妊娠中の方の見学&相談会、パパフェス、音楽あそび
12月	0歳タイム・1歳2歳タイム（クリスマスパーティー）、お食事相談会 バースデー、フォト講座、三宮図書館連携プログラム、妊娠中の方の見学&相談会、パパフェス、クリスマスあそび
1月	0歳タイム・1歳2歳タイム（ふれあいあそび）、お食事相談会、バースデーフォト講座、双子・三つ子プログラム、三宮図書館連携プログラム、KIITO 連携プログラム、パパフェス
2月	0歳タイム・1歳2歳タイム（手作り玩具）、お食事相談会、バースデーフォト講座、三宮図書館連携プログラム、保健師による父親参加プログラム パパフェス、離乳食講座
3月	0歳タイム・1歳2歳タイム（こども本の森 神戸連携プログラム）、お食事相談会 バースデー、フォト講座、三宮図書館連携プログラム、パパフェス、こども園であそぼう

5. 《令和6年度 利用人数一覧表》

○利用人数

	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳以上	大人	合計
4 月	292	304	104	10	702	1412
5 月	313	249	81	3	666	1312
6 月	303	209	99	2	615	1228
7 月	290	301	101	14	697	1403
8 月	277	329	118	30	748	1502
9 月	277	304	94	5	667	1347
10 月	324	308	145	4	771	1552
11 月	287	281	85	8	663	1324
12 月	245	311	102	10	653	1321
1 月	253	307	116	3	693	1372
2 月	253	279	108	6	642	1288
3 月	270	323	89	13	682	1377
合計	3384	3505	1242	108	8199	16438

○居住地別利用 組数

中央区	灘区	東灘区	兵庫区	長田区	須磨区	垂水区	北区	西区	市外
3691	608	475	234	51	150	98	207	85	741

○子育て相談件数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
407	399	380	382	352	307	317	276	302	259	227	276	3884
(2)	(2)	(2)	(0)	(2)	(2)	(6)	(0)	(0)	(0)	(6)	(2)	(24)

* () 保健福祉課（保健師）に繋いだ件数

○頻度 組数

新規	再来
1441	4902

6. 《リスクマネジメント報告》

○報告件数

令6年度	
事故	ヒヤリハット
0 件	48 件

○リスクマネジメントまとめ

- ・親子で一緒にいるので、大きな怪我はなかった。
- ・0歳1歳の子どもが、利用している子どもの80%を占めているので、バランスを崩しての転倒や打撲が多かった。
- ・危険のないように、保護者と共に見守り安全に遊んでいただけるように配慮する。
- ・連絡棟と渡り廊下で繋がったので、今まで以上に不審者に気を付けなければならなくなった。各部が始まったら、扉を閉めるようにした。

7. 《苦情・相談結果報告》。

○報告件数・・・1件

○まとめ

神戸市の「わたしから神戸市への提案」に投稿された件

1. 予約しなくても行けるようにしてほしい

回答（担当課と協議をした）

ひろばが狭い上に、生後1か月位の赤ちゃんも来ることがあるので、危険の無いように人数制限を続ける。

来ただけといっぱいで入れないということがあれば、子どもが可哀想なので、確実に入れるように予約制を続ける。

人数、状況を踏まえて、臨機応変に対応する。

2. イベントの時、市外の方が予約し、市内の方が参加できないことがあった。

回答（担当課と協議をした）

他区も市外の方がイベントに参加されることがあるということなので、全市で検討し統一していただくよう神戸市に申し入れをした。

8. 《総括》

- ・令和6年度は16,500人ほどの利用だった。
- ・お家で子育てをしている保護者が子育てのちょっとした相談する所がない現状だと感じている。少しでも子育ての不安や心配事が吐露でき、的確に支援や行政に繋がれることができるよう努めたい。
- ・中央区役所の関係課との連携がスムーズに進み、保健師とも積極的にイベント等を企画・実践した。
中央区保健師主催の育児休業中の父親への子育て支援をふらっとで始めた。
- ・「こども本の森 神戸」「東遊園地」「クリエイティブセンター神戸（KIITYO）」と連携したイベントも2年続き、今後も継続的に行う予定である。
その結果、中央区の中心地の再開発に向け、子育て世代が集える充実した街作りの一員となっていると感じている。
- ・「おやこふらっとひろば中央」で大慈厚生事業会を認知していただき、こども園や小規模保育園の入園、「たちばな児童館」の利用にも繋がっていると感じている。
- ・今後も中央区で安心して子育てができるよう、関係者がチームとなり、子育て支援の輪を広げていく。そして、利用している保護者の方一人一人に寄り添って、子育て相談を始めとした子育て支援を行っていくよう努める。

令和6年度 事業報告書

事業所内保育事業 大慈さくら保育園

1. 《ヴィジョン》

世代を超えた関わりのもと、安心して自分を出せる子どもを育てる

2. 《基本方針》

- ① 高齢者との多様な関わりを通して、思いやりの心を育む
- ② 自然との関わりを通して、多様な経験をする
- ③ 子どもが安心して生活できるように、保護者との連携を図る

3. 《最終目標》

心・和み・笑顔 ～世代を超えた関わり、誰からも愛される園を目指します～
「いつでも前向き」「私はあなたで、あなたは私」「共に楽しみ、共に笑う」
・全ての人々の心を大切にします
・全ての人々の和を大切にします
・全ての人々が笑顔になれる場所にします

4. 《中長期目標》

- ① 保育理念に基づいた保育を職員で共通理解し、実施する
- ② 子ども、保護者に寄り添い、共に子育てをする

5. 《令和6年度計画》

- ① 老人施設事業所内保育の特性を活かし、高齢者との交流を定期的を実施する

4月から園児が各階へ高齢者を訪問する計画を実施した。感染症が流行する季節には、積極的な訪問を控えることとなったが、訪問する中で、子供たちのことを覚えていただいている高齢者の方、またご家族の方に散歩の途中で声を掛けていただき、手を振ってくださるような自然な交流に繋がった。
今後も続けていきたいと考えている。

- ② こどもの国籍の多様化に対応するために、外国籍の保護者とのコミュニケーションを深める努力をし、こどもが安定して園生活を過ごせるようにする

今年度は保護者が少し日本語を話せることもあり、姉も来園していたため信頼関係はできていた。難しい言い回しに気をつけながら、わかりやすい言葉で十分なコミュニケーションを取ることが出来たと感じている。

6. 《月行事計画》

月行事	頻度
お誕生日会	毎月1回

発育測定	毎月 1 回
特養高齢者との交流会	毎月 2～4 回

7. 《年間行事》

月	行 事	月	行 事
4 月	入園式・進級式	10 月	園外保育
5 月		11 月	
6 月	2 歳児 園外保育	12 月	クリスマス会
7 月	七夕まつり	1 月	正月あそび
8 月	花火大会（特養と合同）	2 月	豆まき
9 月		3 月	お別れ会・お別れ遠足

8. 《防火防災計画》

①運営に関する基準に準じ毎月の防災訓練を実施する

月行事	頻度
防災訓練（避難及び消火訓練）	毎月 1 回
防犯訓練	年 3 回
安全チェック	毎月 1 回
事故対応訓練（SIDS・誤飲・アレルギー対応）	随時

②訓練や設備点検等、大慈智音園の防火防災計画と連動を図る

<例：大慈智音園防火防災計画>

月	内容
4 月	消化器使用期限確認 防災マニュアル確認 避難訓練 不審者対策
5 月	高圧電気点検 避難訓練
6 月	災害連絡網確認
7 月	避難訓練 不審者対策 消火訓練
8 月	図上避難訓練 消防設備点検
9 月	空調点検
10 月	災害食使用訓練
11 月	不審者対策 地震シェイクアウト訓練 災害連絡網訓練
12 月	空調点検
1 月	図上避難訓練 地震シェイクアウト訓練
2 月	消防設備点検
3 月	不審者対策

9. 《リスクマネジメント報告》

令和 5 年度			令和 6 年度		
合計件数	事故	ヒヤリハット	合計件数	事故	ヒヤリハット
25	0	25	32	0	32

○リスクマネジメントまとめ

園児数が少ない事もあり、これまでは怪我はありませんでした。ヒヤリハットをもう少し拾い上げ職員全員で情報共有を行い、連携して未然に事故を防ぐ努力をしていきたいと考える。

9. 《令和6年度在籍園児数》

年齢 (定員)	0歳児 (1人)	1歳児 (3人)	2歳児 (8人)	合計 (12人)
4月	0	1	0	1
5月	0	1	0	1
6月	0	1	0	1
7月	0	1	0	1
8月	0	1	0	1
9月	0	1	0	1
10月	0	1	0	1
11月	0	1	0	1
12月	0	1	0	1
1月	0	1	0	1
2月	0	1	1	2
3月	0	1	1	2
合計	0	12	2	14

10. 《苦情・相談報告》

・担当者を明記し随時受け付け口頭・書面で上司へ報告し敏速で確実な対応を行う。

令和5年度			令和6年度		
合計件数	苦情	相談	合計件数	苦情	相談
0	0	0	0	0	0

○苦情相談まとめ

保護者と個別にじっくり話す機会と時間がとれているので、相談事などもその都度解決できしており、毎日が個別懇談の様なコミュニケーションが出来た。少人数運営の良い所でもあると思うので、今後も家庭との連携を大切にしていきたいと考える。

11. 《幼保連携型認定こども園 神戸潤和保育園との連携》

- ・保育内容の支援（巡回指導・相談等・代替え保育）
- ・集団保育の体験機会（行事参加または屋外遊び場の利用等）
- ・地域枠で入所される児童（3歳以降）の連携・調整
- ・給食の搬入

○まとめ

今年度は1歳児だけの入園となり、昨年の経験から考えると、1歳児の交流は難しいと思う面がありました。加え、春は花粉や黄砂の影響、夏は気温が高い日が続く、秋から冬には感染症の流行等の影響を受けることを考えると、積極的な交流を実施することは、難しいと判断し、実施していない。今後、2歳児の入園があれば、再度、計画をしたいと考える。
尚、食事に関しては連携を図れている。

1 2. 《保健衛生計画》

項目	頻度等
園児・職員定期内科健康診断	園児 春秋年2回 職員 春年1回
園児歯科健診	年1回
園児発育測定	月1回 胸囲測定(年2回)
園児検尿	年1回
保育従事者の検便	月1回 (6月～9月は月2回)

1 3. 《総括》

今年度も、少人数である事の強みを活かした年齢・月齢に個々に対応する保育が実施できた。高齢者施設との交流も何回かでき、子ども・高齢者の双方が笑顔になれる良い機会になったと感じる。

園児の保護者とのコミュニケーションについても、兄弟も来ていた事もあり、随分とスムーズに情報交換が出来た。

子どもの人数が少ないので、前年度に引き続き、職員の配置体制を含めた柔軟な受け入れ態勢を整えていく事を検討していくこととする。